国立国語研究所学術情報リポジトリ

全国方言談話データベース　日本のふるさとことば集成：第20巻 鹿児島・沖縄

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002260

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第20巻　鹿児島・沖縄

国立国語研究所資料集　13-20

国立国語研究所
2008

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて，「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が，文化庁によって実施されました。調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていました。その後，時を経て，この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は，文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで，国立国語研究所では，受け継いだ資料を有効に利用するために，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始しました。平成８～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で，平成13～17年度には「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」により，平成18年度からは，「日本語に関する蓄積資料の整備」プロジェクトの一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また，データベース化にあたっては，平成９～18年度に科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けました。従来にはあまりなかった，音声と文字化の電子化データを備えていますので，研究や教育に活用いただけることと思います。なお，本資料集の作成については，情報資料部門資料整備グループの井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては，全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として，多くのみなさまから御協力を得ました。また，各都道府県教育委員会の関係者，および，有志の御助力がありました。刊行にあたって，記して深く感謝の意を表します。

平成20年３月

独立行政法人
国立国語研究所長　杉戸　清樹

利用にあたって

1. 内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	
鹿児島県揖宿郡頴娃町 1977			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【戦時中回顧談，青年団の活動】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf＋方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	
沖縄県国頭郡今帰仁村 1978			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【年中行事】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf＋方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

沖縄県平良市 1978

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【お正月の話】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf＋方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		

各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
waveファイル，ステレオ

CD-ROMは，CDプレイヤーで再生しないでください。CDプレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点に御配慮のうえ，お使いください。

2. 著作権

この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータの著作権は，国立国語研究所にあります。

3. 利用条件

利用にあたっては，以下の利用条件をすべて守ってください。

(1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。

(2) この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータは，どのような目的においても，また，どのような媒体（紙，電子メディア，インターネットを含む）によっても，他人に再配布しないでください。

(3) この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータは，非営利の教育・研究目的に限り，自由に利用できます。ただし，上記(2)は守ってください。

(4) この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は，

「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」

などのように，明記してください。

あわせて，成果物を国立国語研究所に御寄贈いただければさいわいです。

(5) 以上の利用条件に合致しない場合，あるいは，利用について不明な点がある場合は，国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒190-8561
東京都立川市緑町10-2
国立国語研究所 情報資料部門
「全国方言談話データベース」係
FAX：042-540-4339

4. 付記

データの電子化，CD-ROM，CDの作成については，平成9(1997)～18(2006)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-20

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第20巻 鹿児島・沖縄

目次

刊行のことば ……3
利用にあたって ……5

Ⅰ．鹿児島県揖宿郡頴娃町1977……11
　地図……12
　話者・担当者……13
　解説……14
　凡例……20
　談話……25
　【戦時中回顧談，青年団の活動】 ……26
　注記 ……112

Ⅱ．沖縄県国頭郡今帰仁村1978 ……113
　地図 ……114
　話者・担当者 ……115
　解説 ……116
　凡例 ……122
　談話 ……127
　【年中行事】……128
　注記 ……184

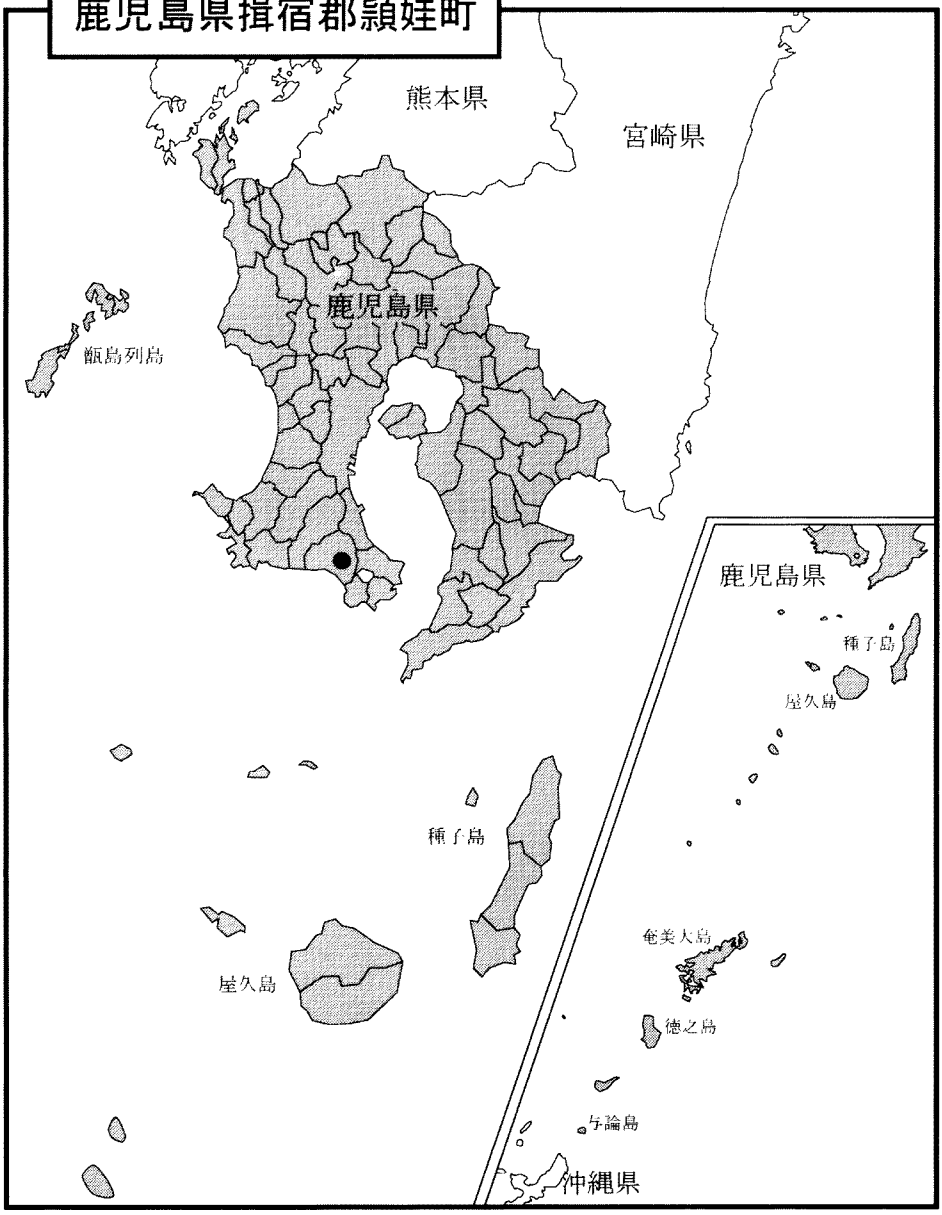
Ⅲ．沖縄県平良市1978 ……189
地図 ……190
話者・担当者 ……191
解説 ……192
凡例 ……197
談話 ……202
【お正月の話】……203
注記 ……239

作成・公開の経緯 ……243
「各地方言収集緊急調査」について……245
「各地方言収集緊急調査」地点一覧……249
「各地方言収集緊急調査」地点地図……254
各地方言収集緊急調査補助全体計画 ……255
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項 ……256
各地方言収集緊急調査実施要領 ……257
各地方言収集緊急調査の実施について ……260
調査実施上の留意事項について ……262
「全国方言談話データベース」について……268

Ⅰ.鹿児島県揖宿郡頴娃町

1977

鹿児島県揖宿郡頴娃町



鹿児島県揖宿郡頴娃町1977話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	飯山 仲右ェ門
	堀之内 スマ
	堀之内 隆
収録担当者	（不詳）
文字化担当者	（不詳）
共通語訳担当者	（不詳）
解説担当者	（不詳）

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	木部 暢子
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

鹿児島県揖宿郡頴娃町1977解説

収録地点名　鹿児島県揖宿郡頴娃町牧之内飯山

収録地点の概観

位置

頴娃町は，薩摩半島の最南部に位置し，鹿児島市からは南に約50kmの距離にある。東は揖宿郡開聞町，北は揖宿郡喜入町，西は川辺郡知覧町に隣接し，南は東シナ海に面している。

交通

枕崎，指宿，鹿児島を結ぶ国道226号線が，頴娃町の南部海岸地帯を東西に走っている。また，この国道を起点として五つの県道が頴娃町の各部を通り，隣接の町と結んでいる。鉄道は，西鹿児島駅を起点とする指宿枕崎線が通っている。

地勢

町の東部から西部にかけて，標高500m前後の丘陵が広がる。また，西部一帯はゆるやかで広大な畑作地帯を形成している。気候は，温暖多雨ではあるが，水資源に乏しく，干害・台風も多い。

行政区画

1889(明治22)年の町村制施行に伴い，頴娃郡頴娃村が成立。1896(明治29)年，頴娃郡が揖宿郡に編入され，揖宿郡頴娃村となる。1950(昭和25)年に町制を施行して頴娃町となり，現在に至る。

戸数・人口

1975(昭和50)年9月現在，世帯数5,469戸，人口18,808人である。

産業

頴娃町は，火山灰性の土壌であることもあり，サツマイモ・麦・ナタネの栽培が農業の中心であった。これらの生産量も，1965(昭和40)年を境に減少に転じている。その後，茶・タバコ・漬物用大根・園芸・畜産などを柱に農業経営の規模が拡大されつつある。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

鹿児島県の方言は，薩隅方言（鹿児島県本土，長島）・甑島・種子島・屋久島・トカラ諸島などの島嶼部）と，奄美方言（奄美大島・喜界島・加計呂麻島・徳之島・沖永良部島・与論島などの島嶼部）とに二分される。薩隅方言は本土方言の一つに，奄美方言は琉球方言の一つに分類される。頴娃町の方言は薩隅方言に属する。

音韻

（1）「エ」は「イェ」となる。

イェイ（頴娃）

イェッ（枝）

ナイェ（苗）

スィトイェ（単衣）

（2）長母音の短母音化が見られる。二重母音が長母音化したものも短母音化する。

ソツ（焼酎）

ゲッキュ（月給）

デコン（←デーコン←ダイコン）（大根）

ウェダ（←ウェータ←ワイタ）（湧いた）

ヤセ（←ヤセー←ヤサイ）（野菜）

チェ（←チェー←タイ）（鯛）

（3）頭高の一拍語は語末が長めに発音される。

コー（子）

スィー（日）

チー（血）

（4）開音「アウ」は「オ」，合音「オウ」は「ウ」となる。

コ（買う）

ソダン（←サウダン）（相談）

ウカジェ（大風）

キュ（今日）

（5）イ列音とウ列音の混同が見られる。

フト（人）

チイェ（杖）

（6）四つ仮名の区別が保たれている。

ジ（字）

ヂ（痔）

ズット（ずっと）

ヅキン（頭巾）

（7）「セ，ゼ」「テ，デ」は「シェ，ジェ」「チェ，ジェ」となる。

シェナガ（背中）

ジェンブ（全部）

ソシチェ（そして）

ソジェ（袖）

（8）合拗音「クヮ，グヮ」が見られる。

ネックヮ（眠い）

オックヮ（重い）

グヮイコク（外国）

（9）語中・語尾の促音化が見られる。

クッ（口）

クッ（靴）

カッ（柿）

キッニェ（狐）

ヤッバ（役場）

カッムン（書き物）

アッナガ（危ない）

ネックヮ（眠い）

イッ　ヒト（行く人）

(10) 語末の「ギ，グ」「ヅ」「ニ，ヌ」「ビ，ブ」「ミ，ム」が撥音化する。

スン（杉）

コン（漕ぐ）

ミン（水）

ベン（紅）

イン（犬）

ナスン（茄子）

トン（飛ぶ）

ミン（耳）

スン（住む）

(11) 語末の「ジ，ズ」は拍全体が無声化する。

クヮシ（火事）

スス（鈴）

ズス，スス（数珠）

(12) ラ行子音のダ行音化が見られる。

ディン（←リン）（鈴）

ジュー（漁）

ジューキュー（琉球）

ジョーホー（両方）

(13) ラ行子音の脱落が見られる。

ツイ（釣り）

ヌイバイ（縫い針）

イロヌイ（色塗り）

クイマ（車）

(14) 語中・語尾にガ行鼻濁音が聞かれる。ガ行鼻濁音は共通語の有声音に，ガ行音は共通語の無声音にほぼ対応する。

ナカ゜（名が）

ナガ（ない）

ケコ゜ゾ（蚕）

ケゴ（稽古）

(15) 拗音の直音化が見られる。

イッスー（1升）

サシン（写真）

イサ（医者）

ズッ（数珠）

ザマ（じゃま）

（16）ナ行音が拗音化する。

ニェゴ（猫）

フニェ（舟）

マニェ（真似）

イロニュイ（色塗り）

（17）語中・語尾の有声化現象が著しい。

オドゴ（男）

イゲ（行け）

ケゴ（稽古）

シェナガ（背中）

アクセント

語末から2番目の拍が高い語（A型）と，語末の拍が高い語（B型）がある二型アクセントである。B型の語末は，鹿児島市方言のように急激に上昇せず，ゆるやかに上昇する。

A型	鼻	ハナ	鼻が	ハナカ°
	風	カゼ	風が	カゼカ°
	石	イシ	石が	イシカ°
	川	カワ	川が	カワカ°
	橋	ハシ	橋が	ハシカ°
B型	花	ハナ	花が	ハナカ°
	糸	イト	糸が	イトカ°
	箸	ハシ	箸が	ハシカ°
	雨	アメ	雨が	アメカ°
	秋	アキ	秋が	アキカ°

薩隅方言においては，撥音・促音・長音などは単独の拍を構成しないため，実際の発音においては上記以外の型が現れるが，必ずA型かB型に解釈され，音韻的には例外とはならない。

A型	音	オン	音が	オンカ゜
	十	トー	十が	トーカ゜
	鳥	トイ	鳥が	トイカ゜
B型	犬	イン	犬が	インカ゜
	塀	ヘー	塀が	ヘーカ゜
	鯉	コイ	鯉が	コイカ゜

文法

（1）下二段活用動詞が見られる。

ウクッ（受ける）

ナガルッ（流れる）

（2）共通語のサ行五段活用動詞の下二段化が見られる。

ケセダ（消した）

（3）一段活用動詞のラ行五段化が見られる。

オギラン（起きない）

ミレ（見ろ）

（4）「～ガナル」が可能を表す。

キガナランギャッタ（来ることができなかった）

（5）理由を表す接続助詞として，「ギェ」を用いる。

ブッシガ　ナガタッギェ（物資がないのだから）

キチャオランギャッタギェ（来ていなかったから）

（6）逆接を表す接続助詞として，「ドン」「バッチェン」「バッ」を用いる。

クイコギャ　キタタッドン（来ることは来たけれど）

ソイニャ　イダバッチェン（それには行ったけれど）

ヨイカデナ　コンバッ（寄合には行かないけど）

（7）「ギュッ」が帰着点を表す。

カワシリギュッ　イッコ゜ッタヨ（川尻まで行っていたよ）

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。）

鹿児島県揖宿郡頴娃町1977凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下2段を1組として示した。上段が方言談話音声の文字化，下段がその共通語訳である。ただし，方言の語形と共通語の語形が必ずしも1対1で対応しない場合もあり，方言の語形と共通語訳とがずれている場合もある。

方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造などは，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味の取りやすさを優先して処理をした部分がある。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中に，話し相手のあいづちや同じ単語の繰り返しなどが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

文字化については，ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所に句点を打った。ただし，実際の発話では，一文の終わりがわかりにくい場合もある。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

　　そうです。　そうです。

、（読点）　　〈全角〉

文字化については，基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所に読点を打った。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，

意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

↓　〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ　ヤッタンダナー↓

よく　やったんだなあ。

（　）　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時に同意を示したり，さえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように，開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話として扱ったあいづちに近い発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　〈全角〉

笑い，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

［　］　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある再生の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「鹿児島01-1」はCDトラック番号が01で，その1ページ目ということである。「鹿児島01-1」「鹿児島01-2」……「鹿児島01-5/02-1」……「鹿児島18-4」のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。↑01, 01↑02, ……17↑18, 18↑のように表示される。

第20巻のCD（64分53秒）には，鹿児島県揖宿郡頴娃町の談話，【戦時中回顧談，青年団の活動】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間：分：秒
01	p. 26・ℓ. 1	p. 30・ℓ. 5	00：01：58
02	p. 30・ℓ. 7	p. 34・ℓ. 5	00：02：00
03	p. 34・ℓ. 7	p. 38・ℓ. 19	00：02：04
04	p. 39・ℓ. 1	p. 42・ℓ. 15	00：02：03
05	p. 42・ℓ. 17	p. 47・ℓ. 3	00：02：00
06	p. 47・ℓ. 5	p. 52・ℓ. 5	00：02：01
07	p. 52・ℓ. 7	p. 57・ℓ. 1	00：01：59
08	p. 57・ℓ. 1	p. 62・ℓ. 9	00：02：02
09	p. 62・ℓ. 11	p. 67・ℓ. 1	00：02：00
10	p. 67・ℓ. 3	p. 72・ℓ. 1	00：02：01
11	p. 72・ℓ. 3	p. 78・ℓ. 5	00：02：03
12	p. 78・ℓ. 5	p. 83・ℓ. 13	00：01：58
13	p. 83・ℓ. 15	p. 86・ℓ. 1	00：01：06
14	p. 86・ℓ. 3	p. 90・ℓ. 3	00：02：00
15	p. 90・ℓ. 5	p. 96・ℓ. 15	00：02：01
16	p. 96・ℓ. 17	p. 102・ℓ. 19	00：02：05
17	p. 103・ℓ. 1	p. 108・ℓ. 5	00：02：00
18	p. 108・ℓ. 7	p. 111・ℓ. 9	00：01：08
計			00：34：29

鹿児島県揖宿郡頴娃町1977談話

収録地点　　鹿児島県揖宿郡頴娃町牧之内飯山（かごしまけんいぶすきぐんえいちょうまきのうちいいやま）

収録日時　　1977(昭和52)年 8 月22日

収録場所　　鹿児島県揖宿郡頴娃町牧之内　飯山公民館

話題　　戦時中回顧談，青年団の活動

話者

A	男	1902(明治35)年生	(収録時75歳)	農業
B	男	1892(明治25)年生	(収録時85歳)	農業
C	女	1909(明治42)年生	(収録時68歳)	農業

収録時間（CD）　　34分29秒

【戦時中回顧談，青年団の活動】

話し手

A	男	1902(明治35)年生	(収録時75歳)
B	男	1892(明治25)年生	(収録時85歳)
C	女	1909(明治42)年生	(収録時68歳)

1 A：ソイデー　エー　ダイイッカイノ　ショーシューワ　ニジュー、
それで　ええ　第1回の　召集は　20

↑01

モトイ　ジューニネンノ　ヒチガツノ　ジュヒチニッカ、
もとい　12年の　7月の　17日か

ソイガ　ダイイッカイヂャッタガナ。（B　アー）
それが　第1回だったかな。（B　ああ）

ソイガ　ダイイッカイノ　ショーシュー
それが　第1回の　召集

ソイデー　ソントッ　ワカ゜エンムラガラ
それで　その時[は]　わが村から

ショーシューサレタトカ゜　イノイチコ゜ーカ゜
召集されたのが　第1号が

X1クンヂャッタロカ゜ヨ。　ソイデ　ソイカラ　シェンシモ
X1君だったろうがね。　それで　それから　戦死も

X1クンガ　ダイイチコ゜ーギャッタワケネ。
X1君が　　第１号だったわけね。

2 B：ギャッタカモ。
そうだったかも。

3 A：ウ　ソイカラ　ゾクゾク　ソラ　ダイチュワ　　モー
×　それから　ぞくぞく　ほら　だれというのは　もう

ハッキリ　オボイエンバッ　ショーシューカ゜　ヤッテキテ
はっきり　覚えていないが　召集が　　やってきて

エー　ミンナ　ナイシタワケナ。ソイデ　シェンシシャワ
ええ　みんな　そうしたのだ。　それで　戦死者は

4 B：モー　X2ナンダ　　カイグンギャッタ。
もう　X2なんかは　海軍だった。

5 A：アー　カイグンナ　アイギャッタロヨ
ああ　海軍は　　あれだったろうよ

X3クンガ　ヒトイギャッタロヨ。＊＊＊＊
X3君が　　一人だったろうよ。　＊＊＊＊

6 B：X2モ　ギャッタトヨ。
X2も　そうだったよ。

7 C：X2サンモ　ギャッタトヨ。カイグンワ
X2さんも　そうだったよ。海軍は

8 A：エー　X2ガ　オイワゲナ。
　　ええ　X2が　いるのよ。

9 C：X2サンガ　ゲン　ゲンエキデ　＊＊＊
　　X2さんが　××　現役で　＊＊＊

10A：ウン　X2ャ　ゲンエキデ　イッタワケヂャナ。
　　うん　X2は　現役で　行ったわけだね。

11C：ハイ
　　はい

12A：アー　ソーカ。
　　ああ　そうか。

13B：アイカ゜チャ　ウチャ　ゲナフーヂャッタガ
　　あの人の　家は　どんなふうだったか

　　X2カ゜　オドッヂャ　X4ヂャッタケ。
　　X2の　弟は　X4だったっけ。

14C：X5サン。
　　X5さん。

15B：X5サン。
　　X5さん。

16A：X5ワ　カイグンヂャナガッタヤロ。
　　X5は　海軍ではなかっただろう。

17B：アヤ　　リッグン。
　　あれは　陸軍。

18A：アヤ　　リッグン　イッタロカ゜ナ。
　　あれは　陸軍[に]　行ったろうが。

19B：オー
　　はい

20A：デー　　リクグンデ　アヤ　　ナンネンノ　コロヤッタロガニ。
　　それで　陸軍で　　あれは　何年の　　頃だったろうかな。

21B：オボエヂョラン。
　　覚えていない。

22C：オボエンナ　　モー。
　　覚えていない　もう。

23A：オボエンヂャ　コラニー。
　　覚えていない　これはね。

24C：アン　イマ　＊　ヤッタッガナ。　アスコン　ノーコツドーノ　＊＊＊
　　あの　今　　＊　だったけどね。　あそこの　納骨堂の　　＊＊＊

25A：ウン　ウン　アスケナ　　ソスット　　センシシャカ゜
　　うん　うん　あそこには　そうすると　戦死者が

　　フタイ　オット。
　　二人　　いるの。

26B：フタイ
　　二人

27A：フタイナ　（B　アー）　フタイ　オッ　トコヤ
　　二人か　　（B　ああ）　二人　　いる　ところは

　　イクケネモ　アイメ。
　　幾世帯も　　ないだろう。

01↑02

28B：アヒコン　ヒトケネヂャッド。
　　あそこは　一世帯だよ。

29C：イーヤマ　ヒトケネ。
　　飯山[に]　一世帯。

30A：ヒトケネヤロ　ヒトケネヂャッタロ。
　　一世帯だろう　一世帯だっただろう。

31B：X6　X3ワ　アイヂッタンヂャハラ
　　X6　X3は　あれだったのだね

　　X7ダッ　　イッヂャシ　ドーキューヤッタト。
　　X7たちと　一時　　同級だったのだ。

　　X8ヂャレチ　ウンニャ　X9サン。
　　X8やらと　　いや　　X9さん。

32A：アー　X9サンカ。
　　ああ　X9さんか。

33B：オー
そう

34A：X9サンナ　ショーシューヨ。
X9さんは　召集よ。

35B：ショーシューヂャッタバッ　イッヂャシ
召集だったけれども　　一時

ビョーキオ　シヤッタトヂャッタ。
病気を　　したのだった。

36A：イッドギヂャッタロ。
一時だっただろう。

37B：アー　アレヤッタカモ　＊＊＊＊＊＊　ドーヤッタカ。
ああ　そうだったかも　＊＊＊＊＊＊　どうだったか。

ソイガラ　X10モ。
それから　X10も。

38A：X10ワ　モー　ムガシ　タイショー
X10は　もう　昔　　大正

タイショーナンネンヂャッタガ　タイショー
大正何年だったか　　大正

チョード　タイショー、ヒチハチネンヂャラセンヂャッタロガ
ちょうど　大正7、8年ではなかっただろうか

アタイカ゜　カコ゜イメ　　オッ　トッヂャッタデ
私が　　鹿児島[市]に　いる　時だったから

マダ　（B　ウン）　ショセーノ　ウヂ　アダイカ゜
まだ　（B　うん）　書生の　　頃　　私が

ゲシュクヂュー　カヂヤチョーニ　アダシャ　オッタカ゜
下宿中　　加治屋町に　　私は　　いたが

ゲシュクギー　X11オヂヤ　　X10オヂヂャッチュー
下宿まで　　X11おじさんや　X10おじさんたちは

アスッケ　キオッタンヂャ　ニチヨービン　ヒワ
遊びに　　来ていたんだ　日曜日の　　日は

39B：エン
ほう

40A：イシッノ　レンペーヂョーガラ。ソイヂェー　ソンタ　モー
伊敷の　　練兵場から。　　それで　　それは　もう

タイショーネンカンヨ　ソラ。
大正年間よ　　それは。

41B：エン
ええ

42C：ニッシジヘンガ　ハジマッテカラコッチオ
日支事変が　　始まって以後を

ユトゴイヂャットガイ　　イマ。
言っているところだったが　今。

43A：ヂャッド
そうだ

44C：ショーワノ　ジューニネンヂャッタデナ。
昭和の　　12年だったからな。

45A：ソーヨ。ソイデ　ナイカ゜　ソイカイ　マー
そうよ。それで　どうして　それから　まあ

ワゲダケ゜ン　ムラデ　ナンニン　ショーシューサレダガ
うちあたりの　村で　　何人　　召集されたか

ソゴントゴカ゜　ハッキリ　シチョランバッ　アー
そこのところが　はっきり　していないけど　ああ

X12ドワー
X12さんは

46B：X12ワ　ナンクゥイモ　イチェ　モー。
X12は　何回も　　行って　もう。

47A：ナンカイモ　ショーシューオ　ウケダ。
何回も　　召集を　　受けた。

48B：ゴホーコーワ　クゥブンヂャッチュ。
ご奉公は　　過分だ[＝十分だ]そうだ。

49C：X12サンナ　ショーシューヤッタゲナー。
　　X12さんは　召集だったそうだな。

50A：X12サンニャー。
　　X12さんは。

51B：ニドガ　サンド　オッタタッヂャロ。
　　2度か　3度　いたんだろう。

02↑03

52A：マンキジョタイニ　ナッチョタヤ　ナッチョタンバッチェン
　　満期除隊に　なっていたら　なっていたのだけど

　　ソゼッ　X13オヂカ゜
　　そして　X13おじさんが

　　ムゲメ　イダットゴイヂャナカ゜ッタガ。
　　迎えに　行ったところではなかったか。

　　カコ゜イマン　イシキレンペーヂョーニ　ジョ
　　鹿児島[市]の　伊敷練兵場に　××

　　アシタ　ジョタイヂャッ　チューテ
　　明日　除隊だ　といって

　　ソン　マエン　ヒ　ムゲメ　イダヂョッタヤ
　　その　前の　日　迎えに　行っていたら

　　ヒキツヅイテ　ショーシュー、サレテ。
　　引き続き　召集されて。

53B：ヒキチヂッカ　ニクゥイカ　サンクゥイドマ　イダッ
引き続いてか　2回か　3回くらい　行って

モー　X12ワ。
もう　X12は。

54A：モドッキタゲー。　モー　ゲンエッカラ
帰ってきただろうか。もう　現役から

ヒトチュレヂャッタモン。
引き続きだったもの。

55B：ンドッキチェカラ　モ　イッド　アイダラ
帰ってきてから　もう　一度　空いたら

ソイデ　サンカイ　ナッタカモ
それで　3回[に]　なったかも[しれない]

イーグチカ゜　モー　ゴホーコーワ　クゥンブンヂャッ
言い方が　もう　ご奉公は　十分だ

チューダチ。
と言ったって。

56A：ウン　ソンタ　ソエン　ハナシヂャッタカ゜。
うん　それは　そういう　話だったよ。

57B：ユーコッヂャッタカ゜　イッダ　ンドッキチェ　イダカモ。
言うことだったが　一度は　帰ってきて　行ったかも。

58A：ウン　ヂャッタロヨニー　　ソンタ
うん　そうだっただろうね　それは

ソン　　キオッガ　ナカ゜モン。（C　アー）
そんな　記憶が　　ないもの。（C　ああ）

ヒトチュレ　ズートヂャラセンヂャッタガ。
引き続き　　ずっとではなかったか。

59B：ヒトチュレ
引き続き

60C：ゲンエッカラ　ズーット　ヒトチュレヂャラセンヂャッタガ。
現役から　　ずっと　　引き続きではなかったか。

（B　＊＊＊＊）　＊＊＊＊　キカンヂャッタ。
（B　＊＊＊＊）　＊＊＊＊　聞かなかった。

61A：ウン　ヒトチュレヂャッタカモ
うん　引き続きだったかも

62B：ウン　ソイヂャッ　ゲンエッカラ　ヒトチュレ
うん　それでは　　現役から　　引き続き

ジューニネンバッカイ　オッタロコ゜タル。
12年ばかり　　いたようだ。

63A：ヂャッド。
そうだよ。

64B：ソイヂェ　X12カ゜　クゥンブンヂャッ　チュ
それで　X12が　十分だ　と

ユダッチュロヨ。
言ったのだろうよ。

65A：ヂャッド　ムカシ　X14カ゜　カブンヂャッ　チュ
そうだよ　昔　X14が　十分だ　という

ハナシヂャッタハラ
話だったね

ソイデー　アダズカ゜　ショーシューサレテ
それで　私が　召集されて

チョード　アン　ブショーチュー　トゴイ　オッテ
ちょうど　あの　武昌という　ところに　いて

ブカンサンチンノ　コーリャクセンデ　ブショーン　オッテ
武漢三鎮の　攻略戦で　武昌に　いて

アオトン　イマ　ハイシャドンノ　X15サンヨ
青戸の　今　歯医者さんの　X15さんよ

ハラ　アイモ　ヒトッ　ブタイヂャッタ。
ほら　あの人も　同じ　部隊だった。

66B：エーン
ええ

67A：ソッタラ　アー　X15サン
そうしたら　ああ　X15さん

ヨンジューゴレンタイノ　シカ゜　ダイイッシェンカラ
45連隊の　人たちが　第一線から

サカ゜ッキチョッ　チューヨーナコトデ
退いてきている　ということで

X15サンガ　イダッミダワケ
X15さんが　行ってみたのだ

ソシタヤ　X12カ゜　ホション　タッチョタチヨ。
そうしたら　X12が　歩哨に　立っていたそうだ。

68B：エーン
ええ

69A：ソシタヤー　アン　X12クンカ゜　ソラ　X15サンニ
そうしたら　あの　X12君が　ほら　X15さんに

オマヤ　イヤマン　X16サントコト
「あなたは　飯山の　X16さんのところと

ナイカヂャラセンカ　コー　ユダチュ。
なにか[＝親戚]ではないか」[と]こう　言ったそうだ。

70B：エーン
ええ
03↑

71A：ソセッ　オンヂヂャイカ゜　オンヂヂャイカ゜　チュ
そして「おじさんだが　おじさんだが」　と[言うと]
↑04
ヂャロ　ガッチュイ　X16サン　ミーコ゜ヂャイカ゜
「そうだろう　まるで　X16さん[を]　見るようだ」

チュ　ユダチュ。
と　言ったそうだ。

ソイカラ　X15サンカ゜　アダシ　コインコインヂャッタ
それから　X15さんが　私[に]　こうこうだった

チュ　モドッキチェ　イッカセダトヂャ。
と　帰ってきて　教えたのだ。

ソイデー　アダイモ　イダッミダト　ソシタヤ
それで　私も　行ってみたら　そうしたら

マダ　イットーヘーデ　ホション　タッチョッタ。
まだ　一等兵で　歩哨に　立っていた。

ソイ　X12ワ　ソイヂャッタカモ
その　X12は　それだったかも

ズーット　ヒキツヅイテ　アイヂャッタカモ。
ずっと　引き続いて　あれだったかも。

72B：ネンカ゜　ドーガヂャイカ゜
年が　どうかだが

ジューニネンガラ　ゴワ　　ヒトチュレヤッタカ。
[昭和]12年から　　あとは　引き続きだったか。

73C：ソン　クキリガ　ソゲナガヤ　ソン　ゴホーコーワ
その　区切りが　そのように　その　ご奉公は

カツモ　ショーシュージェン　コンニャ
／／／　召集でも　　来なければ

ソン　ゴホーコーワ　クゥブンチュ　ユーメゲナ
その　ご奉公は　　十分と　　言わないだろう

ズーット　センチサエ　イダッタトワ
ずっと　　戦地へ　　行ったのは

ナンクゥイヤッタロガ。
何回だっただろうか。

74B：ガッチュ。
本当に。

75A：センチサメ　イダッカダワ　イッカイナー　　テ　オモーンヨ。
戦地へ　　行ったのは　　1回ではないか　と　思うのだよ。

76B：イッカイヂャッタカモ。
1回だったかも。

77C：トッベッ　ヒトン　コッヂャッヂェ　オボエン。
特に　　人の　　ことだから　　覚えていない。

78B：ウン。 ソガン　　ドコン　シニモ　ソナコト　　イワレン。
うん。 そのように　どこの　人にも　そんなこと　言えない。

79C：アー　ヂャドナ。
ああ　そうだろうね。

80B：ウン　カッタ　ンドッキタゴッヂャッタ　ソイヂェ。
うん　確か　　帰ってきたようだった　　それで。

81C：ズット　コーアイナラナ　（B　ウン）　ゲンエッカラナ。
ずっと　このようならば　（B　うん）　現役からね。

82B：ヤッパイ　オレワ　ソイオ　キッダサンヂャッタ　（C　ハイ）
やはり　　私は　　それを　聞き出さなかった　　（C　はい）

アッチデ　コー　コー　イワナネ　　ト
あちらで　こう　こう　言わなければね　と

83A：ホントーワ　ウセン　ソイバッソラ　（B　＊＊＊＊）
本当は　　きっと　そうだから　　（B　＊＊＊＊）

ヒトチュレ
引き続き

84B：ヂャッタゴッモ　　アッドニー。
そうだったようでも　あったね。

85C：ヒトチュレ　ゲンエッカラ　ズート　ソコ
引き続き　　現役から　　ずっと　そこ

カコ゜シマニ　オッテ　ソシテ　ソン　マー　アッチニ
鹿児島[市]に　いて　そして　その　まあ　あちらに

ワダランニャ　ナランヂャッ　ナランコ゜ッ　ナッ
渡らなくては　×××××× ならないように　なって

ソン　ゴホーコーワ　クッブンヂャッ　チュタトゴヂャロガ。
その　ご奉公は　十分だ　と言ったところだろうか。

86B：ウン　ソー　ユダ　チュコッヂャッタニー。
うん　そう　言った　ということだったね。

87C：ハイ　モドッテキタモンヂャ　ナガドナ。
はい　帰ってきたことは　ないのではないのか。

88A：モドッチャコンダッタロ　モドッチャコンヂャッタカモ。
帰ってはこなかったろう　帰ってはこなかったかも[しれない]。

89B：モドッタカモシレン　ソエンヂャッタロ。
帰ったかもしれない　そうだったろう。

90C：オボエンド。
覚えてない。

[04↑05]

91B：ネンカ゜　ウガッタヂェ　ドシコガンテ
年が　多かったから　いくらかの

オンキュ　カガッチョッタッヂャロー
恩給[が]　かかって[＝支給されて]いただろう

92A：カガッチョットヨ。
　　かかっているのよ。

93B：X17ドンノ　ドシコヂャイカ　イッカセン。
　　X17たちが　どのくらいか　　教えない。

　　ワガランドダイ　アイドンガトワ。
　　わからないよ　　あの人たちのは。

94A：ドヒコヂャドガヨ　オイダモ　ヒタンバッ。
　　どのくらいかね　　私たちも　知らないけど。

95B：アイト　フタイカ。　カガッチョッタ。
　　あれと　二人か。　　支給されているのは。

96A：X18モ　ヂャラセンカ。
　　X18も　そうではないか。

97B：ウン　X18カ゜ヂャ　（A　ウン　X18カ゜）　X18カ゜　＊＊
　　うん　X18がだ　　（A　うん　X18が）　X18が　＊＊

　　アダイカ゜トワ　ソーヂャ。
　　私の家の者は　　そうだ。

98A：X19オヂワ　　アイヂャッタヂャニー
　　X19おじさんは　あれだったからね

　　エー　ショーワジューサンネンノ　ゴ　ナンガッカ。
　　ええ　昭和13年の　　×　何月か。

99C：ゴカ゜ツ。　ショーシューワ
　　5月。　　召集は

100A：ゴカ゜ツ　ゴカ゜ツヂャラセンヂャッタゲー
　　5月　　5月ではなかっただろうか

　　アンシワ　　ナンギオ　シタヨ。
　　あの人たちは　難儀を　　したよ。

101C：ナンギオ　セッ　マッテマッテ
　　難儀を　　して　まことにまことに[＝本当に]

102A：ヒャクロクノ　アン　（B　＊＊＊＊＊＊＊）
　　106[部隊]の　　あの　（B　＊＊＊＊＊＊＊）

　　ヒャクロクヂャッタンヂャハラ　トクアンノ　ウカイサクシェンデ
　　106[部隊]だったのだね　　徳安の　　迂回作戦で

　　ヨンヂューゴレンタイワ　ホーイオ　セラレッ
　　45連隊は　　包囲を　　されて

　　ホトンド　ゼンメツノ　ヂョータイ　モー　ナッチョッタトヂャ
　　ほとんど　全滅の　　状態[に]　　もう　なっていたんだ

　　ソイデー　マー　ソイバッ　キンクンニュ　モロダトワ
　　それで　　まあ　しかし　　金勲を　　もらったのは

　　X19オヂガ　　ヒトイヂャッタ。
　　X19おじさんが　一人だった。

103B：エーン。
ええ。

104C：ソノ　キンクンモ　ナンヂャ　タメニャ　ナッチョラン
その　金勲も　　なんにも　ために　　なっていない

ナン　イヂリン。アン　サイケンガ　ワダチョッタバッ
なに　1厘。　　あの　債券が　　渡っていたけれど

マッデ　マッデヂャッタ。
まるで　まるで[だめ]だった。

105B：X3ガトモ　サイケンガ　イッチョッタバッ
X3のも　　債券が　　入っていたけれども

イッドガ　ニドガ　モロヂョッタ　モー　トヤゲッ　　ナッタ。
1回か　　2回か　もらっていた　もう　取り上げに　なった。

106A：サイケンニャ　モー　ナイナラントヤッタワニー。
債券は　　もう　なんにもならなかったね。

107B：ソシタワ　　アドワ　イチジキ　イチジキンデ　キタワ
そうしたら　あとは　××××　一時金で　　来たよ

（A　アー　アー）ソシタヤ　ヨガッタワ。（A　ンー）
（A　ああ　ああ）それで　　よかったよ。（A　うん）

マダ　ソセッ。
また　そうして。

108C：イチジキンモ　モロエンデ。
　　一時金も　　もらえないで。

109B：マダ　ソイノアデ。（A　イチジキ）
　　まだ　そのあとに。（A　××××）

110C：ソセッ　イギッ　ソセッ　イギッチョイ　シナ　　ハラ
　　そして　×××　そして　生きている　　人には　ほら

　　コンド　ニネンマエガ　アン
　　今度　　2年前か　　あの

　　ギンノ　サカヅキガ　ワダッタチナ。
　　銀の　　盃が　　贈られたそうだよ。

111A：ウン　ウン。
　　うん　うん。

112C：ソシテ　X20サンガダイニモ　レンラクカ゜　アッテ
　　そして　X20さんの家にも　　連絡が　　あって

　　シテ　　アシコニ　イマ　ミンノモドン　X21サンナ。
　　そして　あそこに　今　　水之元の　　X21さんね。

113A：アーン。
　　ああ。

114C：アンヒトガ　カガイヂャッタッヂャ　ソゲー　タニュゲイ
　　あの人が　　係りだったので　　そこへ　訪ねに

イダッミダド。　ソシタラ　セイゾンシャダゲ
行ってみたのよ。そうしたら　生存者だけ

115A：セイゾンシャダゲ　（C　ハイ）　ヂャタワゲニー。
生存者だけ　（C　はい）　だったそうね。

05↑06

116C：ソセッ　キンクンワ　モー　ナエヂャイバ　ソラ
そして　金勲は　もう　しまっていれば　それは

モー　ナンヂャ　モー。
もう　なんにも[ならない]　もう。

アイバッカ　アッチューバッカ。
あるだけ　あるというだけ。

117A：ヂャットヨ。
そうだよ。

118C：ショーショト　キンクンダキャ　アイコヂャアイバッナ
証書と　金勲だけは　あるようだけどな

（A　ウン）　ナンギワ　セッ　マ　イメ　ナレバ
（A　うん）　難儀は　して　まあ　今に　なれば

マー　ゴホーコーヂャッタタイバナ。
まあ　ご奉公だったのであればね。

119A：ウーン。
うん。

120C：ソセッ　モー　ショーワニジュー　テーセンノ　トシノ
そして　もう　昭和20[年]　停戦の　年の

アン　ヤマガワニ　オッタ　トッモナ　モー
あの　山川に　いた　時もね　もう

121A：マダ　ヤマカ゜ワエ
まだ　山川に

122C：モトワ　ヂャナガッタ　チュゴッタバッナ
もとは　そうでなかった　というようだったね

ソイデ　モー　ソレモ　アイスイ
そして　もう　それも　////

ケーサンニ　イルイゴッナッタチュッセーナ
計算に　入れるようになったそうでね

アン　ハルムッノ　ハラ　X22サンナ。
あの　春向の　ほら　X22さんね。

123A：ウーン。
うん。

124C：アンヒトガ　アゲン　シテ　イロイロ　セックレタバッ　モー
あの人が　あのように　して　いろいろ　してくれたけど　もう

ムイカバッカイ　ヒガ　タランヂャッタワイ　オンキューニ。
6日ほど　日が　足りなかったよ　恩給に。

125A：ウー　ボーエータイ　ボーエタイニャ
うん　防衛隊　　防衛隊には

Bオンヂガ　　イカンヂャッタガ。
Bおじさんは　行かなかったか。

126B：ボーエタイニャ　イガンヂャッタ。
防衛隊には　　行かなかった。

127A：イガンダッタ。
行かなかった。

128B：オヤ　ダイニー
私は　第2

129A：ウンニャ　アオトン　ボーエータイヨ。
いや　　青戸の　　防衛隊よ。

130B：アオトン　ボーエータイニャ　イガンヂャッタ。
青戸の　　防衛隊には　　行かなかった。

131A：イガンヂャッタ　（B　ウン）　ウンーナ
行かなかった　　（B　うん）　それでは

ケイボーダンニナー　ハイッチョッタワゲヂャニー。
警防団には　　入っていたのだね。

132B：ケイボー　ソイニャ　イダバッチェン　ソノ　ボーエータイニャ。
警防　　それには　行ったけれど　　その　防衛隊には。

133C：ヤッパイ　ソン　カコ゜シマン　レンタイト　イロイロ
やはり　その　鹿児島[市]の　連隊と　いろいろ

コー　レンラクオ　トッテ　カコ゜イメモ　イダッ
こう　連絡を　とって　鹿児島[市]にも　行って

イロイロ　シタトヂャッタバッナ　ハラ　ソイデ
いろいろ　したのだったけれどもな　ほら　それで

ボーエータイチュトガ　マン　フツーノ　コー
防衛隊というのが　まあ　普通の　こう

アオト　アイコアダイノ　ボーエータイトワ　チコ゜ダワゲ。
青戸　あそこあたりの　防衛隊とは　違ったのだ。

134A：ソンタ　チコ゜ダワゲ　（C　ハイ）　ソンタ　マー
それは　違ったのだ　（C　はい）　それは　まあ

グンノ　チョッカツニ　アッタワゲ。
軍の　直轄に　あったのだ。

135C：アーン　ヂャッタドナ。
ああ　そうだっただろうね。

136B：X22ガ　シタ　コツガ　アッタガ　＊＊
X22が　した　ことが　あったが　＊＊

カガランヂャッタワガ
／／／／／／／／／／／

137A：X19オヂノ　アンタ　モー　グンノ　アイヂャッタワゲ
X19おじさんの　あれは　もう　軍の　あれだったのだ

（B　ウン）　コン　ボーエータイワ　チョクセツ
（B　うん）　この　防衛隊は　直接

グンノ　アイヂャ　ナカッタヤロガ　（B　ウン）
軍の　あれでは　なかっただろうか　（B　うん）

アオトン　ボーエータイワ。
青戸の　防衛隊は。

138C：ソセモ　コン　ゲンエキガ　タイワンヂャッタローカ゜ナハラ
そしてまあ　この　現役が　台湾だったろうがね

ソイモ　タイショーナンネンカノ
それも　大正何年かの

タイショーナンネンヂャッタガナ。
大正何年だったかな。

ジューイチガツマデニ　ジューイチガツマデニ
11月までに　11月までに

カエッタ　ヒトニワ　ソノ　イチジキンカ゜
帰った　人には　その　一時金が

サガイバッチェン　チューセー　（A　ウン）
贈られるけど　といって　（A　うん）

アン　カンムンニュ　　モッチイダ　　マン
あの　書き物[＝書類]を　持っていった　まあ

ナッダゲ　チュッセー　アイ　　セダバッ
なるだけ　と言って　　あれ[を]　したけど

イッコー　　オドワ　　ナガドナ。
いっこうに　音沙汰は　なかったね。

[06↑07]

139A：X23オヂモ　　ソイン　　ユオッタド　　X23オヂワ。
X23おじさんも　そのように　言っていたよ　X23おじさんは。

140B：タイワンヘンワ。
台湾あたりは。

141A：X23オヂワ　　タイワンヘンヂャッタゲヂャナガッタノー。
X23おじさんは　台湾あたりだったようでなかったね。

142B：ヂャッタロカ゜。
そうだったろうよ。

143A：ナイガ。
そうではないよ。

144C：X23アンサンワ　　ソノ　アドガイヂャッタカモ。
X23おにいさんは　その　あとからだったかも。

145B：アドガイカ　タイワン
あとからか　台湾

146A：タイワンニ　イタゲー。
台湾に　　行ったか。

147B：ウン　イダ　　イダ　　ソイデ　ソレモ　シラベテ
うん　行った　行った　それで　それも　調べて

アンタ　X22ケー　ダイケヨー。
あれは　X22か　　だれかよ。

148C：X22サン。
X22さん。

149B：コノ　トイシラベゲー　キタバッ。
この　取り調べに　　来たよ。

150A：ソイモ　アイガ。
それも　あれが。

151B：X22ヂャッタ　シラベタバッ。
X22だった　　調べたけれども。

152A：タランヂャッタトゴイヂャロ。
足りなかったのだろう。

153B：ヂャッタンヂャ　ソラ。　ナンドカ　ヤッセンヂャッタ　チュ
そうだったのだ　それは。何度か　　だめだった　　と

カダイゴッタガ。
話していたよ。

154A：ウーン
うん

155C：コシタトモ　マン　ノサランヂャッタワゲ。
こうしたことも　まあ　不運だったのだ。

156A：ウン
うん

157B：X24ダ　ワガエデー　アイ　ショッタバッ
X24たちは　自宅で　あれ[を]　していたが

ヨガ　カイグンノター　リレッショガ　アッヂェソラニー
よい　海軍の　履歴書が　あるからね

ソイオ　モッチョッタヂェ　ホラ　マチガイワ　ネワチュ。
それを　持っていたので　ほら　間違いは　ないそうだ。

158A：フーン　グンタイテチョーヂャッド　ソラ。
ふん　軍隊手帳だよ　それは。

159B：オー
おお

160C：グンタイテチョーモ　アダイモ　トッチャトヨ　マー。
軍隊手帳も　私も　保存していたよ　まあ。

トッチョッサエ　X22サンニ　タノンヂョイワゲ　イマワ。
保存していて　X22さんに　頼んでいるのだ　現在は。

161B：ヨガトガ　アッヂェ　イッキ　ハッサギニワ
いいのが　あるので　すぐ　いちばん先には

モロワンヂャッタ。　バッチェン　X6モ
もらわなかった。　だけれども　X6も

オシカッタンヂャロハラニー　アドガイヂャッタヂャニー
遅かったのだろうな　あとからだったからね

X3ヨッカイ　アドガイヂャッタロ。
X3よりか　あとからだったろう。

162A：ソーラ　アドガイヂャッタニー。
それは　あとからだったね。

163B：ウン　X6モ　モドッカイ。
うん　X6も　帰ってから。

164A：X6ャー　アシケー　チュシ　イダヂョッ
X6は　あそこへ　中支[に]　行っていて

モドイ　マラリヤオ　ヤッテ。
帰り[に]　マラリヤを　やって[＝かかって]。

165B：ウン
うん

166A：ソイカラ　モー　アッチオ　シュッパッシタ　チュ
それから　もう　あちらを　出発した　という

レンラクカ゜　ウチニ　アッタバッチェン　イッコー
連絡が　自宅に　あったけれど　いっこうに

モドッチャコンモンヂャッヂェ　ゲッセン
帰ってこないものだった　////

ドーナッチョッタロガイ　チュ　ユッ　ユゴッタラ
どうなっていただろうか　と　××　言っていたら

トチューデ　シャンハイカ　ナンキンカ　ニ　ノ
途中で　上海か　南京か　×　の

ビョーインニ　ニューインニュ　シチョオッチェ。
病院に　入院を　していたそうだ。

167B：ウーン。
うん。

168A：ソレカラ　モドッキタワゲ。ソシター　タマタマ
それから　帰ってきたのだ。そうしたら　たまたま

マンダ　マラリヤガ　サイハツオ　シテ　トートー
また　マラリヤが　再発を　して　とうとう

マラリヤデ　ケシンダンヂャハラニー
マラリヤで　死んだのだよ

169B：ケシンダ。
死んだ。

170C：マー　ソノ　アイガハラナ　クスリオ　ソン
まあ　その　あれがね　　薬を　　その

07↑08

ナコ゜　ナッチョレバ　ソン　コーカモ　ウシカ　チュトゴイヂェ
長く　なっていれば　その　効果も　薄い　ということで

クスリオ　ヨーケイ　ノンダワケナー。
薬を　たくさん　飲んだのだね。

171A：ソー　ソー　ソー　ソー
そう　そう　そう　そう

172C：ハー　ソシタラ　モー　ジブンヂェ　シマッター　チ
はあ　そうしたら　もう　自分で　しまった　と

ユダ　チュコッヂャイナ
言った　ということだな

モー　メカ゜　カスンデ　ミエンコ゜ッナッタ　チュッセーナ
もう　目が　かすんで　見えないようになった　と言ってね

173B：ハイムッノ　X25チュ　オヂワ　タマシキッヂャッタナ
春向の　X25という　おじさんは　利口者だったな

マンキ　ナッタヤ　グワイガ　ワイカ　チェ
満期[に]　なったら　具合が　悪い　と言って

ソイガ　モ　ナンニッカ　シタヤ
それが　もう　何日か　したら

イッキ　オンキュン　　カカッタ　　チュ
すぐ　　恩給に[＝を]　支給された　という

オヂヂャッダヂャニー
おじさんだったのだね

174A：エー
ええ

175C：マーン　アダイゲンシドガ　トゴイヤ　マー
まあ　　私の主人たちの　　ところは　まあ

ソン　ソイクサ　ロージンノシヂャッタロガナ
その　それこそ　老人たちだったろうよ

ホンノ　オンヂョブタイノ　シハラ
本当の　老人部隊の　　人たちよ

176A：ヨー　ヂャッタトヨ。
うん　そうだったよ。

177C：＊＊＊　ホンノ　オンヂョブタイノ　シヂャッタンヂャナー
＊＊＊　本当の　老人部隊の　　人たちだったのだね

178A：ヒャクロクワ　モー　オンヂョブタイヂャッタトヨ
106[部隊]は　もう　老人部隊だったよ

179C：ハー
はあ

180B：エー
ええ

181C：ア　ソイヂェ　アッチ　　オッ　ソン　チューシガラ
あ　それで　　あちらに　いて　その　中支から

イッショニ　イダ　　シカ°　チューシガラ
一緒に　　行った　人が　中支から

モドッタ　　シモ　オッタ
帰ってきた　人も　いた

ホタラ　　オマガイノ　　シヂャッチュ
そうしたら　[その人は]尾曲の　人だそうだ

ソセッ　アダイゲンシワ　ナイチサエ　　ヤラレッ
そして　私の主人は　　内地のほうに　行かされて

ソセッ　　モー　チョード　オンキューノ　スレスレノ
それから　もう　ちょうど　恩給の　　すれすれの

アン　ヒカ°　キタヤ　モー　ソン　オンヂョブタイノ　シワ
あの　日が　来たら　もう　その　老人部隊の　　人たちは

ゼンブ　モドラセダ　チュコッヂャッタナ
全部　　帰らせた　　ということだったね

182A：ソイヂャッタ　ソイヂャッタワゲ
そうだった　　そうだったのだ

183C：アー　ソン　チェサッヂャッタ　チュコッヂャッタチュハラナ
ああ　その　手先だった　ということだったそうだね

オンキュン　カガイカ　カガランノ
恩給に　かかるか　かからないかの

チョード　マギワニ　ソン
ちょうど　間際に　その

184A：ショーシューカイジョオ　シタワゲ
召集解除を　したのだ

185C：ハイ　ニェッカイ　モドラセダチュ　{笑}
はい　全部　帰らせたそうだ　{笑}

フガ　ワイカトヨ
運が　悪かったのだよ

186A：ソンタヂャッタトヨ　ソイヂェ　オセナ　シワ
そうだったよ　それで　年をとった　人たちは

ニェッカイ　ショーシューカイジョオ　シタタッヂャハラ
全部　召集解除を　したのだよ

187B：ヨロクンドッタロ
喜んでいただろう

188A：ヨロクン　モドッタトヨ　モドイコヂャ
喜んで　帰ったよ　帰ることだ

189B：ソイバッ　コーユー　ジキナレバ　マイットッ　オッチェン
しかし　こういう　時期なので　もうしばらく　いても

ヨガッタタラ。　メヂュラシ　ゼンニュ　フド
よかったのだよ。　たいへん　お金を　たくさん

モロガー　ナッタヂャホラ。
もらえるように　なったのだよ。

190A：マーン　ソン　ボークーエンシューナンダ　ヤッパー
まあ　その　防空演習なんかは　やはり

ブラクデモ　アッタゲー。
集落でも　あったか。

191C：アー　フジンクヮイノ　シモハラナ
ああ　婦人会の　人たちもね

バケヅュ　モッキチェッ　ソセッ　リレーオ
バケツを　持ってきて　そして　リレーを

バケツノ　アイヂェ　ミズオ　ズット　トイチンデ
バケツの　あれで　水を　ずっと　とりついで

ヒッカカレンナラ
引っかけられなければ

192A：ウーン　アッタローヨー　ボークーヂュキンノ　カブッシェナ。
うん　あったろうよ　防空頭巾を　かぶってね。

193C：ハイ
はい

194A：ウン　オイドモ　ユー　ナイシチョランモンヂャッデ
うん　私たちも　よく　知らないものだから

ユー　ワカランヂャ　ホラ
よく　わからないのだ　ほら

195C：モー　サンヂューナンネンニ　ナッヂェナ。
もう　三十何年に　なるからね。

196A：オボエンド。
覚えていないよ。

08↑09

197B：ソーナランモンヂャッタ。
そうならないものだった。

198A：ソシチェ　ソン　ボークーゴーワ　イマ　Bヂゲン
そして　その　防空壕は　今　Bおじさんの家の

ココン　ココト　アシケ　アッタゲー。
ここの　ここと　あそこに　あったよ。

199C：アダイゲン　ヒカ°シ　アッタ。
私の家の　東[に]　あった。

200A：ヒガシ　アッタワニー。
東[に]　あったよ。

201C：X26オヂサンガ　チョード　ウヅッ　アン　ハラ
X26おじさんが　ちょうど　移って　あの　ほら

イゲラレッ　アシケ　　ウエガラ　ドサッ　　キチッ。
埋められて　あそこに　上から　　どさっと　来て。

202A：チュッカ゜。
土が？

203B：エーン。
ええ。

204C：ソセッ　イゲラレカガッタトヨナ。
そして　埋められそうになったのよね。

205B：エーン
ええ

206A：ソインゴッガ　アイゲリャ。
そんなことが　あるようだ。

207C：ハイ。　コー　コノジガタニ　ホッチャッタヂャハラニー。
はい。　こう　コの字型に　　掘ってあったからね。

208A：ソー　ソー
そう　そう

209C：ウン。　ソシテ　モー　ソン　ガッチュ　マーン
うん。　そして　もう　その　本当に　　まあ

ヨージガ　アッチェ　ワガエサン　ハシッ　モドックレバ
用事が　あって　自分の家に　走って　帰ってくれば

オッシャンガ　ナイゴッカ　モー　ヒコーキガ　＊＊＊　チュ
奥さんが　「何事か　もう　飛行機が　＊＊＊」　と

カンソーバ　ウシトセー　マワッ　モドッ　トギー
乾燥場[の]　後ろへ　回って　帰る　時に

ガラエダ　コヂュ　オボエチョッド。
叱られた　ことを　覚えているよ。

210A：モー　アン　ビーニジュークカ゜　ヘンタイヂェ
もう　あの　B29が　編隊で

ヤックッ　トガ　ソラ　ワッゼガッタニー。
やってくる　時は　それは　たいへんだったね。

211B：アー
ああ

212C：ニーサンガ　ケシンナ　ソセッ　クヤミ　イッゴッタト
おにいさんが　死んでね　そして　お悔やみに　行っていたところ

ソシタ　ソイクサ　ニジッキドマ　アッタカモナ。
そうしたら　それこそ　20機くらいは　あったかもね。

213B：アラ　ソン　イッキ　キタヂャハラニー。
あれは　その　すぐ　来たのだね。

214C：アー　ソセッ　ソゲ　　セイマイノ　アシケ
　　ああ　そして　そこの　精米[所]の　あそこに

　　カグレダ　コヂュ　オボエチョット。
　　隠れた　　ことを　覚えているよ。

　　ワンゼガッタニャ　ハラ　　モー。
　　たいへんだったね　あれは　もう。

215A：オカ゜　イブスンノ　チホージムション　ヨージカ゜　アッテ
　　私が　指宿の　　地方事務所に　　用事が　　あって

　　チホージムション　イダッ　モドイヨッタヤ
　　地方事務所に　　行って　帰っていたところ

　　シェンタンハシノ　アシコニ　ガッチュ
　　仙田の橋の　　あそこに　たいへん

　　アシコワ　シェンタハシノ　アスケナ　　ハイノッガ
　　あそこは　仙田[の]橋の　　あそこには　ハゼノキが

　　ズット　ドーロワギー　アッ　トゴヂャイガハラ
　　ずっと　道路ぎわに　　ある　ところだがね

　　アスコ　　ガッチュ　スレズレ　　ヤッキタカ゜
　　あそこ[で]　ちょうど　すれすれ[に]　やってきたよ

　　ソンコロワ　ジテンシャヂャッタドダイ
　　その頃は　　自転車だったのだよ

イブスキ　イッカデモ　ジテンシャヂェ　モドイゴッタヤ
指宿[に]　行くのでも　自転車で　　帰っていたら

ガッチュ　スレズレ　　カゴン
ちょうど　すれすれ[に]　かがむ[と]

スウーッ　キタカ゜ヨ　ギヂューソーシャオ　ヤッテ
スーッと　来たよ　　機銃掃射を　　やって

オヤ　モ　　ジテンシャワ　ソゲ　　ナケ゜ヂェ
私は　もう　自転車は　　そこに　投げて

アン　ハイノンノ　シタセー　トックンダ
あの　ハゼノキの　下へ　　飛び込んだ

ソノ　ショイダンヌ　カワシリニ　ナケ゜テ　ソントッ
その　焼夷弾を　　川尻に　　投下して　その時

カワシリヤ　ゼンショーシタタッヂャ。
川尻は　　全焼したのだよ。

216B：エーン
ええ

217A：ソンヒヂャッタト　ソヤ　　ワッゼガッタトヨ。
その日だったよ　　それは　たいへんだったよ。

（B　＊＊＊）　（C　＊＊＊）
（B　＊＊＊）　（C　＊＊＊）

マゲイッサヂャッタッバッチェン
負け戦だったけれども

09↑10

マー　ミンナ　ハヂュンヂョタトヨニ。
まあ　みんな　一生懸命だったのよね。

218C：ヂャッタドナー。
そうだったよね。

219A：アー。
ああ。

220B：マゲダヂェ　ヨガッタ　チュ　イユヂョラ　　イマ。
負けたから　よかった　と　　言っているよ　今。

221A：マー　ソニン　　イユ　ヒトモ　オイ。
まあ　そんなに　言う　人も　　いる。

222B：オッド。
いるよ。

223C：カダンニャナラン　チュトゴイ　　ミンナ
勝たねばならない　というところ　みんな

イッショケンメーヂャッタハラ。
一生懸命だったよ。

224B：マーン　エンサ〔1〕オ　カッタ　ヘイタイ　＊＊＊
まあ　　えんさを　　確か　　兵隊　　＊＊＊

225C：ガッチュ　セダイノ　ハダゲー　イダヂョッタヤ
本当に　瀬谷の　畑に　行っていたら

マーン　ナイ　タマヂャッタロ　ダマ　ンナ
まあ　なあ　弾だったろう　××　××

スーッチュ。
スーッと[来て]。

226A：タマヂャッタ　タマヂャットヨ。
弾だった　弾だったのよ。

227C：イットッシタヤ　オイヲンタゲン　イダッ
一時したら　折尾の岳に　行って

ドカーンチュ　オドカ°　シタデナー　ワッゼカッタヨハラ。
ドカーンと　音が　したからね　たいへんだったよね。

228B：アガン　フトガ　タマニャ　ガッチュイ
あんなに　大きな　弾には　本当に

シューチ　ボーフーヨナ　オドガ　シタ
シューと　暴風のような　音が　した

オヤ　モー　ソゲー　オッタヤ
私は　もう　そこに　いたら

ソンタ　シタンカエ　アエダワ。
それは　知らないか　落ちたよ。

229A：オマガイオ　ヤッ　トガ　アン　ヤッパイ　カイモンザンオ
尾曲を　やる　時は　まあ　やはり　開聞岳を

モクヒョーニ　シセー　ヤッキオッタッヂャハラニー。
目標に　して　やってきていたのだね。

230B：エー。
ええ。

231A：カイモンザンオ　モクヒョーニ　シッセ　ホシテ
開聞岳を　目標に　して　そして

オドンガ　ガッ　エイノ　セーネンガッコン　オッタ
私たちが　××　頴娃の　青年学校に　いた

X27チュ　X27チュ
X27といって　X27といって

キイレン　セセクイノ　センセーガ　ヤッパー
喜入の　瀬々串の　先生が　やはり

トッコータイノ　シカ゜ー
特攻隊の　人たちが

バッゲギー　イダットゴイガ　ト　オモッ
爆撃に　行ったところか　と　思って

モンドックットゴイカ　ト　オモッ
帰ってくるところか　と　思って

フトガ　コッキオ　ナイシチェ　エイサー
大きな　国旗を　　広げて　　一生懸命

コー　ヤッタカ゜ニー　　ソヒトイゲ　　ドチュヤッタ
こう　やった[＝振った]がね　その人の家の　土手だった

アオテ　イダッ　バクダンノ　ナケ゜ッ
青戸に　行って　爆弾を　　投下し

オマカ゜イサメ　イダッ　バクダンノ　ナケ゜ッ
尾曲へ　　行って　爆弾を　　投下して

アラン　　コッヂャッタワ。
たいへんな　ことだったね。

232B：エーン
ええ

233A：オラ　アドガイ　ミブレオ　　シタモン。
私は　あとから　身振るいを　したもの。

234B：アオトモ　モエダゲ。
青戸も　　焼けたか。

235A：アオトモ　モエダトヨ　ウンニャ　アオトワ　ムエンヂャッタバッ
青戸も　　焼けたのよ　いや　　青戸は　　焼けなかったけれども

アシケ　　ヒコーヂョーガ　アッタンヂャ。
あそこに　飛行場が　　あったんだ。

236B：ウーン　ヒコーヂョン　カッタ　ムエタコ゜ヂャ　ナガッタ。
うん　飛行場に　確か　焼けたようでは　なかった。

237A：ヒコーヂョン　ナゲダヤミレ。
飛行場に　投下したよ。

238B：モエダコ゜ッ　ナガッタ。
焼けたようでは　なかった。

239A：オマカ゜イガ　ソントガ　モエダトヨ
尾曲が　その時は　焼けたのだよ

オマカ゜イガ　モエッ。
尾曲が　焼けて。

240C：オマカ゜イ　ミカゲッ　コセッ　イットッ　イタ　トギ
尾曲　めがけて　こうして　一時　行った　時

コオッ　イッキ　イーオヂェッ
こうして　1機　射ち落として

コセッ　ヒッチャユットゴイオ　コヤッ　ミダカ゜ナー
こうして　落ちるところを　こうして　見たがね

241A：エーン
ええ

242C：ソシタ　トッ　ヘンタイオ　シチョッタ　シガ
そうした　時　編隊を　していた　人たちが

モ　コ　ホーコーオ　コ　ニシセー　カエッ
もう　こう　方向を　こう　西のほうに　かえて

10↑11

ニゲ゜ダトオ　ユ　オボエヂョッドナ。
逃げたのを　よく　覚えているよ。

243A：ウオー
おお

244C：イッキ　イーオヂェダデ　ハラ　ヒカ゜　チッ
１機　射ち落としたので　ほら　火が　ついて

コセッ
こうして

245A：ソンタ　オダ　ミランヂャッタ。
それは　私は　見なかった。

246C：アタヤ　ミダド。
私は　見たよ。

247A：エーン
ええ

248C：ソノ　ソセッ　コッチェ　イッゴッタ　シカ゜ー
その　そして　こっちのほうへ　行っていた　人たちが

ホーコーオ　ニシセー　ニゲ゜タッヂャナ。
方向を　西へ　逃げたからね。

249A：エーン
　　ええ

250C：モ　　ヨンキヂャラセンヤッタゲ　トビヨットワ
　　もう　4機ではなかったから　　飛んでいたのは

251A：ウォーン
　　ええ

252B：イッカイ　キイレヤマントカ　アユッ　　トコワ
　　1回　　喜入山とか　　ああいう　ところは

　　ヒコーキガ　ヒッチャエダ　テッキカ゜　アエダカ゜　ト　オモッ
　　飛行機が　　落ちた　　敵機が　　落ちたか　と　思って

　　ヒィエヒィエ　チュタヤ　　ミカダヂャッタ
　　ひえひえ　　と言ったら　味方だった

　　チュコッヂャッタハラ。（A　アー　アー）
　　ということだったよ。　（A　ああ　ああ）

　　ニダイ　キチェ　イッキ　アエダワ
　　2機　　来て　　1機　　落ちたね

　　モー　カダンナ　　アヒコ　　クレバ。
　　もう　勝たないよ　あれだけ　来れば。

253A：カッ　イッサヂャ　ナガッタトヨ。
　　勝つ　戦いでは　　なかったのだよ。

254B：オー
うん

255C：ブッシガ　ナガタッヂェ　ドシタチェ　ヤッパー
物資が　ないのだから　どうしても　やはり

ヤマトダマシーガ　アッヂェ　チュ　イオッタタイバッ
大和魂が　あるから　と　言っていたのだけど

ソイバッカイヂャ　イガンヂャッタド。
そればかりでは　だめだったよ。

256A：ソー　カミカゼカ゜　フットガ　ヤマトダマシートカ゜
そう　神風が　吹くとか　大和魂とか

チューオッタバッチェン　ソイバッカイヂャ　イガン。
と言っていたけれど　そればかりでは　だめだ。

257C：マン　ソイバッチェンガ　ガッチュー　ハナス　キケバ
まあ　そうだけれども　よく　話[を]　聞けば

モー　ナンダヂャイガ
もう　涙だが

258B：カミサマカ゜　＊＊＊＊＊＊
神様が　＊＊＊＊＊＊

259C：ガッチュイ　チランノ　トッコータイノ　シン
よく　知覧の　特攻隊の　人に

ハナス　キケバナ　ハラ
話[を]　聞くとね　ほら

260A：エーン
ええ

261C：ガッチュ　ガッチュ
本当に　本当に

262B：カシャ　ナンダイチュ　コッカイ　トイオッタカ゜　アンタ。
貨車[で]　何台[分]と　ここから　飛んでいたが　あれは。

263A：ホンノコッナ
本当にね

264B：タマカ゜イコ゜ッヂャッタ。
びっくりするくらいだった。

265C：センドシコチュダケ゜ナ。
千何人といったかね。

266B：エーン
ええ

267C：アスコン　アオトガラ　トッヂェタ　シカ゜
あそこの　青戸から　飛んでいった　人が

268B：オロ　ソラ　タイヘンヂャラ。
おお　それは　たいへんだ。

269C：ニジュー　ソイクサ　ハック
20　　それこそ　8、9

270B：ソゴワ　ワッジェ　ヨガアンベ　シチェアッ　　チュワナ。
そこは　非常に　　よいふうに　[整備]してある　というよ。

271A：アダヤ　イダッミラン　イダチャミランバッ
私は　　行ってみない　行ってはみないけれども

アスコオ　トオイ　コヂャ　トオイバッ
あそこを　通る　　ことは　通るけど

オマイリワ　シチャミランガー。
お参りは　　してはみないが。

272B：イダッミランニャイガンナ　　ニッガゲアッチュ。
行ってみなければいけないね　賑やかにしてあるから。

273A：トッコオバサンチュ　アスケ　チランニ　オッヂャ　ハラ。
特攻おばさんという　あそこ　知覧に　　いるよ　　ほら。

274B：エーン
ええ

275A：チランノ
知覧の

276C：コノマエモ　ヂェダナー。
この前も　　[テレビに]出たね。

277A：アーン
　　ああ

278C：X28サン。
　　X28さん。

279A：X28サンカ。 ロクジュー
　　X28さんか。 60

280C：モー　ナナジューイグツ。
　　もう　70いくつ。

281A：ナナジュイグツヂャッタニー。
　　70いくつだったね。

282C：ハイ　モー　イッシュカンニ　イッカイヂュッワ　ヤッパイ
　　はい　もう　1週間に　　1回ずつは　　やはり

　　ソン　ハカマイリニ　イッテ
　　その　墓参りに　　行って

283A：クンロットーノ　ズイホーショーオ　モロダッヂャハラニー。
　　勲六等の　　瑞宝章を　　もらったからね。

284B：エーン
　　ええ

285C：ウー　ウン。 アンタタチワ　コンナメニ　イマ　オダラ
　　うん　うん。「あなたたちは　こんな目に　今　あったら

ソン　トッコータイデ　ダサルレバ　ドースイカイ
その　特攻隊に　　出されたら　どうするか」

チュ　ユダヤ　　バクダンオ　カカエテ　ムコーニ　イッテ
と　　言ったら「爆弾を　　抱えて　　向こうへ　行って

ソン　ソコデ　クラス　ソン　アセダトカ゜
その　そこで　暮らす　その　／／／／／
11↑12
ソコデ　クラス　　チュ　ユヂョッタドナハラ
そこで　暮らす」と　　言っていたね

トーキョーノ　シヂャッタゲ。
東京の　　人だったかな。

286A：X18ワ　ショーワジューサンネン
X18は　昭和13年

ヨンジューゴレンタイノ　ショーシューヂャッタ　＊＊＊
45連隊の　　召集だった　　＊＊＊

287B：ショーワ
昭和

288A：オー　X29ャ　ジューヨネン　マンシュー
おお　X29は　14年　　満州

289B：X3モ　ジューヨネン　ドーガヂャイゴッヂャッタ。
X3も　14年[か]　　どうかだったようだった。

290A：X30オンヂワ　ジュー　ジューサンネンヂャッタタイガニー。
X30おじさんは　×××　13年だったよね。

291B：X18トワ　ヒトットシヂャッタヂェ　X3ワ。
X18とは　同じ年だったから　X3は。

292A：アー　アー
ああ　ああ

293C：X30アンサンナ　アダイゲ゜ンシヨッカ　サッヂャッタゲ。
X30おにいさんは　私の主人より　先だったかね。

294A：ソンタ　ショーシューヂャナガワ　ゲンエッヂャ。
それは　召集ではないよ　現役だ。

295B：ゲンエッヂャロ。
現役だろう。

296A：ゲンエッヂャ。
現役だ。

297B：ゲンエッカ゜　ソンコロ　＊＊ヂャッタ。
現役か　その頃　＊＊だった。

298A：ゲンエッヂャ。
現役だ。

299C：X30アンサンニャ　クマモドヂャッドカ゜ナー。
X30おにいさんは　熊本だったがね。

300A：ナー
なに

301C：クマモト
熊本

302A：ウン　コーヘーダイロクダイタイチュ　セヂャラホラ。
うん　工兵[隊]第6大隊と　しているだろう。

303C：ヂャッタカモ。
そうだったかも。

304A：ソスレバ　X31ワ　ジューヒチネンノ　サンガッ
そうすれば　X31は　17年の　3月

キョーイクショーシュージューハチブタイヂャ
教育召集18部隊に

X31モ　イダゲ。　＊＊＊
X31も　行ったか。　＊＊＊

305B：イダトヨ。
行ったのよ。

306C：X31　ナンネンヂャッチュナ。
X31[は]　何年だったのか。

307A：ジューヒチネン　ショーワジューヒチネン
17年　昭和17年

308C：ウエー　X31サンカ゜　イッ　トギナ　ユッカ゜　フッタモン
ええ　X31さんが　行く　時は　雪が　降ったもの

ソセッ　ソントギナ　コン　チカタビモ　ノシテ
そして　その時には　この　地下足袋も　なくて

アダイケ゜ン　オトサンカ゜　トオバ　ヤッテ
私の家の　おとうさんの　ものを　くれて

マン　キイレハマサエ　キイレサエ
まあ　喜入浜のほうへ　喜入のほうへ

ミオク゜イケー　イダコ゜ッアッタ。
見送りに　行ったようであった。

ガッ　ガッチュ　ユキカ゜　フッ　トキハラナ
××　たいへん　雪が　降る　時にね

ソントギヂャラセンヂャッタロカ゜。
その時ではなかっただろうかね。

309A：ウン　ショーワジューヒチネン
うん　昭和17年

キョーイクショーシュージューハチブタイヂャッタ。
教育召集18部隊だった。

310C：ソンアン　ツキワ　ケーヂャネガナ。
それには　月は　書いてないかね。

311A：ナー
なに

312C：タダ　ジューハチネンダケ
ただ　18年だけ

313A：サンガ゜ツ　シチャー。
3月[と]　してある。

314C：サンガ゜ッ
3月

315A：ジューハチブタイ　キョーイクショーシュー
18部隊　教育召集

316C：サンガツ　ユッガ　フッタトワ　ソイナー
3月　雪が　降ったのは　それなら

ナイノ　トッヂャッタロガ　ショーシューワ
なんの　時だっただろうね　召集は

ショーシューヂャッタタイカ゜。
召集だったんだけど。

317A：X32ワ　ジューハチネンノ　クガツ
X32は　18年の　9月

318B：ウーン
うん

319A：ミヤザキノ　タカナベコークータイ
宮崎の　高鍋航空隊

X33ャ　ジューハチネンノ　ジューニカ゜ツ
X33は　18年の　12月[に]

チョーセン　ケージョー　アンタ　X33ャ
朝鮮[の]　京城　あの人は　X33は

ゲンチショーシューヂャッタロカ゜　アッチヂェ。
現地召集だったろうが　あちらで。

320B：ウン
うん

321A：チョーセンニ　オッタンヂャ　ハラ　X33ャ。
朝鮮に　いたのだ　ほら　X33は。

322B：ア　ソーカ。
ああ　そうか。

[12↑13]

323C：チョーセンノ　ケージョー　アダイゲン　アンサン
朝鮮の　京城[には]　私の家の　おにいさん[も]

324A：ケージョー　X34アンサンカ゜　トゲー　オッタロカ゜
京城　X34おにいさんの　ところに　いただろうよ

(C　ハイ)　アー　ソーカ　コンタ　ニュタイヂャ
(C　はい)　ああ　そうか　これは　入隊だ

X35　　ショーワハチネン　イチガツ
X35[は]　昭和8年　　1月

ヒロシマデンシンダイサンレンタイ、　ダイニレンタイカ。
広島電信第3連隊、　　第2連隊か。

アー　X36サンワ　ショーワジューハチネン　クカ゜ツ
ああ　X36さんは　昭和18年　　9月

サセホカイヘイダンカイヘイタイ
佐世保海兵団海兵隊

X36サンモ　カイグンニ　イダッヂャラ　　コラ。
X36さんも　海軍に　　行ったのだろう　これは。

325B：エン　カイグンヂャッタロヨ。
ええ　海軍だっただろうね。

326A：ウン　マー　X37カ゜　ショーワジューハチネン　クガツ
うん　まあ　X37が　昭和18年　　9月

セイブハチレーノ　ロクジュイチブタイ
西部80の　　61部隊

コンタ　　ゲンエッヂャニー
この人は　現役だね

ウンニャ　ゲンエッヂャ　ナガ。
いや　　現役では　　ないよ。

327C：ジューハチネン
18年

328A：ジューハチネンワ　ショーシューヂャ。
18年は　召集だ。

329C：ハイ
はい

330A：ショーシューヂャ。
召集だ。

X38モ　ジューヒチネンノ　ジューイチガツ　チョーセン
X38も　17年の　11月[に]　朝鮮

X38ヂャ　ヒナ　チョーセンニ　イダッヂョッタゲー。
X38は　それなら　朝鮮に　行っていたから。

331C：X38サンチュワ　イマ　ミセ
X38さんという人は　今　店[を]

ヤッドカ゜ナー。
やっているかね。

332A：ウン
うん

333C：ヂャッタカモナー
そうだったかもね

334A：チョーセンニ　イダチョッタロヨ
朝鮮に　行っていたろうよ
[13↑]

―― 中　略 ――

335A：マー　アン　シェーネンダン　カツドーワ
まあ　あの　青年団[の]　活動は
[↑14]
ソラ　イマ　ヒロク　イーヤマン　シェーネンダンナ
それは　今　広く　飯山の　青年団は

アー　ブラッカイモ　ウケモ　ヨカッタシ
ああ　集落からも　評判も　よかったし

ハダレヂョットヨニー　タヂュノワイオ　シタイ
働いているのよね　立野割を　したり

タッ　タッムンノ　トイジマイ
××　薪の　取り締まり

336B：ウン
うん

337A：ミジマリオ　シタイ　ヤケイオ　シタリ
見回りを　したり　夜警を　したり

マー　マイツキ　ナワオ　サンボヅッ　ノーテ
まあ　毎月　縄を　3巻ずつ　編んで

ソユー　ウー　チョチクオ　シタイ
それを　××　貯蓄を　したり

タッムンヌ　ヒトダヂュッ　デッ
薪を　ひとかかえ　出して

338B：ヒンシュオ　ヤッパイ　シラベンナハラ。
品種を　やはり　調べるよね。

339A：ナー
なに

340B：ヒンシュオ　イットー　ニトー　タデッ
品種を　一等　二等　決めて

ヤガマシ　コッヂャッタワ
やかましい　ことだったね

341A：ソー　ソー
そう　そう

342C：ヂャッタナ　タグンニャナ
そうだったね　薪はね

343A：タグンニュ　デッ　（C　ハイ）　チョチクオ　シテ
薪を　出して　（C　はい）　貯蓄を　して

ソイデ　イーヤマン　シェーネンノ　チョチクワ
それで　飯山の　青年の　貯蓄は

タイシタモンヂャッ　チュヨナ　　オドカ゜ー
たいしたものだった　というような　噂が

344B：オドカ゜　アッタトヨ。
噂が　　あったのよ。

345A：オドカ゜　タッカッタ　アイモ
噂が　　高かった　　あれも

346B：オー　オーレ　チュ　　ヨソン　シワ
おお　おお　　と言って　よその　人たちは

ヒッタマカ゜ッチョッタ。
びっくりしていた。

347A：ウン　ソセッ　テイレイクゥイガ　キューレキノ
うん　そして　定例会が　　旧暦の

イッカヂャッタカ゜　トーカヂャッタガ
5日だったか　　10日だったか

ジューコ゜ニッヂャッタガー　シェーネンクゥイワ。
15日だったか　　青年会は。

348C：シェーネンクゥイワ　トーガナ　マイツキ
青年会は　　10日ね　　毎月

349A：マイツキ　トーカニ　シェーネンクゥイオ　ヤッテ。
毎月　　10日に　　青年会を　　やって。

350B：オー
そう

351A：イロンナ　コトオ　キメテ　エー　ヒジョーナ
いろんな　ことを　決めて　ええ　たいへんな

カツドーオ　シチョットヨニー。
活動を　しているのよね。

352B：オー
そう

353A：ソイデー　ナイカ　マー　モドン　ソン　バンコ゜ヤカ゜
それで　なにか　まあ　もとの　その　番小屋が

シェーネンシャカ゜　アー　アスコデ　アワクボン　センセーオ
青年舎が　ああ　あそこで　粟窪の　先生を

タノンデ　ヤッパイ　ガクシュークゥイオ　ヒライテ
頼んで　いつも　学習会を　開いて

センセータッガ　コータイデ　キテ　エー
先生たちが　交代で　来て　ええ

ガクシュークゥイオ　ヒライテ　ソイデー
学習会を　開いて　それで

アイナ　ヒョーサツワ　イーヤマガクシューシャチュ
あれは　表札は　飯山学習舎と

ケヂャイゴッタッヂャハラ
書いてあったね

354C：ウン
うん
[14↑15]
355A：ガクシューシャチュ　ソイデ　アイガ　コッチェ
学習舎と　それで　あれが　こちらに

イテンニュ　シタ　コラ　ナンネンヂャッタガ　ヒタンナ。
移転を　した　頃は　何年だったか　知らないか。

356B：イテンニュ　シタコヂャ　アシケ
移転を　したようだ　あそこに

357A：モドワ　X36サンカダン　マエン
もとは　X36さんの家の　前の

カワン　グルイヂャッタッヂャハラ
川の　脇だったよね

358B：アシケン　コドンカ゜ター　ナンチュガ　ヨーチ
あそこに　子どもたちの　なんというか　幼稚

アユ　タッヂョッタンヂャナイカ　アシケ
あれ[が]　建っていたのじゃないか　あそこに

359A：ホイク　イヤ　アイカ　ムガイノ　マー　イマン　ヨーチエンカ
保育　いや　あれか　昔の　まあ　今の　幼稚園か

360B：ウン
うん

361A：タクジショヨ
託児所ね

362B：タクジショ
託児所

363A：タクジショ
託児所

364B：ニーノ
西の

365A：タクジション　アスケ　ヒルワ　アン　タクジショニ
託児所の　あそこに　昼間は　あの　託児所に

シテアッタワゲ　ソン　シェーネン　シェーネンシャオニー
してあったわけ　その　青年　青年舎をね

366B：ウン
うん

367A：ソシテ　タイヂャッタガ　アスコン　ホボサンカ゜
そして　だれだったか　あそこの　保母さんが

コータイデ　モユー　シオッタロカ゜
交代で　守りを　していただろうが

368B：X39ドンガ゜　シオッタトヨ
　　X39たちが　していたのよ

369A：ニーノ　X39
　　西の　　X39

370B：X39ドンガ゜　シヨッタヤ
　　X39たちが　していたよ

371C：マン　サイショワ　アン　ハラ　X40サント
　　まあ　最初は　　あの　ほら　X40さんと

　　X41サンヂャラセンヤッタナ
　　X41さんではなかったか

372A：アーン　ヂャッタ　　ヂャッタ
　　ああ　　そうだった　そうだった

373C：ハイ　ヂャッタカモ　　アダヤ
　　はい　そうだったかも　私は

374A：ウン　ヂャッタ　　ヂャッタ
　　うん　そうだった　そうだった

375C：シタンヂャッ　ソンコロニャ　イーヤマニャ
　　知らなかった　その頃には　　飯山には

　　キチャオランヂャッタヂェ　シタンバッ
　　来ていなかったから　　知らないけれども

376A：ウーン
うん

377C：ヂャラセンヂャッタ
そうではなかった

378A：ウーン　ヂャッタ
うん　そうだった

379B：X42ドンガ　キチェオッチェ　X43カ゜
X42たちが　来ていて　X43が

イッド　ケナカ゜レッ　X3カ゜　ケナカ゜レッ
一度　流されて　X3が　流されて

アシコン　ニュグ〔2〕
あそこの　水路

380A：X3ヂャ　ナガッタロカ゜
X3では　なかったろうか

381B：X44ヂャ
X44だ

382A：X44カ゜　ケナカ゜レダトヨニー
X44が　流されたのよね

383B：X44カ゜　ケナカ゜レッ　オヤ
X44が　流されて　私は

X33カ゜エン　ムカ゜エン　タンボン　オッタヤ
X33の家の　向かいの　田んぼに　いたら

X44カ゜　カウエ　ヘッヂョ
X44が　川に　落ちたのに

モー　ソイバッ　イノヂャ　アローヂャヨ
もう　それでも　命は　あるだろうよ

384A：アンタ　Bヂカ゜　アスコオ
あれは　Bおじさんが　あそこを

ハイキッテ〔3〕カラヂャッタロカ゜ヨ
ふさいでからだったろうがね

385B：ハイキッ　ソセ
ふさいで　そして

386C：ハイ　ヂャッタワゲ
はい　そうだったわけ

387A：ハイキッチョッ　ハイキッテカラ　ケナカ゜レダタッドン
ふさいでいる　ふさいでから　流されたのだけれど

アスケ　ヒッチャエッ　ソイ
あそこに　落ちてから　ほら

388B：ココカ゜　ミヅュ　ノン　トッ　イダヂョランヂャッタ
ここが　水を　飲む　時に　行っていなかった

ト　ユーチェッ　ソセッ　　X43カ　ダイカ
と　言って　　そうして　X43か　だれか

アン　マエン　ホンカラ　ヒッチャエダトヂャロカ
あの　前の　　ほうから　落ちたのだろうか

389A：ウーン
うん

390B：X44ャ　コッチカ゜エ
X44は　こちらのほうに

391A：ソセ　　マン　ヒッキャケダ　X45ン
そうして　まあ　引き上げた　　X45の

392C：X45サンカ゜　アン　コマカ゜　カラダオ
X45さんが　あの　小さな　体を

シチョッ　カンシンヂャッタ　チュコッヂャッタドハラ
していて　感心だった　　ということだったよね

393A：ウン　ヂャッタワ
うん　そうだったよ

394B：X45カ゜　ウチエ　コンナカ゜レッキタ
X45の　家へ　流されてきた

チュヂャ　　ハラ
というから　ほら

395A：マン　イットッ　ナンシチェ　ウカワサエ
もう　一時　　流されて　　大川のほうへ

アレ　ナカ゜サルッタッタヤ
あれ　流されるのだったら

396B：マン　シコ゜ケン　ユゲバ　タツヂャッヂェ
まあ　4、5間　　行くと　滝だったから

ソラ　　イノヂヤ　ナガッタ
それは　命が　　なかった

397A：マン　イノヂャ　ナガッタトヨ
まあ　命が　　なかったのよ

398B：ソセッ
そうして

399A：シーサメ　ハシッヂダッ　マワッ　マッチョイ
川下に　　走っていって　回って　待っていて

ミヂュ　ヒッチョッタヂェ　ヨガッタワケ゜
道を　　知っていたから　　よかったのだ

15↑16

400B：ソシタヤ　　ソセッ　　ナオッタトヨ　ココモ
そうしたら　そうして　移転したのよ　ここも

401A：ウーン
うん

402B：ションナシ　ナオッタトヨ　ハラ　クラブモ
しょうがなく　移転したのよ　ほら　倶楽部も

403A：キケンナ　トゴイヂャッタワ　マダ
危険な　ところだったよ　また

404B：オー　アシケー
そう　あそこに

405C：マーン　カワン　ウエニ　アイバ　ハッテナ　ハラ
まあ　川の　上に　あれを　張って　ほら

406A：ウン　ソー
うん　そう

407B：ソイ　コドンカ゜　ノッヂャハラ　タッカ　トケ゜
それに　子どもが　乗るからね　高い　ところに

タクジショ　タクジショチュワ　ナッチョラン
託児所　託児所というのは　なっていない

チュ　ユコ゜ッ　ナッタッヂャ　バショカ゜
と　言うように　なったから　場所が

408A：ウーン　バショカ゜　ワルカッタワゲ
うん　場所が　悪かったのだ

409B：ソイヂェ　タクジショモ　ヨソモ　＊＊＊
それで　託児所も　よそ[の集落]も　＊＊＊

イーヤマワ　ハヂュンヂョッタヂャハラニー
飯山は　　盛大だったからね

410A：イーヤマカ゜　イッバン　ハヤガッタトヨ　タクジショモ
飯山が　　いちばん　早かったのよ　託児所も

411B：オー　スンナ　　コヂュ　サガンニ　ヤッチョッタ
そう　いろいろな　ことを　盛んに　やっていた

ヤッチョッタトヨ
やっていたのよ

412A：ヤッチョッタワ　ワッジェ　　カツドーオ　シチョッタタイバッ
やっていたよ　たいへんな　活動を　　していたけれども

コゲ　　ナオッタコヂャ　ナンネンヂャッタカ゜
ここに　移転したのは　　何年だったか

413B：ウン　ソヤ　　モー　サンネンノ　コロヤロ
うん　それは　もう　3年の　　頃だろう

マッテ　ソノアデ　　モー　オカ゜エオ　チュクッタタッヂェ
しかし　そのあとに　もう　私の家を　作ったのだから

414A：サンネン　ショーワヤ
3年　　昭和だ

415B：ショーワヂャッド　タイショーヂャ　アイメヂェ
昭和だろう　　大正では　　あるまい

416A：ウーン　ショーワサンネンヨッカ　コッチヂャッドナ
うん　昭和3年よりか　こちら[＝あと]だろうよ

モー
もう

417B：コッチヂャッタロガ　オカ゜　ヒナ　キチェカ゜イ
あとだったろうか　私が　それでは　来てから

イッキヂャッタカ゜　エオ　チュクッタヂェ
すぐだったか　家を　作ったから

418C：エート　ショーワサンネンヨッカイ　コッチヂャロ
ええと　昭和3年よりも　あとだろう

419A：コッチヂャッタトヨ
あとだったよ

420B：コッチヂャッタロカ゜
あとだったろうか

421A：ショーワジューネンノ　コロ
昭和10年の　頃

422C：ジューネンノ
10年の

423A：ジューサン
13

424C：ショーワノ　ヨネン　ゴネン
昭和の　　4年　　5年

425A：オカ゜　ショーシューサレヂョイ　コロ
私が　召集されている　　頃

426C：ゴロクネンヂャッタカモ
5、6年だったかも[しれない]

427A：ショーワノ　ロクネンカ
昭和の　　6年か

428C：アン　X46ババカ゜ナー
あの　X46おばあさんがね

429A：ウン
うん

430C：コンエオ　タヂュッ　トキ゜ー　タッカ　トゲ
この家を　建てる　　時に　　高い　　ところに

キュワ　ソン　ムゴドン　ムスコドン
今日は　その　お婿さん　息子さん

サンニン　ノッチョイカ゜　チュ　オモエバ
3人　　乗っているから　と　　思えば

モー　ガッチュイ　ケカ゜オ　シチャナラン　　チュ
もう　本当に　　けがを　してはいけない　と

キカ゜キヂャ　ナガ　チュカダッタ　コヂュ
気が気では　ない　と言った　　ことを

オボエヂョッドナ
覚えているよ

431A：ヒナ　　ソインヂャッタロ
それは　そうだったろう

432C：ハイ
はい

433B：ウン
うん

434C：アダイカ゜　キチェッカライヂャッタ＊＊
私が　　来てからだった＊＊

435B：ヒナ　　ソンコロ
それは　その頃

436C：ショーワゴロクネンヂャッタカモ
昭和5、6年だったかも

437A：ヂャッタロヨ
そうだったろうよ

438C：ハイ　ソニュン　　ユダ　　コッカ゜　アッド
はい　そのように　言った　ことが　あるよ

タッカ　トゴイ　　ノボッチョッ　モー
高い　　ところに　上っていて　　もう

サンニン　ノッチョッ　チュ　オモエバ
3人　　乗っている　と　　思えば

モー　キカ゜キヂャ　ナガ　チュ
もう　気が気では　ない　と

ケカ゜オ　シチャナランカ゜　チュ
けがを　してはならない　と

439A：ウン　ソエナトカ゜　アッタトニャ　オヤ
うん　そんなのが　あったのか　　私は

オカ゜　オラン　トッヂャイゴッヂャッタンガラ
私が　いない　時のようだったから

440B：オラー　ニカイ　ニカイノ　ソッカラ
私は　　2階　　2階の　　そこから

X47カ゜　オイオ　チカマエッ　ヒッチャエダカ゜
X47が　私を　捕まえて　突き落としたが

ソンエー　サギ　　キカ゜　アッタバッ
それは　　先[に]　木が　あったけれども

ソイン　ナカ゜ッタワ
なにも　なかったよ

16↑

441A：ウーン
うん

↑17

442B：X47カ゜　オイ　　チカマユンナ　チュバッ
X47が　私[を]　捕まえるな　　と言うけれど

チカマエッソラ
捕まえてね

443A：エーッ
ええっ

444B：ソセッ　ヒッチェダ　ムゲナ　　コー　タルッ〔4〕カ゜
それで　落ちた　　向こうに　こう　垂木が

コー　キチョッテ　ソイヂェ　ビンタオ
こう　来ていて　　それで　　頭を

ヒックワッタッタバッ　マンガ　ヨガッタワ
割るところだったが　　運が　　よかったよ

445A：ウン
うん

446B：ソイデ　オーキナ　＊＊＊
それで　大きな　　＊＊＊

447C：X48アンサン　　X19　X47　（A　ンー）
X48おにいさん　X19　X47　（A　うん）

ソンシカ゜　ヤッパイ　タッカ　トケ゜　ノボッ
その人たちが　やはり　高い　ところに　上って

ドンヂオ　フイカダネ　アイシタロダマ
木づちを　ふりあげてね　あれしただろう

448A：ヂャッタロナ　ソラ
そうだったろうね　それは

449C：ハイ　ソイン　エオ　タヂュッ　トギナ
はい　それで　家を　建てる　時は

450B：X49カ゜　トギナ　ナイヂャッタガ　ソン
X49の　時は　なかったか　それは

451A：X49ワ　マダ　コドンヂャッタロ
X49は　まだ　子どもだったろう

452B：モー　チット　フトガッタカモ
もう　少し　大きかったかも[しれない]

ソン　モヂュ　X49カ゜　ナク゜イ　チュモ
その　餅を　X49が　投げる　といっても

ソントギ　ベッナシカ゜　アン　フトガ　モヂャ
その時　別の人が　あの　大きな　餅を

ナク゜ットカ゜　シレヂョッタッチュ
投げる人は　知れていたので

ヒトドンナラ　モー　オモトトカ゜マガセ
人たちが　　もう　冗談半分に

ヒンナケ゜ダッヂャソラ
投げてしまったよ

453A：エー
ええ

454B：ソンタ　コ゜ッカ゜　ワイカッタモンヂャッタ
それは　機嫌が　　悪かったものだった

コンタ　＊＊＊　＊＊ヂャッタ
これは　＊＊＊　＊＊だった

455A：ウン　X49カ゜　ソン　モヂュ　ナク゜イ　トシヂャッタロカ゜
うん　X49が　その　餅を　　投げる　年だったろうか

456B：ヂャラセンヂャッタロガ　カッタ
そうでなかったろうか　　確か

457A：タイショーサンネン　ショーワサンネンナラ　（C　ショーワ）
大正3年　　昭和3年なら　　（C　昭和）

458B：ナンヂェッ　ソン　オカ゜　ナク゜ッタッタカ゜　チュ
なんでも　その　私が　投げるのだった　と

ソニュン　ユダ
そのように　言った

459A：ショーワサンネンナラ　モー　X49モ
昭和3年なら　もう　X49も

ゴジューバッカイヂャイマエヂャッド
50[年]ばかり前だよ

460B：チッタ　トシュ　トッチョランニャ　ソイバッ
少しは　年を　とっていなくては　それは

ソニン　イワンチェニー　ドカ°ヂャッタド
そんなに　言わないだろう　どうかだったよ

461C：X49サンニャ　＊＊
X49さんは　＊＊

462B：ンニャ　X50ヂャッタロヨ
いや　X50だったろうよ

463A：アー　X50ヂャ　（B　ンー　X50ヂャ）
ああ　X50だ　（B　うん　X50だ）

サーヂャ　X49ナラ　（B　ンー　X50ヂャ）
そうだ　X49なら　（B　うん　X50だ）

モー　ゴジューバッカイヂャ　メヂャッヂェ
もう　50[年]ばかりだ　前だから

464B：X50ヂャ
X50だ

465A：タイショ　ショーワサンネンナラ
　　大正　　昭和3年なら

466B：オー　X50ヂャラ
　　おお　X50だ

467A：X50ヂャイガ
　　X50だよ

468B：オー　X50カ゜　コー　ナク゜ッ　チュコ゜ッタ
　　おお　X50が　こう　投げる　と言っていた

469A：オヤッドンノ　コッ
　　おとうさんの　こと

470B：ドーガ　モー　イマン　ナッタヤ　ソン
　　どうか　もう　今に　なったら　そんなに

　　オガ　ナク゜ッタッタカ゜ー　チュッ　ユヨーナ　コッカ゜
　　私が　投げるのだったよ　と　言うような　ことが

　　アッタ　（A　ウン）　X50ヂャラ
　　あった　（A　うん）　X50だ

471A：モー　ウミンカ゜　ヂュレバ　ハヤカ゜ネカ゜　ナッ
　　もう　大水が　出れば　早鐘が　鳴り

472C：ヂャッタド
　　そうだったよ

473A：オドシ　オドシケ　　イダイ
　　×××　[堰を]落としに　行ったり

474B：ウン　ハヤ
　　うん　××

475A：ハヤカ゜ネカ゜　ナレバ　クゥジヂャラセンカ　ヂュヂェ
　　早鐘が　　鳴れば　火事ではないか　　と言って

17↑18

　　モー　クゥジカ゜　アレバ　バケツ　　モッ
　　もう　火事が　　あれば　バケツ[を]　持って

　　アンタ　ナイカ　ハダオ　モッ
　　あれは　なにか　旗を　　持って

　　ミンナ　ソルッ　　ナンチュガ
　　みんな　そろって　なんというか

476B：モドワ　＊＊＊　ンニャ　ナンチュガ　　タンコ゜　チュエバ
　　もとは　＊＊＊　いや　　なんというか　水桶　　と言えば

　　エーガ　アイカ゜　アッタンヂャ　ハラニー
　　いいか　あれが　あったんだ　　ほらね

477A：アー　ア　　ショーカ　　タンコ゜カ゜ナー
　　ああ　ああ　消火[用の]　水桶がね

478B：オー
　　そう

鹿児島 18-2

479A：アイバ　モッ　　ハシッイッムンヂャッタッヂャニー
あれを　持って　走っていくものだったのだね

480B：バケヂー　ナッカラ　モ　　アラ　　ワッジェ
バケツに　なるから　もう　あれは　とても

ナゴ　ナッヂェ
長く　なるから

481A：モー　イマクサ　コラ　　ショーボーダンノ　シカ゜
もう　今は　　これは　消防団の　　人たちが

ナイシテ　　チカヨイモ　　センバッ
なにして[＝消火して]　[私たちは]近寄りも　しないけど

イッモ　センバッ
行きも　しないけど

482B：ソンコロワ　＊＊＊
その頃は　　＊＊＊

483A：ソラ　　ワッゼガッタトヨ
それは　すごかったのよ

484B：ハシッムンヂャッタトヨ
走るものだったよ

485A：オー
そう

鹿児島 18-3

486C：オイドンガ゜　チュンダヂュッ　ハシッタ　コッガ゜　アッタ
私たちが　鶴田まで　走った　ことが　あった

487A：チュンダ　ヒンノブ　タタ゜スン　チョーナイ
鶴田　渕別府　只角　町内

イッコ゜ッタヨニー
行っていたよね

488B：チュンデ
鶴田に

489A：カワシリヂュッ　イッコ゜ッタヨ
川尻まで　行っていたよ

490B：アイノ　カセ　イダヂョッタヤ　クゥンヂャッタ
あれの　加勢[に]　行っていたら　火事だった

ソセッ　X51オヂワ　ツッダン　スイシャセー　コッチェ
そして　X51おじさんは　佃の　水車へ　こちらに

コマメ　アイ　ノセ　チュ　オカ゜　ユダヤ
／／／　あれ[に]　乗せて　と　私が　言ったら

モー　オレックエ　モー　オレックエ　チュ
もう　下ろしてくれ　もう　下ろしてくれ　と

X51オヂワ　ガッチュイ　タマカ゜ッタワ
X51おじさんは　本当に　驚いたよ

491A：エー
ええ

492B：ワガエキャー　オッタタッヂャ　ソラ
自分の家の中に　いたのだよ　それは

493A：エー　ウッカン　チュトオバ　モッタイハラ
ええ　ウッカン　というのを　持ったりね

494B：タイバガラ　ヒトチュレ　オカ゜　ノセッキタタッヂャハラ
谷場から　引き続き　私が　乗せてきたのだよね

495A：エー
ええ
18↑

鹿児島県揖宿郡頴娃町1977注記

〔1〕エンサ

地名か。

〔2〕ニュグ

トンネル。水路のずい道。

〔3〕ハイキッテ

セメントで水路の上部を塗りつぶす。

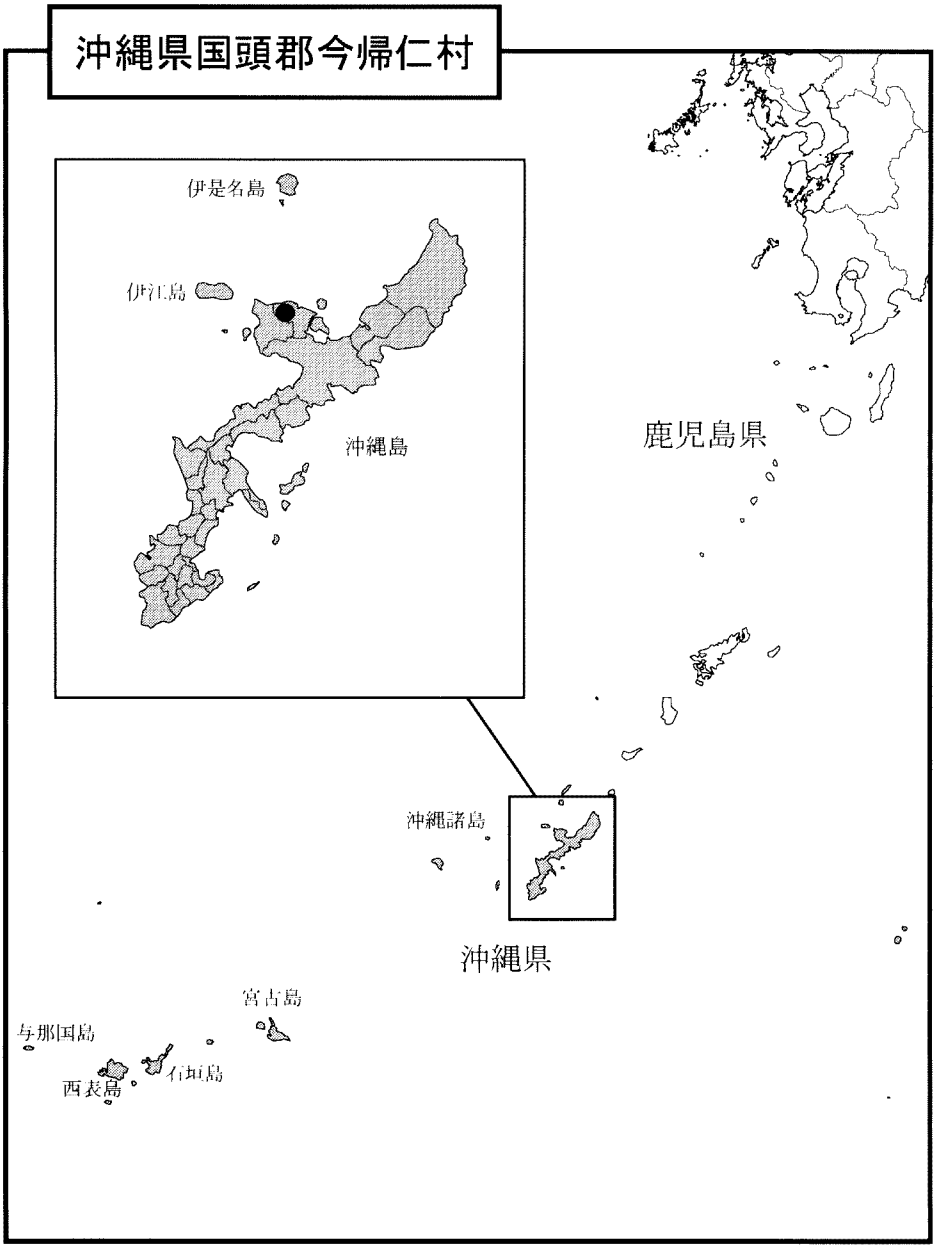
〔4〕タルッ

垂木。屋根の裏板。または木舞を支えるために棟から軒に渡す材木。

Ⅱ. 沖縄県国頭郡今帰仁村

1978

沖縄県国頭郡今帰仁村



沖縄県国頭郡今帰仁村1978話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	上間 秋雄
	玉城 シズ
収録担当者	津波古 敏子
文字化担当者	津波古 敏子
共通語訳担当者	津波古 敏子
解説担当者	津波古 敏子

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

解説担当者	狩俣 幸子 ※
編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	狩俣 幸子
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

※ 解説については，「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに，「全国方言談話データベース」の公開にあたって，大幅に加筆・修正した。

沖縄県国頭郡今帰仁村1978解説

収録地点名　沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊

収録地点の概観

位置

今帰仁村は，沖縄県沖縄島北部の西海岸の東シナ海に突き出した本部半島の東北側に位置する。西は本部町，南は名護市に隣接する。

交通

今帰仁村は，沖縄県の県庁所在地の那覇市からバスで2時間の距離にある。

地勢

今帰仁村は，本部半島の東北側に位置する。半島の中央部には山があり，集落は海岸線に沿って発展している。今帰仁村の中心地は，大井川の河口にある村役場の所在地の字仲宗根である。字今泊の山手には世界遺産に登録された「今帰仁城跡」がある。

行政区画

17世紀頃の行政区分は「間切」と言われ，方言区分を考える上で重要な区分である。その頃，沖縄島を支配していた北山，中山，南山という三大勢力の一つである北山が，現在の今帰仁村を中心に，本部町を含む沖縄島北部の30余りの地域を「今帰仁間切」と称して治めていた。その北山の居城があったのが現在の字今泊である。

1908(明治41)年，沖縄県および島嶼町村制により，今帰仁間切から今帰仁村となる。戦後，行政区が分離併合され，20の字となる。

今泊は，1903(明治36)年，今帰仁と親泊が合併して誕生。1906(明治39)年に今帰仁と親泊に行政区が分離したが，1972(昭和47)年，両字が再合併し今泊となった。

戸数・人口

1978(昭和53)年7月現在，今泊の世帯数は325戸，人口は1,173人で，減少傾向にある。

産業

今帰仁村の基幹産業は農業であり，サトウキビ栽培が主である。近年スイカの産地として全国的に知られている。今泊は，サトウキビ栽培を中心とした農業中心の集落である。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

琉球方言は，奄美・沖縄諸方言と宮古・八重山諸方言に二分される。奄美・沖縄諸方言は，さらに奄美大島・徳之島方言，沖永良部・与論・沖縄島北部諸方言，沖縄島中南部諸方言に区分される。

今帰仁村の方言は，沖永良部・与論・沖縄島北部諸方言の中の，沖縄島北部方言に属する。沖縄島北部方言は，地域差が大きく，さらに北山原（やんばる）方言，中央山原方言，南山原方言の三つに下位区分される。今帰仁方言は，名護市や本部町の方言と共通の特徴を持っていて，中央山原方言に属している。

今帰仁村の方言は，本地（むとぅじ）方言と古宇利（こうり）島方言に分かれ，本地方言がさらに，東部地域方言と西部地域方言に分かれる。今泊の方言は，西部地域方言の一つである。

音韻

（1）今帰仁村の方言を含む沖縄島および周辺離島の方言は，共通語の母音「ア」「イ」「ウ」に，「ア」「イ」「ウ」が対応して現れる。「エ」「オ」に対応して「イ」「ウ」が現れる。短母音の「エ」「オ」はほとんど現れないが，二重母音「アエ」「アイ」「アウ」「アオ」が同化してできた「エー」「オー」がある。

ター［t'a:］（田）	パシー［p'aʃi:］（橋）	ナー［na:］（菜）
ミー［mi:］（実）	ミミー［mimi:］（耳）	
ユー［ju:］（湯）	ヌーヌー［nu:nu:］（布）	ムシー［muʃi:］（虫）
ニー［ni:］（根）	ナビ［nabi］（鍋）	イー［'i:］（絵）
ムムー［mumu:］（腿）	ドゥルー［duru:］（泥）	
メー［me:］（前）	ベー［be:］（倍）	ソー［so:］（竿）

（2）喉頭音化した（のどを緊張させて発音する）無声破裂音［p’，t’，k’］と喉頭音化しない無声破裂音［p‘，t‘，k‘］の対立がある。同様に，喉頭音化した無声破擦音［tʃ’］と喉頭音化しない無声破擦音［tʃ‘］の対立もある。

以下，喉頭音化した音を含む音節をひらがなで表記し，喉頭音化しない音を含む音節をカタカナで表記する。

ぱーぱー［p’a:p’a:］（祖母）　パーパー［p‘a:p‘a:］（卵焼き）
てぃーち［t’i:tʃ’i］（一つ）　ティーち［t‘i:tʃ’i］（手で）
かー［k’a:］（さあ）〈勧誘の感動詞〉　カー［k‘a:］（皮）
ちゃー［tʃ’a:］（いつも）　チャー［tʃ‘a:］（茶）

（3）喉頭破裂音を伴って現れる母音と，喉頭音化しない母音とが対立をする。

うとぅ［ʔut’u］（音）　ウとぅ［ut’u］（夫）
いン［ʔiN］（戌）〈十二支〉　イン［iN］（縁）

（4）喉頭音化した半母音［ʔw］［ʔj］と喉頭音化しない半母音［w］［j］の，また，喉頭音化した［ʔm］［ʔn］と喉頭音化しない［m］［n］の対立がある。撥音にも喉頭音化したものと喉頭音化しないものの対立がある。

わー［ʔwa:］（豚）　ワー［wa:］（我）
やー［ʔja:］（おまえ）　ヤー［ja:］（家）
なマ［ʔnama］（今）　ナマー［nama:］（生の）
まー［ʔma:］（馬），まー［ʔma:］（そこ）
んーんー［ʔn:ʔn:］（そうそう）　ンーンー［’n:’n:］（いいえ）
〈あいづち〉

（5）共通語の語頭のハ行子音hに対応してpが現れる。これは古代日本語のp音を保存するものとして知られている。

パー［p‘a:］（葉）　パナー［p‘ana:］（花）　パダー［p‘ada:］（肌）
ぴー［p’i:］（火）　ぴヂェイ［p’idʒei］（左）　ぴルー［p’iru:］（昼）
プニ［p‘uni］（船）　プダー［p‘uda:］（札）　プシー［p‘uʃi:］（節）
ピリー［p‘iri:］（縁）　ピラー［p‘ira:］（箆）　ぴたー［p‘it’a:］（下手）
プー［p‘u:］（穂）　プニ［p‘uni］（骨）　プシー［p‘uʃi:］（星）

（6）共通語のカ行子音［k］に対応して［h］が現れる。ただし，後続する母音が「ア」「オ」の場合に限定される。「イ」と結合する［k］は破擦音

化して［tʃ'］になる。「ウ」「エ」と結合する［k］は変化せず，破裂音のままである。

ハミ［hami］(甕)　ハヂー［hadʒi:］(風)　ハドゥー［hadu:］(角)
フー［Φu:］(粉)　フミー［Φumi:］(米)　ムフ［muΦu］(婿)
ちー［tʃ'i:］(気)　ちムー［tʃ'imu:］(肝)　いち［ʔitʃ'i］(息)
くルー［k'uru:］(黒)　くムー［k'umu:］(雲)　くミ［k'umi］(組)
キー［k'i:］(毛)　キブシ［k'ibuʃi］(煙)　サきー［sak'i:］(酒)

（7）共通語で語頭が母音で始まる音節で，かつ，第2音節目が無声子音の時，今帰仁方言では語頭に摩擦音［h］が挿入される。語頭の［h］音挿入は，今泊や与那嶺など西部地域方言に見られ，今帰仁村の方言を東部地域方言と西部地域方言に分ける特徴の一つでもある。

	西部地域方言	東部地域方言
遊び	ハシービ［haʃi: bi］	あシービ［ʔaʃi: bi］
戦	ヒくサー［hik'usa:］	いくサ［ʔik'usa］
牛	フシー［Φuʃi:］	うシー［ʔuʃi:］

文法

（1）格助詞「ガ」「ヌ」は，いずれも主格および連体格の用法を持っている。これは古典語の「が格」「の格」の用法と同じである。

プスーガ　ゆーたン（おじいさんが言った）
うガミガ　フーサイ（我々の幼い時）
ナーグラビーヌ　サきー　ホーてィスン（女たちが酒を買ってくる）
ナンマヌ　ソーガち　マシ（今の正月がよい）

連体格の「ヌ」は「ン」とも言う。

ナンマン　ソーガち，ナンマヌ　ソーガち（今の正月）

（2）格助詞なしの形（ゼロ格）は，主格，対格，連体格の用法を持っている。

ナンマヌ　ソーガち　マシ（今の正月がよい）
あミー　プン（雨が降る）
ティンぷラ　スこールン（てんぷらを作る）
ヌーヌー　うン（布を織る）
ソーガチ　ハシービ（正月の遊び）

（3）係助詞「ヤ」（は），「ン」（も）のほかに「ドゥ」または「ル」，「クセー」がある。「ドゥ」は，古典語の係助詞「ぞ」に対応し，前接語を強調する。文末は，「ル」の形の強調断定形で結ぶ。「クセー」は，推量文に現れ，前接要素（「クセー」が接続する語）が推量の焦点となる。文末は，「ラ」の形の推量形で結ぶ。

ちヌン　ドゥーチドゥ　スこールル（着物も自分で作るのだ）

あンちル　ハシビーてル（そうして遊んでいたのだ）

ぷッぷーヤ　ネンガジョークセー　ハちュラ

（祖父は年賀状を書くのだろう［＝祖父が書くのは年賀状だろう］）

ぱッぱーヤ　ナハちクセー　イジャーラ

（祖母は那覇に行ったのだろう［＝祖母が行ったのは那覇だろう］）

（4）肯否疑問文の述語の専用形式と疑問詞疑問文の述語の専用形式があって，両者は明確に区別される。肯否疑問文は述語の語末が「ミ」「ナ」の形になり，疑問詞疑問文は述語の語末が「ガ」の形になる。

やー　サきー　ヌミミ？（おまえは，酒を飲むか？）

やー　サきー　ヌミンナー？（おまえは，酒を飲むか？）

イナグンちャヤ　ヌー　ヒちー　ハシビータガ？

（女の人たちはなにをして遊んだのか？）

（5）動詞の過去形には二つの形がある。第二過去形は話し手による出来事の直接知覚を明示し，第一過去形は直接知覚の有無を問わない。

非過去形	スン（する）	ヌミン（飲む）
第一過去形	シちャン（した）	ヌダン（飲んだ）
第二過去形	スーたン（した）	ヌミーたン（飲んだ）

（6）継続相とパーフェクト相を表すアスペクト形式がある。継続相は標準語の継続相の用法によく似ている。パーフェクト相をとる動詞には制限がなく，①客体結果の継続，②痕跡，③効力，④痕跡の知覚をもとに行う推論，を表す。

継続相

非過去形	シちュン（している）	ヌドゥン（飲んでいる）
第一過去形	シちュたン（していた）	ヌドゥたン（飲んでいた）

第二過去形　シちュイたン(していた)　　ヌドゥイたン(飲んでいた)

パーフェクト相

非過去形　　シちェン(してある)　　ヌデン(飲んである)

第一過去形　シちェーたン(してあった)　ヌデーたン(飲んであった)

過去にあった痕跡をもとに行う推論の時，語末が「てーてン」となる。

トゥッてーてン（取ってあったに違いない）

かーてーてン（食べてあったに違いない）

（7）引用助詞には「ディち」「りち」「リ」「ディ」などの変種がある。

ソーガちヂン　ディち（正月［の］着物といって）

ちユミー　りち　ゆーてーンバー（清めなさいと言っていたわけ）

いッぱ　りゆーたン（イッパといった）

サーたーヂャき　ディいーバ（砂糖酒といえば）

参考文献

『今帰仁村史』今帰仁村史編纂委員会，今帰仁村役場，1975年

『沖縄今帰仁方言辞典』仲宗根政善，角川書店，1983年

「今帰仁方言音声データベース」

http://ryukyu-lang.lib.u-ryukyu.ac.jp/nkjn/index.html

（以上の解説は，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿をもとに，「全国方言談話データベース」の公開にあたって，大幅に加筆・修正した。）

沖縄県国頭郡今帰仁村1978凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下2段を1組として示した。上段が方言談話音声の文字化，下段がその共通語訳である。ただし，方言の語形と共通語の語形が必ずしも1対1で対応しない場合もあり，方言の語形と共通語訳とがずれている場合もある。

方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。

方言談話音声の文字化は，ひらがな・カタカナまじりで表記した。表音的表記を用いている。長音は「ー」で示す。喉頭音化した音を含む音節はひらがなで表し，喉頭音化しない音を含む音節はカタカナで表す。なお，ひらがな・カタカナの使い分けは『沖縄今帰仁方言辞典』（角川書店，1983年）に基づいている。

この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造などは，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味の取りやすさを優先して処理をした部分がある。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中に，話し相手のあいづちや同じ単語の繰り返しなどが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

文字化については，ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所に句点を打った。ただし，実際の発話では，一文の終わりがわかりにくい場合もある。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

　　そうです。　そうです。

、（読点）　　〈全角〉

文字化については，基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所に読点を打った。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，

意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

↓　〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ　ヤッタンダナー↓

よく　やったんだなあ。

（　）　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時に同意を示したり，さえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように，開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話として扱ったあいづちに近い発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　〈全角〉

笑い，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

［　］　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある再生の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「沖縄今帰仁19-1」はCDトラック番号が19で，その1ページ目ということである。「沖縄今帰仁19-1」「沖縄今帰仁19-2」……「沖縄今帰仁19-6/20-1」……「沖縄今帰仁28-3」のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。[↑19]，[19↑20]，……[27↑28]，[28↑]のように表示される。

第20巻のCD（64分53秒）には，沖縄県国頭郡今帰仁村の談話，【年中行事】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間：分：秒
19	p. 128・ℓ. 1	p. 133・ℓ. 19	00：01：57
20	p. 134・ℓ. 1	p. 139・ℓ. 19	00：01：58
21	p. 140・ℓ. 1	p. 144・ℓ. 5	00：01：27
22	p. 144・ℓ. 7	p. 150・ℓ. 9	00：02：02
23	p. 150・ℓ. 9	p. 156・ℓ. 9	00：02：00
24	p. 156・ℓ. 11	p. 162・ℓ. 5	00：01：59
25	p. 162・ℓ. 7	p. 168・ℓ. 15	00：02：00
26	p. 168・ℓ. 17	p. 174・ℓ. 19	00：02：03
27	p. 175・ℓ. 1	p. 180・ℓ. 19	00：02：03
28	p. 181・ℓ. 1	p. 183・ℓ. 15	00：00：55
計			00：18：24

沖縄県国頭郡今帰仁村1978談話

収録地点　　沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊（おきなわけんくにがみぐんなきじんそんあざいまどまり）

収録日時　　1978(昭和53)年8月8日

収録場所　　沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊　話者A氏自宅

話題　　年中行事

話者

A	男	1902(明治35)年生	(収録時76歳)
B	女	1904(明治37)年生	(収録時74歳)

収録時間（CD）　　18分24秒

【年中行事】

話し手

A	男	1902(明治35)年生	(収録時76歳)
B	女	1904(明治37)年生	(収録時74歳)

1 A：なンマン〔1〕　ソーガちとゥ　ディン
[昔の正月と]今の　正月と　どれが
↑19
マシディ　ナーとゥガ〔2〕？
よいと　思うか？

2 B：ワン　なンマヌ　ソーガち　マシー。
私[は]　今の　正月[が]　よい。

3 A：ヌーガサー？
どうしてよ？

4 B：あヌー　ヂヌン　マンディヤ
あの　銭[＝お金]も　多いしね

ター　けーヌムンヌン　マンルとぅ
××　食べるものも　多いから

ユくー　あヌー　タヌシミ　エンバー。
なおさら　あの　楽しみ　であるわけ。

5 A：ヲー　やーヤ　けーシル　マシ　ヤサヤー。
ええ　おまえは　食べるのが　いいんだね。

ワンヤ　ちゃー　ムかーシル　マシ　ヤッサー。（B　{笑}）
私は　いつも　昔[が]　いいのだ。　（B　{笑}）

ムかーシヤ　やー〔3〕　わー　ヤちー、
昔は　おまえ　豚[を]　焼いて、

シグニちメーカラ　スグイ　なー　ソーガち　うリー
4、5日前から　すぐに　もう　正月[を]　その

ヤンミーち　マちカンてィ　シちヤー　（B　ンン）
／／／／／　待ちかねてね　（B　うん）

ソーガちメー　ナリバ　イナグンちャ　ソガちバンメー
正月前[に]　なると　女たち[は]　正月[の]食事[の]

うムー　プイガヂルてィー、　ニーセーたーヤ　マた
芋[を]　掘って積み上げ、　青年たちは　また

フシヌ　クサー　カイガヂリー、
牛の　草を　刈って積み上げ、

ソーガち　ナレー　マた　わー　ヤちー　やー、
正月[に]　なると　また　豚[を]　屠殺して　おまえ、

ダーペーヌヤー　＊＊　ドゥシビー　スルてィ
どこの家[も]　＊＊　友だち　そろって

ナーグン　イきガン　ドゥシビードーサー　グリマーイ　ヒちー、
女も　男も　友だち同士　年始まわり[を]　して、

沖縄今帰仁 19-3

あマヂン　ソーガちグーシー、
向こうでも　正月[の]祝い酒を、

フマーヂン　ソーガちグーシー　ハミーてィ、
ここでも　正月[の]祝い酒を　いただいて、

ナー　サンシン　ピちィ　スーヂ　ヒちィー　やー
もう　三味線[を]　弾いて　お祝い[を]　して　おまえ

ムかーシル　やー　うガミー〔4〕　マシ　ヤッてル。
昔[が]　おまえ　我々[は]　よかったんだ。

エーシガ　ナー　カンゲーリバヤ
けれども　もう　考えれば

なマ　マシ　エーヌ　てンヌン　あエースサ。
今[が]　よい　点も　ありはするよ。

（B　んん）　うリー　（B　んん）
（B　うん）　これ　（B　うん）

ディル　マシー　リちヤ　ネーン。（B　んん）
どれが　よい　といっては　ない。　（B　うん）

イー　トゥクルン　ありバ　マたン　ムかシ
いい　ところも　あれば　また　昔[が]

マシ　エーてン、　トゥくルン　いルいル　あインバーてー。
よかった点、　ところも　いろいろ　あるわけよ。

（B　いルいル　あイン）　うガミガ　フーサイ、
（B　いろいろ　ある）　我々が　小さい頃、

いーヤ　ソーガち　ナーグンちゃー　ヌー
おまえたちは　正月[は]　女たち[は]　なに

ヌー　ヒちー　ハシービたガ、　ソーガち　ハシービ。
なに　して　遊んでいたか、　正月[の]　遊び。

6 B：ちヌーナー？
着物か？

7 A：あラン　ハシービシヨー。
いいや　遊ぶことよ。

8 B：エー　シグーとゥ。
ああ　仕事[か]。

9 A：ソーガちヌ　ハシビネー。
正月の　遊びの時。

10B：あイ、　フーサイヤ　あヌ　うーミンパーナ〔5〕。
あれ、　小さい頃は　あの　ウーミンパーナ[＝毬遊び]。

11A：あー、　うーミンーパーナ　あーハー　ハー
ああ、　ウーミンパーナ　ああ　ああ

ソーヤ、　ソーヤ。
そうだ、　そうだ。

12B：うーミンーパーナ　ドゥーち　スこーてィヨー、
ウーミンパーナ[を]　自分で　作ってね、

うーミンーパーナ。
ウーミンパーナ[を]。

モーブッか〔6〕　トゥッてィちー　ドゥーち　スこーてィ、
モーブッカ[を]　取ってきて　自分で　作って、

うリー　スこールシヤ　ちャンスーガ　ヤリバ、
それを　作るのは　どうするか　といえば、

ソーガちヂン　ディち　キモノ　おッて
正月[の]着物　といって　着物[を]　織って

クヌ　シちュー　リちー、　シちュー　リューたンヨー。
この　糸　といって、糸　といったよ。

うヌ　シちュー　トゥッてィち　ムル　ツナヂ
この　糸を　取ってきて　みんな　つないで

ユールーネー　ちナヂュてィ
夜のうちに　つないでおいて

うリー　う　うーミンーパーナ　マリ　あノ
それ　×　ウーミンパーナ　毬　あの

ゴムモノネー　ナッテーとゥ
[今は]ゴムのものに　なっているから

うーミンーパーナ　ディち、　いヂー　あヌ
ウーミンパーナ　といって、出かけて　あの

13A：あーハー　えー
ああ　ああ

14B：モーち　シてィーちブッか〔7〕
野へ　ソテツ[の]綿毛

15A：シてィーちブッか　うヌ　シてィーちヌ　プッかヤー。
ソテツ[の]綿毛　その　ソテツの　綿毛ね。

16B：コレ　うリー　トゥッてィちヨー
これ　それ[を]　取ってきてね

17A：あーハー　ソーか、ソーか。
ああ　そうか、そうか。

18B：あンち　マちーヨー、マちー　なー
こんなに　巻いてね、　巻いて　もう

マたー　うリー　あヌー　ソーバン、
また　それ[を]　あの　枡

ソーバンクくイ〔8〕とか　ハナグくイ〔9〕とか
枡形かがりとか　花形かがりとか

いロンナムン　あイてンバー。
いろんなもの[が]　あったわけ。

19↑

あイてーとゥ　うリー　　スこーてィ、
あったから　　それ[を]　作って、

↑20

うーミンパーナ　　うッち　ハシービてンバー。
ウーミンパーナ[を]　打って　遊んでいたわけ。

19A：あー　ソー　ワッたーヨー
ああ　そう　私たちね

20B：うーミンパーナ　リル　ゆーてール。
ウーミンパーナ　と　　言っていた。

21A：ワッたーヨー
私たちね

22B：ンー、ナッたーヤ　　いッぱ(10)
うん、あなたたちは　イッパ

23A：アー　いッぱ　(B　{笑})　いッぱ　　ちーヨー。
ああ　イッパ　(B　{笑})　イッパ[を]　してね。

あヌ　キーヌ　ユラ　　うンちビけー　ちッちヨー、
あの　木の　　枝[を]　これくらい　　切ってね、

うリ　　スこシ　あンち　　タマラちヨー、(B　んー)
それ[を]　少し　　こんなに　たわめてね、　(B　うん)

まー　　メー　　キヂーてィ、
ここ[の]　前[を]　削って、

あンち　あンちち　うちヨー（B　んー）
あんなに　あんなにして　置いてね（B　うん）

うンちビけーヌ　ボーち　うリち　ぱンミかーち
これくらいの　棒で　それで　パンと打って

（B　んー　ソー）トゥバースンバーてー。
（B　うん　そう）飛ばすわけね。

24B：いッぱ　リゆーたン。
イッパ　といった。

25A：シーバ　マた、あマーネー　ウイシガ　マた
すると　また、向こうに　いる人が　また

あンち　トゥバーち　うリ　いちニちヂュー
こんなに　飛ばして　それ　一日中

（B　んー　うリエーシガ）あヌ　シち　ハシビてンてー。
（B　うん　そうだけど）　あの　して　遊んでいたよ。

なマヌ　まー　うイネー
今の　そこ[の]　上で

いリンシマ〔11〕ン　ぷミちー　ネーてィヨー。
西の村の　大きな道　でね。

26B：うン　あソービヤ　なー　うリーち　ハシーデル。
その　遊びは　もう　それで　遊んでいた。

27A：ンー　ヤシガ　　ナマヌ　ワラビー　　ハシービン
うん　けれども　今の　　子ども[は]　遊びも

ヌーン　ネンヤー。（B　んー　{笑}）　アー。
なにも　ないね。　（B　うん　{笑}）　ああ。

28B：ムルー　ルーち　スこーてィ、　ホーリヤ　サングとゥ　スこーてィ
みんな　自分で　作って、　　買いは　　せずに　　作って

ナー　ヒきガヤ　ナー　いッぱ　　スこーてィ、
もう　男は　　もう　イッパ[を]　作って、

ナーグヤ　ナー　うーミンパーナ　　スこーてィ、
女は　　もう　ウーミンパーナ[を]　作って、

あヌ　ムル　　フーサイ　　あンちル　ハシビーてル。
あの　みんな　小さい頃[は]　そうして　遊んでいた。

29A：エーシガ　ホーラングーてィー　スーシル
けれども　買わずに　　するのが

ユく　シヂェンヌムン　うガ　　ムかーシヌ　ぱーぷヂカラヌ
なお　自然のもの　　我々[の]　昔の　　先祖からの

ンー　シちちェーヌムン　シちー　あシビシル　ヤッぱリ
うん　してきたもの[を]　して　　遊ぶの[が]　やっぱり

フちナーニてィヤ　マシヤたンネー　ナーとゥサー〔12〕、
沖縄では　　よりよかったと　思うよ、

ワンヤ　ンー。（B　{笑}）
私は　　うん。（B　{笑}）

ナー　ナンマヌグとゥちー　スラーヂヌン　　ネーンヤー、
もう　今のようにして　　きれいな着物も　なくてね、

ヨイ　ナー
ただ　もう

30B：スラヂヌン　　ムル
きれいな着物も　みんな

31A：モメンヌ
木綿の

32B：モメンヌ　ちヌー　　おかーサンたガ　　フてィー
木綿の　　着物[を]　おかあさんたちが　織って

ソーガちヂン　　フシルン　りいーバ
正月[の]着物[を]　着せる　　と言えば

ソーサ　ちー。
うれしがって[いた]。

33A：ホーてィ、　ホーてィ　ちュン　ルーシヤ
買って、　買って　　着る　　というのは

メッたニ　ネンてンてー、　　うガ　　ヂダイネー。
めったに　なかったでしょう、我々[の]　時代には。

34B：ホーてィ　ちュン　ディゆーシヤ　ネーヌ。
買って　着る　というのは　ない。

35A：ムル　ネーサンた　ナーグうヤ、うヌー
みんな　おねえさんたち　女親、　その

いとン　うリー　ヒちー、パたネー（B　ンー　ンー）
糸も　そう　して、　機織機で（B　うん　うん）

ヌーヌー　フてィ（B　ヌーヌー　フてィ）
布[を]　織って（B　布[を]　織って）

うリーち　ノーてィル　うガミー　ちェール。
それで　縫って　我々[は]　着ていた。

36B：うリちル　ちヌー、　ヂン　いヂャーち。
それで　着物[を]、お金[を]　出して。

37A：ヂン　いヂャーち　ホーてィ　ちヌー
お金[を]　出して　買って　着物[を]

ちュン　ドゥシヤ
着る　というのは[なかった]

38B：マた　ホールン　ちューヤ　ウラン。
また　買う　人は　いない。

39A：ハー　うヌ　ヂダイ　ドゥく　うビランサー。
はあ　その　時代[は]　あまり　覚えがないよ。

40B：んー　あガミガ　フーサイヤ。（A　ンー）
うん　我々が　小さい頃は。（A　うん）

マた　シちニち　ナリーバ　ナンかヌスくー〔13〕
また　七日[に]　なると、　七日の節供

（A　ナンかヌスくー）　リちー　ソーガち　シちニちー。
（A　七日の節供）　といって　正月　七日。

41A：わンプニルーシー〔14〕　{笑}
豚骨[の]雑炊　{笑}

42B：わーヌ　プニ　シきーとゥてィ　うリ　ルーシー　ヒちー
豚の　骨[を]　浸しておいて　それ[を]　雑炊に　して

マた　ぱーぷヂヌ　メーニ　フサーギてィ、
また　先祖の　前に　お供えして、

マた　ヂューユッか　ナリバ　キューヌ　ヂューユッか　ナリバ
また　14日[に]　なれば　旧の　14日[に]　なれば

ヂューユッかニー　マた
14日に　また

43A：ソーガちングゥー〔15〕
正月小[＝小正月]

44B：ソーガちヌくゥー、　ソーグゥちヌくゥー　リちー
小正月　小正月　といって

20↑

マた　うリー　　ゴハンとゥ　マた　あヌー
また　それ[を]　ごはんと　　また　あの

↑21

デーくニとゥ　わーシとゥ　ハーち、
大根と　　豚肉と　　あわせて、

マた　ぱーぷヂヌ　メーニ　フサーギてィ　マた　うリーラ
また　先祖の　　前に　　お供えして　　また　それから

45A：ヂュー　ヂュールくニち〔16〕　あイセー。
　　×××　十六日[が]　　あるだろう。

46B：ヂュールくニち、　ヂュールくニち　りいーバ
　　十六日、　　十六日　　といえば

マたー　あヌー　いッかネンニ　マーちェーヌ　ちュヌ
また　　あの　　1年間に　　亡くなった　　人の

ミーサー〔17〕　リち　　マた　シンセき　ハちマてィ
ミーサ　　といって　また　親戚[が]　集まって

ソーこー　スーてンバー。　ソーガちヌ
焼香[を]　していたわけ。　正月の

47A：うヌ　ミーサヤ　ナちヂンマヂリ〔18〕　ムル　　スーたガヤー？
　　その　ミーサは　今帰仁間切　　みんな　していたかね？

ミーサ　ミーサ　スーシヤ　うガ　　シマー
ミーサ　ミーサ　するのは　我々[の]　村

48B：ミーサ　スー　あイ
　　ミーサ　××　あれ

49A：あイ　あガリンシマ〔19〕ンちヤ　ネンパヂドー。
　　あれ　東部の村では　ないはずだよ。

50B：うリ　うレー　うリちー　うリちー
　　それ　それ　それして　それして

　　ハッきリ　うリ　ハッきリ　ワハーラン。
　　はっきり　それ　はっきり　わからない。

51A：あヌー　パかソーヂヤ　ヒちー　ぱーぷヂヌ　メーネー
　　あの　墓掃除は　して　先祖の　前で

　　ティーヤ　フサースシガ　ミーサ　ルーシヤ
　　手は　合わせるが　ミーサ　というのは

　　うガ　シマネール　あイラパヂドー。
　　我々［の］　村にだけ　あるはずだよ。

52B：ミーサヤ
　　ミーサは

53A：うガ　シマーヤ　あリ　フたービヌ
　　我々［の］　村は　あれ　今年の

　　いちグヮツ　ヂュールくニち　うヌ　＊＊ちーマールネー
　　1月　16日　この　＊＊／／／／／／／

マーちェーヌ　ちューカラ　ヤてィンヤ　うヌ　ぴーネー。
亡くなった　人から　なんだね　この　日に。

54B：スーこー　スーたン。
焼香　していた。

55A：ヂュールくニちヤ　スーたンディドー。
十六日は　していたってよ。

56B：ヂュールくニちヌ　スーこー。
十六日の　焼香。

57A：うガ　シマヤ。うヌ　（B　ハイナー）　いッかネンニ
我々[の]　村は。　その　（B　ああ）　1年間に

マーちェーヌ　ヤーヤ　ムル　ヂュールくニち
亡くなった[人の]　家は　みんな　十六日

58B：ンー　ムル　いッけンヌン　ヌくラン。
うん　みんな　1軒も　残らない。

59A：ミーサ　あヌ　グソーヌ　あヌ　パシー
ミーサ　あの　後生[＝あの世]の　あの　橋[を]

ちューヒちバン　ワたイミソーレヌ　ゆーヌ
人一番[＝真っ先に]　お渡りなさいと　いう

いミー　レンてー。（B　{笑}）
意味　でしょう。（B　{笑}）

ヂュールくニち　シンセき　ムル　　ハちマてィ
十六日[は]　　親戚[が]　みんな　集まって

ンー　うり　　シちャンドー。
うん　それ[を]　したよ。

60B：ワッたーガ　フーサイガリヨー、　マた　スレー　　サーヌヨー
私たちが　　小さい頃までね、　　また　香典[は]　せずにね

ムル　　チョーレービーヤ　ヂョーバく
みんな　兄弟姉妹たちは　　重箱[＝お供えのごちそう][を]

ちーヤー
[用意]してね

61A：オー
ほう

62B：ヂョーバく　ちール　　ヂュールくニち
重箱[を]　　[用意]して　十六日[に]

フサーギたンドー。
お供えしたんだよ。

63A：あハ　アー　ナーメーメー　ヤーラ　ヂョーバく
ああ　ああ　各自めいめい　家から　重箱[を]

シちちー
[用意]してきて

64B：ナーメーメー　ヤーラ　ヂョーバく　シちー。
各自めいめい　家から　重箱[を]　[用意]して。

ソーガちヌ　ギョーヂヤ　ナー　フッサー　ランかヤ。
正月の　行事は　もう　それだけではないかな。

65A：ナー　フッサー　ラン。　ソーガち。
もう　それだけ　だろう。正月。

[21↑]

―― 中　略 ――

66A：うガ　シマーヤ　ニングゥちうマちー〔20〕　ルーシヤ
我々[の]　村は　二月ウマチー　というのは
[↑22]
くゥッちヤ　ネンたンドー？
ごちそうは　なかったかね？

67B：くゥッちヤ　ネーヌ。
ごちそうは　ない。

68A：ヨーイ　ヤーち　ちユミてィ〔21〕　ハちソーヂ　シちー
ただ　家で　清めて　掃き掃除　して

パマヂ　シナー　ムッちちー　ヤーち　ムル　マちャー＊＊
浜から　砂を　持ってきて　家に　みんな　／／／／＊＊

ちユミてィ　ムラネーてィル　フサギーてル。
清めて　村で　お供えしていた。

ヤーネーてー　ヌン　　ネンたガヤー？
家では　　なにも　なかったかね？

69B：ヤーネーてー　ヌーン　ネーンシガヨー　（A　ンー）
家では　　なにも　ないけれどね　　（A　うん）

うヌバーヤ　あヌ　ナちヂングシくヂ　フサギてィ　ちーラ
その時は　　あの　今帰仁城跡で　　お供えして　きてから

あヌ　ブラくネー　　ちユミー　　りち　ゆーてーンバー。
あの　部落[＝字]で　清めなさい　と　　言っていたわけ。

スーシガ　うリーガ　ちユミラングイヤー
けれど　　それが　　清めないでね

うヌ　うヌバーヌ　ぴーネーてィ
その　その時の　　[その]日のうちに

パイヂけー　シちャイ　くユー　ムッちャイ　シーネーヨー
針使い[を]　したり　　鍬[を]　持ったり　　したらね

ハナーヂ　うヌ　ナガムンヌ
必ず　　その　長いものが

70A：パブーヌ
蛇が

71B：パブーヌ
蛇が

72A：オ　オホー
　　ほほう

73B：パブーヌヨー
　　蛇がね

74A：ンー
　　うん

75B：ナー　スーてーセー、　うレー　　ヂュンニ
　　もう　来ていたね、　　それ[は]　本当に

　　ミヂラシークとゥ　エン。
　　珍しいこと　　だ。

76A：アー　うヌ　パナシヤ　ワヌン　ワたー　　おヂーちャラ
　　ああ　その　話は　　私も　　私たち[の]　おじいさんから

　　ヒちャヌ　うビー　　あイサー。
　　聞いた　　覚え[が]　あるよ。

77B：ハー　うリビけーヨー　フンとー
　　ああ　これだけはね　　本当に

　　ワッたー　ハたーとゥとゥヨー。（A　ンー）
　　私たち　　あたっているからね。（A　うん）

　　うリビけー　ミヂラシ、　ミヂラセン。
　　これだけは　珍しい、　　珍しい。

78A：んー　ワたー　　おヂーガンヨー　ちュヘイ
うん　私たち[の]　おじいさんもね　一度

ムかシ　　ヤッたン　ドゥーシガ、
昔[のこと]　だった　　というが、

うヌー　タバーく、　ムかセー　ナマヂブン　（B　ウン）
その　　たばこ、　　昔[は]　　今頃　　（B　うん）

トィいリ　ヤッてーセー。　うリ　トィいリ　ちー
取り入れ　だっただろう。　それ　取り入れ　して

なー　シナー　ムッちち　　ポーてィ
もう　砂[を]　持ってきて　まいて

ピルーヤ　なー　あヌー　うガンヤスーミ　ヤとゥ　（B　ウン）
昼は　　もう　あの　　祈願休み　　だから　（B　うん）

ハシー　　かーてィラ　ヤスーミン　ディち、
昼食[を]　食べてから　休む　　といって、

ワた　　プスー　　ノーギョー　ネッシン　ヤてンバー、
私たち[の]　祖父[は]　農業[に]　　熱心　　だったわけ、

エとゥ　ハシービヌ　ヂブン　　ナルーガリー　ディち
だから　遊びの　　時間[に]　なるまで　　といって

タバーく　　ハちちー　　ミャーニーてィ
たばこ[を]　掻きとってきて　庭で

プスン　ディスーグとぅ　ワた　　ミャーラ、
干そう　とすると　　私たち[の]　庭から、

いリーラ　いヂてィち　　ヂューちビけー　タッち
西から　　[蛇が]出てきて　尾だけ[で]　　立って

マッスグヨー。　ミャッちー〔22〕
まっすぐね。　庭へ来て

パブーヌ　タッちャン　リち　　ワた　　プスーガ
蛇が　　立った　　といって　私たち[の]　祖父が

うンちャーラ
その時から

79B：フンとーヨ。
本当だよ。

80A：ナンとぅ　ヒちュナサてィン　ニングゥちうマちーヌ　バーヤ
どんなに　忙しくても　　二月ウマチーの　　場合は

ナー　ユくディ、　ヤスミル　スンドー　ディち、
もう　休んで、　休むんだよ　　といって、

ワッたーニ　ちャー　いーシきルたンバー。
私たちに　　いつも　言いつけたんだよ。

81B：ンー　うレー　　フンとー　あイてーヌ　クとぅ。
うん　それ[は]　本当に　あった　　こと[だ]。

82A：いー　　ヤン　あンナー　（B　おー）
おまえたち[の]　家も　あるか　（B　はい）

＊＊　うリー　あインナー？
＊＊　それ　あるか？

83B：フンとー　あイてーヌ　クとゥ　エーとゥヨー。
本当に　あった　こと　だからね。

84A：ホホー
ほほう

85B：うリヤ　ナー　ハー　ミヂラセン。
それは　もう　ああ　珍しい。

うレー　なー　ミヂラサビけール　あイル。
それは　もう　珍しいばかりだ。

86A：パイ　パイ　パイヂけー。
針　針　針使い。

87B：んー
うん

88A：うリとゥ　くェー　くェー
それと　鍬　鍬

89B：くェー　ムちューシとゥ。
鍬[を]　持つことと。

90A：ンー　くェー　ムちュシヤー。
うん　鍬[を]　持つのは。

91B：とゥヨー、　マた　あヌー　タバーく、
とね、　　また　あの　　たばこ、

タバーくヌ　　ミーち　いッちャイ
たばこ[畑]の　中に　　入ったり

92A：あー　タバーく　あーハー
ああ　たばこ　　ああ

93B：おーラき　（A　ホホー）　スこたイ　スーシヨー。
青竹　　（A　ほほう）　作ったり　することね。
22↑23
フリヤ　ナー　フンとー　ちユミラーヌバ
それは　もう　本当に　　清めなければ

ナラヌー　リ　うミン。
ならない　と　思う。

94A：おホーホー、　えー　うヌー　うイヂ　フサーギシヤ
ほほう、　　ああ　その　　上で　　お供えしたのは

カミンちュ〔23〕ビけー、　ムラーとゥ　カミンちュビけーガ
神人だけ、　　村と　　神人だけが

いヂー　フサーギーてィ、（B　ンー）
行って　お供えしたのか、（B　うん）

ナー　ナーメーメーヌ　ヤーヤ　ヨイ
もう　各自めいめいの　家は　　ただ

ちユミヌ　うリ　エンてルヤー。（B　ンー　ン）
清めの　　それ　だったんだな。（B　うん　うん）

あンセー　　ニングゥちヤ　フッサー　レールヤー。
そうすると　2月は　　それだけ　だね。

サングゥちヤ　うガ　　シマーヤ　サングゥツサンニちヌバーヤ
3月は　　我々[の]　村は　　三月三日の時は

アー　ムかシヤ　うヤビーヤ　ムルー
ああ　昔は　　親たちは　　みんな

カーサビンとー〔24〕　ちー
カーサ弁当を　　して[＝作って]

ムラーちル　　いヂンセーてームンヤー。
村[の事務所]へ　お出になったんだよね。

あイ　アランてィー。
そう　でなかったのか。

95B：あイ　うリーヤ　ムラーちヤ　ラーヌヨー。
　　あれ　それは　　村では　　ないよ。

96A：ムかーシヤ。
　　昔は。

97B：ムかーシヤヨー　あヌ　ベンとー　ヒちヨー
昔はね　　あの　弁当[を]　して[＝作って]ね

くミー　リちー　　あイたセー。
組　　といって　あったでしょう。

98A：あッ　サーたーグミ〔25〕ヌ　うリー　ラッてィー。
あっ　砂糖組の　　それ　　だったのか。

99B：サーたーグミ　（A　おホー）　あラたグミ　あガリグミ
砂糖組　　（A　ほほう）　アラタ組　　東組

うルングミ　リち　　ミくーミ　あイてンバー。
ウルン組　　といって　3組　　あったわけ。

100A：んー　んー　えーガグミ、ユくーミローヤー
うん　うん　エーガ組　　4組だよ

うガ　　シマー。
我々[の]　村[は]。

101B：ンー　ンー　うヌ　ユくミヌ　ちュヌーヤー　（A　オッホー）
うん　うん　その　4組の　　人がね　　（A　ほほう）

メイメイ　あヌー　モーち　いヂー　（A　ンー）
めいめい　あの　　野に　　行って　（A　うん）

あマーヂ　あヌー　ナー　ユーニゲー　ディちヌ　バーてー。
向こうで　あの　　もう　豊年の願い　という　　わけね。

102A：あー　あー　ユーニゲー　ンー　ンー。
　　ああ　ああ　豊年の願い　うん　うん。

103B：なー　フミン　ヌーフイ　あヌ　メーン　ヌーフイ　うイてィ、
　　もう　米も　なにもかも　あの　稲も　なにもかも　植えて、

　　うリガ　ディきニゲー〔26〕　ディちヨー、
　　それが　できる願い[＝豊作祈願]　といってね、

　　くミヌ　ちュー　ナーメーメー　モーち　いヂー、
　　組の　人[が]　各自めいめい[で]　野へ　行って、

　　マた　わー　ヤちー、　プちバー
　　また　豚[を]　屠殺して、　ヨモギ[を]

　　ワハーちャイ〔27〕ヤー、（A　あー　ハーハー）
　　沸かしたりね、　（A　ああ　ははあ）

　　スーヌ　バーン　あイー　マた　ベンとー　ヒちー
　　する　時も　あって　また　弁当[を]　して[＝作って]

　　スルルンバーン　あイ。
　　集まることも　ある。

104A：アー　ソー　ソー　ワヌー
　　ああ　そう　そう　私

105B：あンち　スーてンバー。
　　あのように　していたわけ。

106A：サングゥちサンニちヤ　ムラーヂ　ムルー　ニッかンちュ
三月三日は　村で　みんな　／／／／／／

あちマてィ　スーンディ　うムグとゥ
集まって　[行事を]すると　思ったら

あイ　ラッてィー？
そう　だったのか？

107B：あンちー　ラッたンドー。
そうでは　なかったよ。

108A：あンセー　サーたーグミヌ　（B　おー）
そうすると　砂糖組の　（B　おお）

ナーくミグミル　ウ　スルてィ　うリ　（B　んー）
各組々[が]　×　集まって　それ　（B　うん）

スーてーサヤー。（B　おー　あイ　ランたンドー）
していたんだね。（B　はい　そうでは　なかったよ）

あンセー　クシユくイ〔28〕　ルヌ
そうしたら　腰休め[＝骨休め]　という

いミ　レーガヤー。
意味　なのかな。

109B：ンー　ヲーヲー　うレーヤヤー　サングゥちサンニちガリヤ
ええ、いいえ　それはね　三月三日までは

ナー　フミー、　メー　ムル　　うイてーとゥ
もう　米、　　稲　　みんな　植えているから

（A　アア　あー　あー）　うリーガ　あヌ
（A　ああ　ああ　ああ）　それが　　あの

まーラシニゲー　ディちヨー、　あヌ　うリガ
豊作の願い　　といってね、　あの　それの

ニゲー　　スンディ　　ムル　　くミヌ　ムン
願い[を]　すると[いって]　みんな　組の　　者

110A：ホーネンヌ　ニゲー　ラッてンバー　ヤサヤー。
豊年の　　願い　　だったわけ　　だね。

111B：ホーネンネガイ　ヤてンバー。
豊年願い　　だったわけ。

112A：あッ　うヤビーヤ　あンちー　　シちー
あっ　親たちは　　そのように　して

ミッかニ　あり　　シーバ　マた
3日に　　あれ[を]　すれば　また

うガミー　ニセーたー　うヌ　（B　メーラビンちャー）
我々　　青年たち　　あの　（B　娘たち）

メーラビンちャーヤサー　ユッかヌ　ぴー　（B　ユッか）
娘たちはね　　4日の　　日　　（B　4日）

マた　カーサバービンとー　うリー　　タヌシミ　ヤたルヤー。
また　カーサ弁当　　それ[が]　楽しみ　だったね。

(B　ンー　うレー　マシ　ヤたン)
(B　うん　それは　よかった)

ホー　ワッたー　やー　　ユナガとゥ　ナー
ほう　私たちは　おまえ　夜通し　　もう

いー　　カーサビンとー　けンディ　(B　{笑})
おまえたち[の]　カーサ弁当を　食べようと　(B　{笑})

いー　　あとーラ　うーてィ　やー
おまえたち[の]　あとから　追いかけて　おまえ

23↑24

113B：ハナセン　ちュー　トゥメーてィ　カースン
愛しい　人[を]　探して　　食べさせる

リヨー　　{笑}
といってね　{笑}

114A：えー　アー　ぴンマサーヌ　えー。ワン　ナー
ああ　ああ　珍しい　　ああ。私[は]　もう

ナーグヨーか　いヂちリヤ　　ウラーヌー　リ　うミーサー。
女よりも　　勇気のある者は　いない　　と　思うよ。

ワッたガ　ワかサイニヨー
私たちが　若い頃にね

115B：ハナセン　ちゅー　ウラーヌバ　なー　ちゅーうイン
愛しい　人[が]　いなければ　もう　人追いも

サーヌバー　ディちヨー。{笑}
しなければ　といってね。{笑}

116A：マた　うリガリーヌ　メーラビンちャー　ムスメサンたーヤ
また　その頃までの　娘たち　娘さんたちは

ナルべく　ヂかン　ニーか　ベンとー　ヒラちュシル
なるべく　時間　遅く　弁当[を]　開くの[を]

イーてィー　スーたンドー。（B　{笑}）
得意[と]　していたよ。　（B　{笑}）

おー、うヌ　ヨイ　ヂューシゴナー　ナイヌ
うん、その　ただ　14、5くらいに　なる

うヌ　ワラビーグゥーたー　ヨーネーフちネー　（B　ンー）
その　幼い子どもたち[は]　宵のうちに　（B　うん）

ビンとー　うリ　ヒちー　ムル　ニンビシガ、
弁当[を]　それ　して　みんな　寝るが、

なー　マぷーか　メーラビンちャー　ナリーバちャラ
もう　真っ盛りの　娘たち[に]　なると

ちャー　ニーか　けーシル
いつも　遅く　食べるのが

117B：ニーか　ダーヌ　　ヤンくゥーち　かーヤー　　ディちサ
遅く　どこそこの　小屋で　　食べようね　と言ってね

118A：んー　あンとゥ　　いーガ　　うリ　　ぴラくガリー
うん　そうだから　おまえたちが　それ[を]　開くまで

（B　{笑}）　ワッたー　　いー
（B　{笑}）　私たち[は]　おまえたち[の]

あとゥラ　うーてィ、　ユナガとゥナー
後ろから　追って、　夜通し

うーたッちュたンバーてー。（B　{笑}）
追い続けていたわけね。　（B　{笑}）

トー　うニーネー　ナー　ソーリ　サーリバ
さて　その時に　もう　本当だと信じられれば

うリエシガ　うニーネー　なー　うイポーラリーネー
よいのだけれど　その時には　もう　追い払われたら

なー　デーヂナムンドー。
もう　たいへんなことだよ。

なー　ヒきガヌ　やー、　えー　ワッたーガ
もう　男が　おまえ、　ああ　私たちが

ちュへイ　ハンナバーン　あイたンドー。
一度　そんなことも　あったよ。

沖縄今帰仁 24-4

ワーちゃー　＊　グルくニン　ヒきガンちゃー　ムル
私たち　＊　5、6人　男たち[が]　みんな

ナーグヌ　あトゥラ　うーたッちュてンバー、
女の　後ろから　追い続けていたわけね、

スーグとゥ　うヌー　ヒきガンちゃヌ　キー　キかーち
そうすると　その　男たちが　気[を]　きかせて

なー　ヌギリバヤ　ヌーンランてンバー　ヤシガ、
もう　抜ければ　なんでもなかったのだが、

ヤッぱリ　ムルー　セイネンレンバートゥ
やっぱり　みんな　青年なのだから

ムルー　カーガミ　トーセイ　ビセイ
みんな　////　////　///

マたー　ナーグラビーとゥ　ハシビブセンバーとゥ
また　女たちと　遊びたいものだから

ユナガとゥ　うーてィ　あッちェンバーてー、
夜通し　追って　歩いていたわけね、

シちゃーとゥ　なー　ユー　ハきールか
そうすると　もう　夜[が]　明けるまで

うーたッちェンバーとゥ、
追い続けていたわけだから、

あッとゥヤ　ナーグラビーヌ　なー　いーヤ
しまいには　女たちが　　もう　おまえたちは

なー　いーヤ　　あイ　　ヒけーヨー、
もう　おまえたちは　向こうへ　行きなさいよ、

ちッちュラビー　あンち　　ゆーたサー　　えー。
／／／／／／／　そのように　言っていたよ　おい。

119B：ハナくネン　ちューネーナー？
愛しくない　人にね？

120A：んー　んー。（B　{笑}）
うん　うん。（B　{笑}）

ハー　ナー　うリヤ　ワッたー　　ヒきガヌヤ　ナー
はあ　もう　それは　私たち[は]　男には　　もう

ヌー　　てィーちナー　かバン　　あイレール、
なに[を]　一つずつ　　食べようと　それでよく、

ワッたー　　いー　　あイ　　ヒけー　リヤ
私たち[は]　おまえたち[に]　あっちへ　行け　　とは

ゆーサンサー　　ヒきガヌヤ。
言うことができないよ　男には。

ナーグヌ　いぢちリリバヤ　パてィちームン　ヤシガ。　{笑}
女が　　勇気を出すと　　果敢なもの　　だよ。　　{笑}

121B：{笑}　ハナくネン　ちューヤ　うンこ
{笑}　愛しくない　人は　　うんこ

122A：うンこ　りちヨー。　ハー　ナンマ　カンゲーリバ
うんこ　といってね。ああ　今　　考えると

ヨーシマサンヌ　ナランドー。
すさまじくて　たまらないよ。

うリー　{笑}（B　{笑}）ハー　いー　　カ
これ　{笑}（B　{笑}）はあ　おまえたち　×

いー　　ビンとー　けンち　　やー
おまえたち[の]　弁当[を]　食べようと　おまえ

ワッたー　ユナガとゥ　ナー　いー　　あッとゥーラ
私たち　夜通し　もう　おまえたち[の]　後ろから

うーてィヤー。{笑}　エーシガ
追いかけてね。{笑}　けれども

123B：マた、マた　ヒきガンちャー　マた　あノ　ナーグンちャヌ
また、また　男たち[は]　また　あの　女たちの

ベンとー　かーてィン　カワイ　りちヨー　（A　んー　んー）
弁当[を]　食べた　お返し　といってね（A　うん　うん）

マた　サーたーヂャき〔29〕　シちちーヨーヤー
また　砂糖酒[を]　して[＝作って]きてね

（A　んー　ソー　サーたーヂャき　{笑}）
（A　うん　そう　砂糖酒　　{笑}）

サーたーヂャき　ディいーバ　ナー　あヌー　＊＊
砂糖酒　　といえば　もう　あの　＊＊

うリン　あヌ　ハくとー　リちン　　ネーヌ
それも　あの　白砂糖　　といっては　ないから

24↑25

サーたーユー〔30〕　くリチェーシ。
砂糖湯[を]　　汲んできたもの。

124A：サーたーヂャき　えー　{笑}
砂糖酒　　ああ　{笑}

125B：{笑}　サーたー　くリちェーシ。　サきー　ホーてィちー
{笑}　砂糖[を]　汲んできたもの。酒[を]　買ってきて

うヌ　サーたーユー　サきネー　キヂー
その　砂糖湯[を]　　酒に　　混ぜて

ムちャムちャ　シミーてィ　{笑}
ねばねば　　させて　　{笑}

126A：えー　ティー　ムちャムちャ　ちン　　やー
ああ　手が　　ねばねば　　しても　おまえ

うリー　クスイ　ラッてール。{笑}
それ　　薬　　だったんだ。{笑}

127B：ムちャムちャ　ちー、　サーく　　ナーグラビーネー
ねばねば　　して、　すっかり　女たちに

サき　　ヌマスンディちヤー。　{笑}
酒[を]　飲ませようとね。　　{笑}

128A：ちュへイ　メーヌ　　おヂーとゥ　　ワッてイヨー、
一度　　前の[家の]　おじいさんと　私たち二人ね、

ちュへイ　ナーグラビーニ　ソーラサッてィ
一度　　女たちに　　連れられて

ナー　ごちソーヤ　ちャンとゥ　かーとゥンバーてー、
もう　ごちそうは　ちゃんと　　食べていたわけね、

シーシバ　　ワッてイグンナー　コズかイ　いッセンちュン
そうすると　私たち二人とも　　こづかい　一銭たりとも

ヂン　　ネーンバヨー、（B　{笑}）
お金[が]　ないわけね、　（B　{笑}）

ネーヌ　ちュヌ　ムンヤ　かーてィ、　ナー　サきン
なくて　人の　　ものは　食べて、　　もう　酒も

マた　いちゴーヤ　ホーてィ　いヂャシバレーシガドゥ
また　1合は　　買って　　出さなければならないが

うリン　ヂン　　ネン　ワヌン　ヂン　　ネンバーエ、
彼も　　お金[が]　ない　私も　　お金[が]　ないわけだ、

ワッたー　ヂン　　ネンとゥ　ダー　ホーユーサンバーヨー。
私たち　お金[が]　ないから　もう　買えないわけよ。

スーリバ　ナー　うッたーヤ　ボーシ　くディー
そうすると　もう　それたちは　帽子[を]　編んで

コーちン　ナマー　コヂュカイ、　ブー＊＊　あンバーてー
工賃　今は　こづかい[が]　／／＊＊　あるわけね

ムスメサンたーヤ。
娘さんたちは。

129B：ンー　コヂュカイ　ムル　あイ　スーてール。
うん　こづかい[は]　みんな　あったはずだ。

130A：ナーちャー　マた　コソコソバナシ　スーたムン、
彼ら同士　また　こそこそ話[を]　していたのに、

ヌーガー　ルーグとゥ　ナーちャー　マた
なにか　というと　彼ら同士　また

131B：ヌちャーち
募って

132A：ヌちャーち　マたー　サきー　ホーてィちー
募って　また　酒[を]　買ってきて

テーパくヂャ、　サーたーヂャき　ちー
太白[糖]酒、　砂糖酒[を]　して[＝作って]

うヌ　サきガリー　ワッたー　　ナーグラビーヌ　ホーティ
あの　酒まで　　私たち[は]　女たちが　　買って

ヌマサッタンバーン　あインドー。
飲ませたことも　　あるよ。

ヂン　いッセンちュン　ネーン。　タヌシミ　ヤたムンヤー。
お金　一銭たりとも　　なくて。　楽しみ　　だったのにね。

133B：サーたーユー　ナー　サーたーわイ〔31〕ネー
砂糖湯　　もう　砂糖[製造の]終わりには

サーたーユーヤ　ハナーヂ　いッショビンヌミー
砂糖湯は　　必ず　　一升瓶のいっぱい

ムかシヌ　あヌ　いッショビン　あイたシー。
昔の　　あの　一升瓶[が]　　あったでしょう。

134A：んー　あノー　ツちヤきヌ　あイ　（B　んー　ツちヤき）
うん　あの　　土焼きの　　あれ　（B　うん　土焼き）

ワたブたー〔32〕　あ　あヌー
腹の大きい　　あ　あの

135B：うリガ　いッぱイナー。
それの　[容器]いっぱいに。

136A：ちュワかサー〔33〕　あイたンヤー。
１升の量[の酒が]　あったね。

137B：いッぱイナー　くリちューてィヨー
いっぱいに　　汲んできてね

うリーちル　あヌ　サきーニ　キヂューてィ
それで　　あの　酒に　　混ぜて

サーたーヂャき　スこールたンドー。{笑}
砂糖酒[を]　　作っていたよ。　　{笑}

138A：ダかラ　あンナーヌムン　カンゲーリバ
だから　そんなもの[を]　考えると

ムかシル　マシ　ヤたンドー。（B　{笑}）
昔[が]　　よかったよ。　　（B　{笑}）

サングヮちヤ　あンセー　ナー
3月は　　そしたら　もう

139B：うリヤ　マシー　ヤてンてー。{笑}
それは　よかったでしょう。　{笑}

140A：ハー　ワッたー　ちャー　サングヮち
はあ　私たち　　いつも　3月[は]

いエ　あヌ　ムかーシ　ヤたリバヤー　ディル
いや　あの　昔　　だったらな　　と

ワー　　うミール。
私[は]　思う。

141B：マた　パマヂ　マた　ナー　ヤンくゥーヤ　ダーン
また　浜で　また　もう　小屋では　なくて

うリ　ディち　パマヂ　エー　マた　スルとゥてィ
それ　といって　浜で　ああ　また　そろって

かーたイ。{笑}
食べたり。{笑}

142A：うガ　シマーヤ　パマち　いヂリバヤ　いッぴャ
我々[の]　村は　浜へ　出れば　伊平屋[島を]

メーナち
目の前にして

143B：ヂこー　タヌシミ　ヤたンヤー。
とても　楽しみ　だったね。

144A：ヒちューヌ　ユーンデーヌ　エーヌバー、
月の　夜などの　時、

いッぴャ　ミャーリンバー
伊平屋[島が]　見られるわけ

ヤとゥ　まーネー　ナーグン　ヒきガン　ムル
だから　ここに　女も　男も　みんな

145B：ンー　ナー　ナー　ナー　パマち　スルーとゥてィヨー。
うん　もう　もう　もう　浜へ　そろっていてね。

146A：パマネー　ピサー　ヌバーち　フたー　サイ。
浜で　足[を]　伸ばして　歌ったり。

ヒきガヤ　サンシン　ピち
男は　三味線[を]　弾いて

ヒナーグヤ　フたー　ヒち、
女は　歌[を]　して[＝歌って]、

タヌシミ　ヤたンドー。　ムかシヤ　モーあシビ
楽しみ　だったよ。　昔は　野遊び[が]

あイてーイ。
あったし。

147B：うリー　うリーヤ　タナシミ　ヤたンドー　ンー。
それ　それは　楽しみ　だったよ　うん。

148A：サングゥちヤ　ナー　フッサー　ラッてィー？
３月は　もう　[行事は]それだけ　だったか？

149B：ンー　ンー　サングゥちサンニちガリ。
うん　うん　三月三日まで。

25↑26

150A：シングゥちヤ　あブシバレー〔34〕。
４月は　畦祓い[がある]。

151B：ハイ　ンー　あブシバレー。
はい　うん　畦祓い。

152A：あブシバレーヤ　うリー　ムラヌ　ぴー　ヒちル
畦祓いは　それ　村の　日として

スーてンナー？
やっていたのか？

ナー　ムかシヤ　ぴー　サダマとゥイてィナー？
もう　昔は　日[が]　定まっていたか？

153B：ぴー　サダマラン。ぴー　ヒチー
日[は]　定まらない。日[を]　して[＝選んで]

154A：ぴー　うヌ　トゥシニ　ユッてィ
日[は]　その　年に　よって

ぴー　ヒち　ラッてィ？
日[を]　して[＝選んで]　だったか？

155B：ンー　うヌ　トゥシニ　ぴー　ヒちー
うん　その　年に　日[を]　して[＝選んで]

156A：ホホー　うニー　ヤッぱリ　いちオーヤ
ほほう　その時には　やっぱり　一応は

ヤー　ちユミてィ　ムル　ヤーちー　ソーヂ　ちー
家[を]　清めて　みんな　家で　掃除[を]　して

パたーきン　タン　パルン　ムル
畑でも　田も　畑も　みんな

157B：あブシバレー　ディちヨー
　　畦祓い　　といってね

158A：あブシバレー　ちー
　　畦祓い[を]　　して

159B：うリヤ　メーヌヨー、メー　　うイてィヌ、
　　それは　稲のね、　　稲[を]　植えての、

　　ナー　うリ　ヤてとゥ。
　　もう　それ　だったから。

160A：ナー　プー　　いヂガたー。
　　もう　穂[が]　出そう。

161B：プー　　いヂガた　エとゥ、あマーヂ　マた
　　穂[が]　出そう　　だから、向こうで　また

　　あブシ　パレーン　ディち　　アリ　（A　あハハー）
　　畦[を]　祓う　　といって　あれ　（A　ああ）

　　ハナーヂ　うヌ　ノーミ
　　必ず　　その　×××

162A：あハハー　あンセ　　うレー、　いワユル
　　ああ　　そしたら　それ[は]、いわゆる

　　ソーヂ　ルヌ　　いミ　レーサヤー。
　　掃除　　という　意味　なんだな。

163B：ソーミ、 ソーヂ、 ノーミンヤ　ハナーヂ
　　×××　　掃除、　農民は　　必ず

　　あブシー　ヂヨー。　（A　ンー　ンー）
　　畦[に]　　行ってね。（A　うん　うん）

　　うヌ　ぴーヤ　クサー　ハてィ
　　その　日は　　草[を]　刈って

　　あブシヌ　シューイ　ムルー　クサー　ハてィ
　　畦の　　周囲　　すべて　草[を]　刈って

　　ハナーヂ　あン　サーヌバ　　ナランてンバー。
　　必ず　　そう　しなければ　ならなかったわけ。

　　（A　ホホー）あブシバレーヤ　うリヤ　ンー
　　（A　ほほう）畦祓いは　　それは　うん

　　うヌ　ノーミンヌ　ナー　うヌ　シングゥちヤ
　　その　農民の　　もう　その　4月は

　　あブシ　パレーン　ディユヌ　いミ　レッてンバー。
　　畦[を]　祓う　　という　　意味　だったわけ。

164A：んー　あブシバレー。まー　いワユル　あヌー
　　うん　畦祓い。　　そこ　いわゆる　あの

　　ウヂン　　ナー　サーたン　わーてィ、
　　サトウキビも　もう　砂糖も　　終わって、

ウヂン　　くエー　いンてィ　ティーリ　ヒちー
サトウキビも　肥料[を]　入れて　手入れ[を]　して

(B　くエー　いンリ　シち)
(B　肥料　入れ[を]　して)

マた　メン　うイてィ　ナー　ヒとツ　マー　あルてイド
また　稲も　植えて　もう　一つ　まあ　ある程度

ノーかンき　スこシ、うッぴ　ぴマ、ノーギョーヌ
農閑期　少し、　少し　暇、　農業の

ヒマ　エヌ　オリ　てヤー　うリーネーヤ。
暇な　折[＝時期]　だね　その時には。

165B：うヌ　ぴーヤ　マた
その　日は　また

166A：あヌ　いローヌ　いミ、ヤッぱリ　クシユくイ　ルヌ
あの　慰労の　意味、やっぱり　腰休め[＝骨休め]　という

いミ　レンてーヤー　うレー。
意味　だったんだね　それは。

167B：マた　まームちーヤ　まー　ムッち、
また　馬持ちは　馬[を]　持って、

マた　まー　パラち〔35〕
また　馬[を]　走らせて

168A：まー　パラーちヤー
馬[を]　走らせてね

169B：ムとゥブラン　ナきヂンラン
本部からも　今帰仁からも

170A：あガーリナちヂン〔36〕ラン
東部の今帰仁からも

171B：ンー　ムル　まー　ムッち　まースーブ　ちー、
うん　みんな　馬[を]　持って　馬競争[を]　して、

マた　うイムンサー　りち　マた　まーち
また　売り物をする人　といって　また　ここに来て

うイムンサー　クリバ　ムル
売り物をする人[が]　来ると　みんな

ビービンサー〔37〕　りちサー　ワラビーヤ　ムル
ビービンサー　といってね　子どもたちは　みんな

ビービンサー　ホーてィ　{笑}
ビービンサー[を]　買って　{笑}

172A：ビービンサー　{笑}　ビービンサー　＊＊　ウンネー
ビービンサー　{笑}　ビービンサー　＊＊　その時

ビービンサー　あイサー。{笑}
ヒービンサー[が]　あったね。{笑}

173B：ビービンサー　　ホーレイ　　あモーイ
「ビービンサー[を]　買ってくれ　おかあさん」

ヒちサー　　{笑}
と言ってね　{笑}

174A：マた　ニーセーたヤ　いー　　ムスメサンたーガ　マたー
また　青年たちは　　おまえたち　娘さんたちが　　また

ヤきドーフ、　ハーかシドーぷ〔38〕　うリーバ
焼き豆腐、　かわかし豆腐[を]　　売れば

うリ　　マた　ホーてィ、　マた　ヂューシーメ〔39〕ン
それ[を]　また　買って、　　また　雑炊飯[＝炊き込みごはん]も

175B：ティンぷラ
てんぷら

176A：あヌ　うヌ、　ティンぷラ、
あの　その、　てんぷら、

トーウヂ〔40〕ガリ　うイたンドー、　トーウヂガリ
唐黍まで　　売ったよ、　　唐黍まで

177B：ワた　　ドゥシビーヤヨー　ハナーヂ　ティンぷラ
私たち　友だちはね　　必ず　　てんぷら[を]

ヤち　　うイたシガヨー　（A　オー　ンー　ンー）
焼いて　売っていたがね　（A　おお　うん　うん）

26↑

ナー　うヌ　ヒきガンちゃヌローヤー　あヌ
もう　その　男たちがね　　あの

↑27

てィンぷラ、　とー　マンナ　けーバ　　リちヨー。
「てんぷら、　さあ　一緒に　食べなさい」と言ってね。

マた　うヌ　てィンぷラ　　ワッたーニ　かーシバ、
また　その　てんぷら[を]　私たちに　　食べさせれば、

ワッタムンラ　　ホーてィ　かーシバヨー
私たちのものから　買って　　食べさせると

マた　うリ　　ハくチュてィヨー、
また　それ[を]　隠しておいてね、

かングイ　マた　うリ　　フてィー　{笑}
食べずに　また　それ[を]　売って　　{笑}

178A：トー　あンセー　　ナー　いー　　モーきヤ
もう　そうしたら　もう　おまえたち[の]　もうけは

ヤーネー　いラン。　ハー　とー
家に　　入らない。ああ　もう

ちュヌ　セッかく　ホーてィ　かーちェーヌムン　やー
人が　　せっかく　買って　　食べさせたのに　　おまえ

うリ　　かングとゥ
それ[を]　食べずに

179B：モーき　　マンドゥンてンバーヨー。{笑}
もうけ[が]　たくさんあったわけよ。　{笑}

180A：ハー　とー　いーヤ　　デーヂ。
ああ　もう　おまえたちは　たいへん。

たー　いー　ヂヌー　タブラリンナー　うリー。{笑}
／／　／／　／／／　／／／／／／／　これ。　{笑}

181B：うヌ　ティンぷラ　ちャンスーガー　リ　いーバヨー、
その　てんぷら　どうするか　と　いうとね、

メリけンゴ　ホーてィちヨー
メリケン粉[を]　買ってきてね

トーぷンかシ　チャッサンナーゲーラ〔41〕　いンてィヨー。
おから[を]　どんなにかたくさん　入れてね。

（A　ホホー）　ハく　フッぴンナー　ヤきーバ
（A　ほほう）　すぐ　少しずつ　焼けば

ヤッセン　ディち　なー　ニーセーたーガ
安い　といって　もう　青年たちが

ヂこー　ホールンバーヨー。（A　ウン　ウン）
とても　買うわけよ。　（A　うん　うん）

ホールてーとゥ、サーグ　あイ　うリーたムン　ヤッサヌ
買っていたから、すっかり　あれ　あれたちのもの　安いから

ディー　うりー　　ホーてィ　かー　　ディちヨー。
「さあ　それ[を]　買って　　食べよう」と言ってね。

スグ　いッぱイナー　スルルたンヨー。
すぐ　いっぱい　　集まっていたよ。

182A：トーぷンカシ　いンてィ　マーセンてー。
おから[を]　入れて　おいしいだろうな。

183B：マーセンドー。
おいしいよ。

184A：ンー　マーセンてー。
うん　おいしいだろう。

185B：X1とゥ　ワッてィ　　ユー　くミ　スーたシガヨー、
X1と　私たち二人　よく　組　していたがね、

あガーミ　うッたーガ　かーサバ
「我々[は]　彼らが　　食べさせたら

マた　ハヂミとゥてィ　うラーヨー　ちー。　{笑}
また　隠しといて　　売ろうね」　と言って。{笑}

186A：アー　トー　いーヤ　　ナー、
ああ　もう　おまえたちは　もう、

いー　　モーきヤ　うリ　ナマ　うリガ　リシち
おまえたち[の]　もうけは　それ　今　それの　利子で

いー　　かーリンてー。　{笑}
おまえたち　食べられるだろう。{笑}

187B：タクーマ　あイてンバーヨー。{笑}
知恵[が]　あったわけよ。　{笑}

188A：マた　うヌ　ヂューシーメーニン　あり　クブー、
また　その　雑炊飯にも　　あれ　コンブ、

クブー　　コきヂャミ　ちー　あり　うリ　マた
コンブ[を]　小刻み[に]　して　あれ　それ　また

おちャワンネー　あンち　　ムてィ　うリン　うイたンドー。
お茶わんに　　こんなに　盛って　それも　売っていたよ。

189B：うリー　うリ　サンセンナー　エッたン。
それ　　それ　3銭ずつ　　だった。

190A：サンセン　ハー
3銭　　はあ

191B：サンセンナー　ヤたン。
3銭ずつ　　だった。

192A：サンセンー。（B　ンー）なンマ　ワラビー
3銭。　　（B　うん）今[の]　子ども[は]

サンセン　イーちュン　スンナー　　やー。
3銭　　もらいさえ　するか[いや、しない]　おまえ。

193B：{笑}　サンセンナーち　うイたシガヨー　（A　ホー）
{笑}　3銭ずつで　売っていたがね　（A　ほう）

あヌ　うリン　マた　ユー　モーき　あイたンヨー
あの　これも　また　よく　もうけ[が]　あったよ

ルーシーメン。
雑炊飯も。

194A：アー　ルーシーメン。
ああ　雑炊飯も。

195B：ルーシーメン　ムル　あヌ　あー　マた
雑炊飯も　みんな　あの　ああ　また

うニーヌ　フミーヤヨー　トーグミ　リちヤー、
その時の　米はね　唐米　といってね、

サラサラ　ヒちヨー
サラサラ　してね

196A：あヌ　サラサラ　マーくネーヌー。
あの　サラサラ[して]　おいしくないもの。

197B：ンー　マーくネーヌー。　シャムマイ　リちー　あイたシガヨー
うん　おいしくないもの。　シャム米　といって　あったけれどね

うリ　ホーてィ　ちー　なー　うリン　マた　ムル
それ[を]　買って　きて　もう　それも　また　みんな

マーサル　スーてーシサー。
おいしそうにしていたしね。

198A：あサ　やー　メー　かーてィミャームン。
ああ　おまえ　米[を]　食べてみないのに。

199B：{笑}　メー　かーてィミャン。
{笑}　米[を]　食べてみない[から]。

200A：うムビけー　かーてィミャ、　いーヤ　あンセー
芋だけ　食べて××、　おまえたちは　そしたら

ナハバル〔42〕　あブシバレンバーン
仲原[の]　畦祓いの時も

シマヌ　あブシバレンバーン　グッちン〔43〕　あブシバレンバーン
村の　畦祓いの時も　具志堅[の]　畦祓いの時も

ちュとゥ　ミヘーブン　ティンぷラ　うリーバヤ
1年[に]　3回分　てんぷら[を]　売れば

ナー　いー　うり　フンとー　{笑}　(B　{笑})
もう　おまえたち　それ　本当　{笑}　(B　{笑})

いー　チョきンヤ　ナー
おまえたち[の]　貯金は　もう

うレー　シかたンてン　ピナランてー。
それは　使っても　減らなかっただろう。

27↑

201B：あンナーヌバールサー　モーきール　リちヨー
そんな時にこそ　もうける　といってね
↑28
グッちンヌバーン　ハナーヂ　ヒちュたンドー。
具志堅の時も　必ず　行っていたよ。

202A：グッちン
具志堅

203B：ンー。
うん。

204A：ヤッぱリ　あンナーヌムン　カンゲーリバ　ムかーシン　タ
やっぱり　そんなものを　考えれば　昔も　×

ケッこー　タヌーシミ　あイてンドー、　ヤッぱリ。
けっこう　楽しみ[が]　あったんだよ、　やっぱり。

205B：タヌシミ　あイてン。　なー　あンナーヌバーヤ　タヌシミ
楽しみ[が]　あった。　もう　あんな時は　楽しみ

206A：なンマヌ　ワラビーヌ　うリ　ワハランドー。
今の　子どもが　それ　わからないよ。

あンナーヌ　タヌシミー　ンー。
そのような　楽しみ　うん。

207B：あイ　マた　うヌバーナーネー　ワハムンチャ
あれ　また　その時には　若者たちは

トゥメーシン　ウイ　スーてール。
[相手を]探すのも　いたでしょう。

208A：あランサー　うリル　パンブン　シグとゥ　ヤッてール。
いやね　それこそが　半分　仕事　だったんでしょう。

209B：{笑}　ムかーシサー。
{笑}　昔ね。

210A：うリ　やー　ワきー　ネングとゥ　いー
それ　おまえ　わけ[も]　なくて　おまえたち[の]

ティンぷラビけー　イきガン　ホールンナ　やー。
てんぷらだけ　男が　買うか　おまえ。

うヌ　ちムエー　あてィル　いー
その　心づもりが　あってこそ　おまえたち[の]

ティンぷラ　ホールル。{笑}（B　{笑}）
てんぷら[を]　買うのだ。{笑}（B　{笑}）

ヒきガ　ヤリバ　プリムン　ラーヌ
男　なら　ばか　ではない

いー　ティンぷラビけー　ホールンナ　ヤー。
おまえたち[の]　てんぷらだけ　買うか　おまえ。

ヌフイ　ちムエー　あてィル　エール。
なんでも　心づもりが　あってこそ　なのだ。

211B：ワッたー　イきガフとゥルサー　ヤてーとゥ。
私たち[は]　男こわがり　だったから。

あンちェー　サンたンヨー。（A　{笑}）{笑}
そんなには　しなかったよ。（A　{笑}）{笑}

212A：いーガ　ヤー　あイ　ヤてンバーヤシガ
おまえたちが　おまえ　そう　だったわけだが

うヌ　ホールヌ　ヒきガヌヤサー　ヤー　ハー　（B　{笑}）
この　買う　男にはね　おまえ　ああ　（B　{笑}）

ちムエーヌ　あイてィル　ホーてールヤー。{笑}　（B　{笑}）
心づもりが　あってこそ　買ったんだよ。　{笑}　（B　{笑}）

あイ　エー　シングゥちヤ　ナー　うガ　シマーヤ
あれ　まあ　4月は　もう　我々[の]　村は

フッサーヤー。
これだけね。

213B：あブシバレービけー　ギョーヂ。
畦祓いだけ[だ]　行事[は]。

28↑

沖縄県国頭郡今帰仁村1978注記

〔1〕なンマン

喉頭音化した音を含む音節は，ひらがなで表記する。喉頭音化しない音を含む音節は，カタカナで表記する。

〔2〕マシディ　ナーとゥガ

「マシーディ　ナーとゥン」で「一方がよりよいと思われる」という意味の慣用句として使われることが多い。ここでは，「昔の正月と今の正月と比べてどちらがいいと思うか」と聞いている。

〔3〕やー

「やー」（おまえ，きみ）は二人称として使われるのが普通だが，単語と単語の合間に間投詞としても使われる。

〔4〕うガミー

今帰仁方言では，一人称複数を表す単語は「ワッたー」（私たち）が普通に使われるが，そのほかに，「うガミー」「アガミー」（我々）のように，聞き手を含む場合に使われる形がある。

〔5〕うーミンパーナ

女の子の正月遊びに使われる手毬のことを言う。

〔6〕モーブッか

野に生えている苔の一種で，乾燥させてウーミンパーナ（手毬）の芯として利用した。

〔7〕シてィーちブッか

ソテツの葉の付け根の部分についている綿のようなもの。集めて丸く固め，ウーミンパーナ（手毬）の芯にした。

〔8〕ソーバンクくイ

ウーミンパーナ（手毬）の表面に，染め糸で枡形につけた飾り模様の一つ。

〔9〕ハナグくイ

ウーミンパーナ（手毬）の表面に，染め糸で花形につけた飾り模様の一つ。

〔10〕いッぱ

男の子の遊びの一つで，15〜18cmくらいの木切れを使って，遠くまで飛

ばして距離を競う遊び。

〔11〕いリンシマ

自分の住んでいる村を中心にして西の方向にある村のこと。

〔12〕マシヤたンネー　ナーとゥサー

「マシーエンディ　ナーとゥン」と同じ。注記〔2〕を参照。

〔13〕ナンかヌスくー

旧暦の1月7日に行われる行事で，豚の骨をメインに野菜などと一緒に炊き込みごはんを作って，仏前に供えた。

〔14〕わンプニルーシー

ナンカヌスクーで，仏前に供える炊き込みごはんのことを言う。仏前に供えた豚の骨や米を使って料理する。

〔15〕ソーガちングゥー

旧暦の1月14日に行われる行事で，小正月のこと。

〔16〕ヂュールくニち

旧暦の1月16日に行われる行事で，グソー（後生）の正月のこと。墓参りをして墓前を清掃し，墓前祭を行う。

〔17〕ミーサ

旧暦の1月16日に行われる行事で，過去1年間に亡くなった人を弔う法事。

〔18〕マヂリ

間切。市町村制以前の行政区画の単位。数村からなり，郡の管轄に属した。

〔19〕あガリンシマ

今帰仁村は「あガーリンシマー」（東部地域）と「いリンシマー」（西部地域）とに大きく二分され，話者の住んでいる今泊は西部地域になる。

〔20〕ニングゥちうマちー

旧暦の2月，麦の穂が出そろう頃行われる行事。麦の豊作と集落の繁栄を祈願する。

〔21〕ちユミてィ

動詞「ちユミン」（清める）の中止形。物忌みすること。汚れを清めること。

〔22〕ミャッちー

「ミャーち」（庭へ）＋「ちー」（来て）が縮まった語形。

〔23〕カミンちュ

各集落には「カミンちュ」（神の人）と呼ばれる神に仕える人がいる。主に女性で，村で行われる行事の際に神に祈る役割がある。

〔24〕カーサビンとー

バショウなどの植物の葉を入れ物として利用した弁当。

〔25〕サーたーグミ

サトウキビを収穫したり，黒糖を作ったりする時に，集落の人たちがグループに分かれ，グループごとに行動し，協力し合っていた。

〔26〕ディきニゲー

農作物がよくできるように豊作の祈願をすること。

〔27〕ワハーちャイ

沸かしたり。「ワハースン」（沸かす）は，野菜を煮るという意味。

〔28〕クシユくイ

骨休め。労働休み。

〔29〕サーたーヂャき

砂糖酒。泡盛などの酒に砂糖を混ぜた飲み物。

〔30〕サーたーユー

砂糖湯。サトウキビの絞り汁を煮詰めて固めた，黒糖を作る前の液状のもの。

〔31〕サーたーわイ

サトウキビの収穫を手始めに，黒糖を作るまでの作業過程が終わった時の祝い。

〔32〕ワたブたー

お腹まわりが太いもの。ここでは焼き物の瓶の下の部分を，人の腹の部分にたとえて腹にあたる部分が太いという意味。

〔33〕ちュワかサー

１升の量の酒。酒の量を計る単位は，「ワかサ」「ワーかシ」。

〔34〕あブシバレー

旧暦の4月15日に行われる行事で，田の畦を祓い，虫よけ祈願を行う。その日に競馬なども行われていた。

〔35〕まー　パラち

馬を走らせ。競馬のこと。競馬の行われた場所が村内に何か所かあった。

〔36〕あガーリナちヂン

今帰仁村内の東部地域のこと。

〔37〕ビービンサー

子どものおもちゃで，笛やラッパのような鳴り物。

〔38〕ハーかシドーぷ

豆腐を火にあぶって焼いたもの。

〔39〕ヂューシーメ，ルーシーメ

豚肉やコンブ，野菜などを入れて炊いた炊き込みごはん。

〔40〕トーウヂ

唐黍。こうりゃん。餅などにして食した。

〔41〕ゲーラ

「～ゲーラ」は，未確認で不確かなことであるとか，伝聞であるという意味を表す。～かしら。～とか。「うヤゲーラ」のように名詞のあとに使うと，「親かどうかはっきりしないが」という意味になる。

〔42〕ナハバル

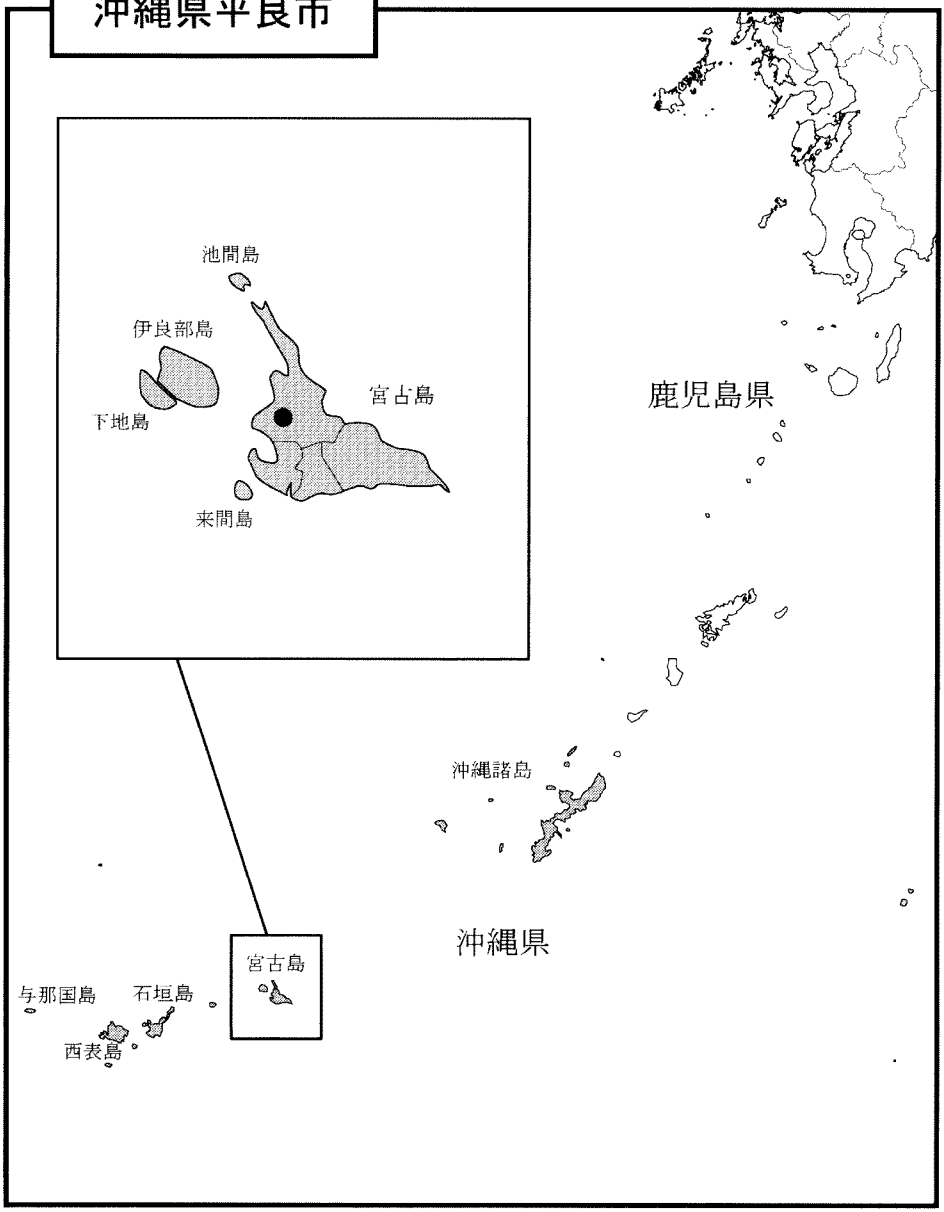
仲原。今帰仁村字越地（こえち）にあり，今帰仁小学校に隣接している。松並木のある広場で，かつて競馬が行われた。

〔43〕グッちン

地名。本部町字具志堅のこと。

Ⅲ. 沖縄県平良市
1978

沖縄県平良市



沖縄県平良市1978話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	亀川 カマド
	仲宗根 栄吉
	長浜 カニメガ
収録担当者	狩俣 繁久
	本永 守靖
文字化担当者	狩俣 繁久
共通語訳担当者	狩俣 繁久
解説担当者	本永 守靖

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	下地 賀代子
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

沖縄県平良市1978解説

収録地点名　沖縄県平良市字下里（現・沖縄県宮古島市平良字下里）

収録地点の概観

位置

沖縄本島の南西約300kmの位置に宮古島があり，平良市はその西北部を占める。

交通

沖縄本島へは，毎日８便の航空機，隔日１便の船舶が運航している。飛行機で40分ないし55分，船で約12時間かかる。石垣島，多良間島にも船便，飛行機便がある。島内は，平良市を中心にバスが各地方に通じている。タクシーの利用も多く，遠い所でも１時間以内で行ける。

地勢

宮古島はサンゴ礁から成る，ほぼ三角形の平坦な島である。山も川もない。平良市の市街地は，宮古島の西側（東シナ海側）の海岸線に面し，島の表玄関となっている。亜熱帯気候で，平均気温は23度である。台風銀座と呼ばれるほど台風が多く，夏は必ず台風の襲来がある。風速30m以上の台風も珍しくない。

行政区画

平良市は，市街地，周辺の集落，離島に分けられる。普通「平良」と呼ばれる市街地には，西里，下里，東仲宗根，西仲宗根，荷川取の５字がある。周辺の集落には，久松（久貝，松原），鏡原，宮原，高野，西原，大浦，島尻，狩俣などの字がある。離島には，池間島と大神島がある。

戸数・人口

1976(昭和51)年12月現在，世帯数8,163戸，人口31,170人。

産業

農業はサトウキビ栽培が主で，全耕地面積の54%を占めている。漁業はカツオ釣り漁業を基幹として，そのほかにウナギ，クルマエビの養殖漁業なども行われている。工業はサンゴ製品が有名で，輸出産業として重要な地位を保って

いる。海産物の加工業も盛んである。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

琉球方言は，奄美・沖縄方言群と先島（さきしま）方言群の二つの方言群に分かれる。奄美・沖縄方言群は奄美方言・沖縄方言に分かれ，先島方言群は宮古方言・八重山方言の二つに分かれる（宮古方言・八重山方言・与那国方言の三つに分けることもある）。宮古方言と八重山方言は，奄美方言・沖縄方言とは大きく異なるが，奄美方言・沖縄方言との違いは宮古方言のほうが著しく，宮古方言は，琉球方言の中でもっとも特異な性格を持ったものと見られている。

宮古方言は，さらに平良方言・城辺方言・久松方言・下地方言・狩俣方言・池間方言・伊良部方言・多良間方言などに区分されるが，大きく分けると，宮古本島方言・池間方言・伊良部方言・多良間方言の四つの方言群になるであろう。

平良方言は，宮古本島方言の中の代表的な方言で，宮古方言全体の中でも勢力がもっとも強く，他方言にも影響を及ぼしている。

音韻

（1）母音は「ア」「イ」「イ゜［ï］」「ウ」の四つである。共通語の「エ」が「イ」に，「オ」が「ウ」になる。中舌母音「イ゜［ï］」があることは，琉球方言の中でも際立った特徴である。

マイ゜ティー　ファータンサイ（米って食べなかったよ）

ソーガツィ゜ヌ　キィ゜スィ゜バーンナ（正月が来る時には）

（2）共通語の「アオ」「アウ」は長母音「オー」となる。

ソー（竿）

コー（買う）

（3）子音には［h］，［'］，［k］，［g］，［t］，［d］，［c］，［s］，［z］，［r］，［n］，［f］，［v］，［p］，［b］，［m］，［h］がある。このうち，［f］，［v］の存在が特異である。［h］は本土日本語から入った語などに例外的に現れるだけである。

（4）共通語のハ行音はパ行音になる。ただし，「フ」だけは例外で，「プ」ではなく「フ」になる。

パナ（花）

ピヂ（ひじ）

ピラ（へラ）

プニ（骨）

フニ（船）

フディ（筆）

（5）共通語のワ行音はバ行音になる。なお，古代語の「ゐ」「ゑ」「を」の［w］も［b］になる。

バラ（藁）

バロー（笑う）

ビィ゜（亥「ゐ」）

ビウ（酔う「ゑふ」）

ブバ（伯母「をば」）

（6）共通語の「ク」は「フ」になる。

フサ（草）

フム（雲）

フギィ゜（釘）

（7）「ヴ［v］」は，単独で拍を構成する。［v］は，共通語の「ブ」「ム」「グ」「ウ」に［r］が続く時に現れる。共通語の「ブル」「ムル」「グル」「ウル」は「ヴー［v:］」になる。

カヴ［kav］（かぶる）

ヴー［v:］（売る）

（8）「ん［m］」は，単独で拍を構成する。「ん［m］」は，共通語の「ミ」「ム」に対応する。「ニ」「ヌ」に対応する「ン［N］」とは異なる。「ん［m］」「ン［N］」は，普通，語末に現れる。ただし，共通語の「ン」に相当する［N］は，この限りではない。

イん［im］（海）

カん［kam］（神）

イン [iN]（犬）

カン [kaN]（蟹）

（9）語頭の「ク」「シ，ス」に［r］が続く時に，それぞれ全体が「ッフ」「ッス」となる。

ッフ [ʔfu]（黒）

ッス [ʔsu]（白）

(10) そのほか，共通語にない拍として，「ティ［ti］」「ディ［di］」「トゥ[tu]」「ドゥ［du］」「ティャ［tja］」「ディャ［dja］」「テュ［tju］」「デュ［dju］」「デョ［djo］」がある。

(11) ほかの琉球方言と同様，共通語の1拍の語は2拍になる。

ター（田）

ティー（手）

(12) アクセントは，統合一型アクセントである。

文法

（1）動詞の終止形は，ほかの琉球方言では，連用形に「をり」がついた複合形であるが，平良方言は単独形である。

カキィ°（書く）

ヌん（飲む）

（2）文語の一段活用型，二段活用型の動詞は，他方言ではほぼラ行四段活用型になっているか，あるいはそれへの移行を示しているが，平良方言はそうなっていない。母音変化のない弱変化型（「ル」「レ」がつく）である。

ミーイ°（見る）

ミーリバ（見れば）

ミール（見ろ）

ミー（見よう）

ミー（見て）

（3）未然形に「バ」がついて仮定条件を，已然形に「バ」がついて確定条件を表す。ただし，仮定条件を表す表現には「ツィ°カー」もあり，むしろこちらのほうが多く用いられる。

ヌヌウイ°ウー　ナラーツィ°カー（布織を習ったら）

（4）「ガマタ」は予定の意味を表す。

イフンガ　タクィ゜ガマタ（何回焚くのか）

（5）係り結びが見られる。代表的な係助詞に「ドゥ」（強調），「ヌ」（疑問），「ガ」（疑問）があり，連体形で結ぶ。「ドゥ」は「ぞ」に，「ヌ」「ガ」は「や」「か」にあたる。「ヌ」は疑問詞以外に，「ガ」は疑問詞につく。

ウヤトゥドゥ　イキィ゜（親と行く）

ウヤトゥヌ　イキィ゜（親と行くのか）

タートゥガ　イキィ゜（だれと行くのか）

（6）形容詞の語幹の独立用法が目立つ。単独で連体修飾語となる。畳語形が述語として用いられる。また，副詞的にも用いられる。

オーオーヌ　フニイ゜（青々としたミカン）

（7）形容詞の活用語尾は，ほかの琉球方言では「サアリ」の形をとるが，平良方言では「クアリ」に相当する「カイ゜」の形をとる。

アカカイ゜（赤い）

（8）動詞の未然形に助動詞「アイ゜，マイ゜」「サーイ゜，サマイ゜」がついて尊敬形を作る。これは，共通語の「れる」「られる」に相当する。

カカーイ゜（書かれる）

ウキサーイ゜（起きられる）

（9）謙譲を表す動詞は数語あるが，動詞の謙譲形を作る形式はない。丁寧形もない。名詞の敬語表現は非常に少ない。

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。）

沖縄県平良市1978凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下2段を1組として示した。上段が方言談話音声の文字化，下段がその共通語訳である。ただし，方言の語形と共通語の語形が必ずしも1対1で対応しない場合もあり，方言の語形と共通語訳とがずれている場合もある。

方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。

方言談話音声の文字化は，ひらがな・カタカナまじりで表記した。表音的表記を用いている。長音は「ー」で示す。「イ゜」「ィ゜」は中舌母音［ï］を表す。「ん」は［m］を表す。

この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造などは，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味の取りやすさを優先して処理をした部分がある。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中に，話し相手のあいづちや同じ単語の繰り返しなどが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

文字化については，ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所に句点を打った。ただし，実際の発話では，一文の終わりがわかりにくい場合もある。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

　　そうです。　そうです。

、（読点）　　〈全角〉

文字化については，基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所に読点を打った。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，

意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

↓　〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ　ヤッタンダナー↓

よく　やったんだなあ。

（　）　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時に同意を示したり，さえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように，開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話として扱ったあいづちに近い発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　〈全角〉

笑い，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

　　お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

　　／／／／／「文字」なんですね。

［　］　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

　　みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

　　今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある再生の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「沖縄平良29-1」はCDトラック番号が29で，その1ページ目ということである。「沖縄平良29-1」「沖縄平良29-2」……「沖縄平良29-7/30-1」……「沖縄平良34-7」のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。↑29，29↑30，……33↑34，34↑のように表示される。

第20巻のCD（64分53秒）には，沖縄県平良市の談話，【お正月の話】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間：分：秒
29	p. 203・ℓ. 1	p. 209・ℓ. 19	00：02：05
30	p. 210・ℓ. 1	p. 216・ℓ. 5	00：02：01
31	p. 216・ℓ. 5	p. 222・ℓ. 13	00：02：01
32	p. 222・ℓ. 15	p. 227・ℓ. 17	00：02：02
33	p. 227・ℓ. 19	p. 232・ℓ. 19	00：02：05
34	p. 232・ℓ. 19	p. 238・ℓ. 9	00：01：46
計			00：12：00

沖縄県平良市1978談話

収録地点　　沖縄県平良市字下里（現・沖縄県宮古島市平良字下里）

収録日時　　1978(昭和53)年8月3日

収録場所　　沖縄県平良市字下里　話者C氏自宅

話題　　お正月の話

話者

A	男	(明治生)	(収録時60歳以上)
B	女	(明治生)	(収録時60歳以上)
C	女	(明治生)	(収録時60歳以上)

調査者

男	(収録談話中に発話なし)	大学教員
男	(収録談話中に発話なし)	大学教員
男	(収録談話中に発話なし)	

収録時間（CD）　　12分00秒

【お正月の話】

話し手

A　男　（明治生）　（収録時60歳以上）
B　女　（明治生）　（収録時60歳以上）
C　女　（明治生）　（収録時60歳以上）

1 B：プジ　アイ゜ザーサイ〔1〕。　アジャヌカラ
　　早く　おっしゃったら　　おにいさんから
　↑29
2 A：イイ゜ザトゥ〔2〕ナギヌ　パナスー
　　西里あたりの　　話を

3 B：アシー。
　　そう。

4 C：イイ゜ザトゥヌ、　ソーガッツァ、　ア、　ンナ〔3〕
　　西里の　　正月は、　　あ　もう

　　カナガイヤ、　マイ゜ティー　ファータンサイ
　　以前は　　米って　　食べなかったよ。

　　んー〔4〕バーキ　フォータイバドゥ。
　　芋ばかりを　　食べたので。

　　ウヌ　ソーガツィ゜ヌ　キィ゜スィ゜　バーンナ　マーツィ゜カニーヤ
　　その　正月が　　来る　　時には　待ちかねてね、

ンヤ、 ワーガモーマイ　ファイミーディ　スィ゜ー　{笑}
もう　豚をも　　食べてみようと　し、　　{笑}

ノーガモーマイ　ファイミーディティ、 {笑}
なにをも　　食べてみようと、　　{笑}

プカラサン　カーキー〔5〕　ンヤ、
言いようのないほど喜んで　もう

5 B：パンビンヌマイ　ファーディユー、 アシー。
てんぷらをも　食べようとね、　そう。

6 C：マチュータイ゜。 んーパンビンマイ　アギ　　ファーディティー、
待っていた。　芋てんぷらも　　揚げて　食べようと、

アッガイ　ンヤ　ショーガツィ゜〔6〕ティー
ああ　　もう　正月って

ウンスィ゜ク　プカラスィ゜カタイ゜ダラ
とても　　うれしかったんだよ

マイ゜　　ファイバ。
ごはん[を]　食べるから。

7 B：アシバサイガー　マーンティー。
そうだよね　　本当に。

8 C：アイドゥ　カヌ　パツィ゜カユーカ〔7〕ティーヤ、
だから　あの　二十四日とは、

カんヌ　ティンカイ　ヌーライティーヤ、　ウカマガん〔8〕、
神が　天に　上られるとね、　かまど[の]神、

ナナトゥブリコー〔9〕ヤ、　トゥブラシッティカードゥ
七ともり香を　灯したら

フォーティ　カザイ゜タイバ
食べると　飾ったから

9 A：ウンマサイ
そうね。

10C：ウンマイ、　ンナ　イフンガ　タクィ゜ガマタ　アンナ、
それも、　もう　何回　焚くのか　おかあさん、

ンナ　イフンガ　タクィ゜ガマタ　アンナティー、
もう　何回　焚くのか　おかあさんと、

アンナンカイ　コーユバ　ンナ　イフンガ
おかあさんに　香を　もう　何回

タクィ゜ガマタガティー　ンヤ、　シーバ　ンナ、
焚くのかと　もう、　して　もう、

ンナ　イフンティー、　プジ　タキヨー、
もう　何回と[言うから]　早く　焚けよ、

ファ、　マイ゜　ファッジャードゥ
××　ごはん　食べるから[と]

ウカマフツィ゜ン、　　マイン　アダん〔10〕バー
かまど口[＝台所口]に、前に　　アダン葉[の]

ムッスィ゜マイ　{笑}　スィ゜キ　ビシッティ、
むしろも　　{笑}　敷いて　座って、

マーンティー　ウヌ、マイ゜
本当に　　その、ごはん[を]

ウカマガん　　カザリー　ウキィ゜
かまど[の]神[へ]　飾って　ある

チャバンヌ　マイ゜ガモー　ファーッティ
茶わんの　ごはんを　食べようと

ウンスク　マーンティー、アワティタイバ　んジョーナ
とても　本当に　慌てたので　本当に

ムヌガマヌ　キャー　マーンティ、ンキャーンヌ
かわいそうなものたち　本当に　昔の

11B：ナカーリ　ファーッティーユー　ンヤ
分けあって　食べようとね　もう

12C：ピィ゜トゥガマヌ　キャーヤ　カワイソーナ、
人たちは　かわいそうな、

ツィ゜ンダラーッサ。
かわいそう。

13B：ツィ゜ンダラーサガマドゥ　ヤリューキィ゜サイ　アシー。
かわいそう　だったよ　そんなふうに。

14C：アンティ　マタ　ンヤ、ショーガツィ゜ティー
そして　また　もう、正月って

スィ゜ツィ゜カー　ヨジンカラ　ウキドゥ　ンヤ、
そしたら　4時から　起きて　もう、

ニントゥーマーイ゜〔11〕ティー　マーイ゜タイ゜　トゥキィ゜ンドゥ
年頭まわりって　回った　時に

ンナ　ウヌ、ゴリンジンマイ　イッシンジンガモーマイ
もう　その、5厘銭も　1銭銭をも

イジーッティー　ヤラビヌ　キャーヤ　ンヤ、シャーカンカラ
もらおうと　子どもたちは　もう、早朝から

ンヤ、ウキドゥ　マーンティー　マーイ゜タイ゜バユー。
もう、起きて　本当に　回ったね。

ンヤ、ウヌ　イッシンジンガマ〔12〕ーユ　イジーッティドゥ、
もう、その　1銭銭を　もらって、

ウキー　ッファッティ　シー
起きて　[外は]暗くて

15B：ッファーティ　シー　ティサドゥリガマウ　シー　ンヤ、
暗くて　手さぐりを　して　もう、

ジンヌ　フィーグーガ　ヤーンカイ　キィ゜シー
銭を　くれそうな　家に　来て

マーリューキィ゜サイ　ウンナヤー。
回っていたよ　その頃は。

16C：マーリー　ンヤ、ノーヌピィ゜サ　クイヌ、
回って　もう、どのくらい　この、

ノーヌピィ゜サ　クイヌピィ゜サ
どのくらい　このくらい

17A：ウヌ、ビキ、ビキウヤヌ、アリューイ゜
その、男、男親の、ある

トゥクル　アラバー　ズーットゥ　マーリー、
ところ　だったら　ずっと　回って、

ウガミドゥ　ウイ゜スィガ　ウヌ
拝んで　いるが　その

18B：シュートゥ　んマトゥガ　ウラーイ゜　トゥクローカラサイ。
おじいさんと　おばあさんとが　おられる　ところからね。

19A：ミドゥんダツィ゜、ミドゥんダツィ゜　んマトゥ、
女やもめ、女やもめ[の]　おばあさんと、

んマガチャーガ　ウイ゜　トゥクローバー
孫だけが　いる　ところは

アトゥ　ナシーマイ
あと[に]　なしても[＝しても]

20B：アトゥンドゥ　ナスィ゜。　シュートゥ　んマトゥ
あとに　なす[＝する]。　おじいさんと　おばあさんと[が]

ウラーイ゜　トゥクローカラドゥ　ンヤ
おられる　ところから　もう

21A：ンヤ、　ウガミ、　ニントーウガミティヤ
もう、　拝んで、　年頭拝みってね

マーリドゥ　ウタイ゜サイガ、　ンヤ　ジンヌ
回って　いたよ、　もう　銭を

フィーサーイ゜　フィーサーンヌ　バー
くださる　くださらないの　ことは

ンヤ　モンダイヤ　アラダナ　シーマイ、
もう　問題では　なくて、

マーリドゥ　ウタイ゜スガ、　ンヤ、　イッシンマイ　アライン、
回って　いたが、　もう、　1銭も　ない、

ウパーッタ　ウヤキカラーイ゜　トゥクラー
たくさん　財産家[の]　ところは

イッシンマイ　イックゥンマイ　フィーサーイ゜。
1銭も　1貫も　くださる。

29↑

22B：イックゥンジンヌ　フィーイ゜　トゥクロー　アシー、
　　1貫銭を　　くれる　　ところは　　そう、

↑30

＊＊＊＊＊　ナンカイマイ、　＊＊＊
＊＊＊＊＊　何回も、　　＊＊＊

23A：グリンジンヌ、　ウンナギンナ　グリンジンマイドゥ、
　　5厘銭を、　　その頃は　　5厘銭も

ツィ゜カーイタイバユ、　グリンジンヌ　フィーサーイ゜
使っていたのでね、　　5厘銭を　　くださる

トゥクルマイ　アタイ゜スィ゜ガ
ところも　　あったけれど

24B：グリンジンヌ　ツィ゜カーイサイ。
　　5厘銭を　　使っていたね。

25A：ンナ、　ウーティ　ウガミャー　イジイジ〔13〕、
　　もう、「うー」と　拝んでは　　もらいもらい、

ウリャー　イジッティマイ　プカラスィ゜ティー、
それを　　もらって　　うれしいと

トゥヌギャー　キィ゜スィ゜キィ゜スィ゜　ヤーンカイ、
飛び跳ねては　来て来て　　家に、

キィ゜スィ゜チカードゥんマ〔14〕、　ッガイタンディ。
来たらね、　　それはもう

バーヤ　ノーヌピィ゜サドゥ、　イジキシュー、
私は　どのくらい、　もらってきていると、

キィ゜スィ゜ティー、　ンヤ
来ると、　もう

26B：ウガナイ　キィ゜スィ゜ッティユー。
集めて　くるってね。

27A：キョーダイチャーカ、　バンタドゥンマー　ンヤ
兄弟だけ、　私たちなどは　もう

ビキ　グニン　ヤータイ゜　トゥキィ゜ンドゥ　ンヤ、
男　5人　だった　時に　もう、

バガドゥ　ウパータ　イジューキィ゜ティ　ッスィ゜
私が　たくさん　もらったと　する

ッヴァガ　ウパータ　イジューキィ゜ティー、
あなたが　たくさん　もらったと、

ユミシューブユ　シーヤ、　ヤグイヤ　ッスィ゜ーッスィ゜ー
数え勝負を　してね、　大声を　しいしい

ンヤ　＊＊＊＊＊
もう　＊＊＊＊＊

28B：アンチガマー　シー　ザーラザーラザーラティ
そんなふうに　して　ジャラジャラジャラと

ムチ　　マーイ゜　{笑}
[お金を]持って　回る　　{笑}

ジンヌドゥ　クイ　　キィ゜スィ゜ティー。
銭を　　乞うて[＝もらって]　くると。

29C：ウンヌ、　ショーガツィ゜ンナ　ナナンドゥ　ウガミーウタイ゜ヌ。
その頃の　正月には　　7回　　拝んでいたの？

30A：ンー。
うん。

31C：アンチードゥ　ヤタイ゜
そう　　だった？

32B：ミーニツィ゜シューコーヌ　バーンドー、
命日焼香の　　場合に、

ミーニツィ゜シューコーヌ　バーンヨー、
命日焼香の　　場合にね、

スィ゜トゥガツィ゜〔15〕ティーサイ。
七月ってね。

33A：シュ、　ショ、　シューコーヌ　バーナギンナー、
××　　××　　焼香の　　場合などには、

スィ゜トゥガツィ゜シューコーヌ　バーナギンナ、　ンヤ、
七月焼香の　　場合などには、　もう、

チビグルー　　ウスマシー
お尻を上げて　お辞儀して[＝拝んで]

34B：ビジッティヤー、　アシー、　チビッティヤー〔16〕
座っては　　そう、　　××××××

タチッティヤー、　ア
立っては、　　あ

35C：ショーガツィ゜ンドゥ　アンチ　　ウガんタイ゜ビャー、
正月に　　そうして　拝んだんだっけ、

アラン。
違う？

36B：アラン　スィ゜トゥガツィ゜ンドゥ　ヤタイ゜。
違う　　七月に　　[拝んだの]だった。

37A：ウリャー　ウヌー、　ノーティガ　ヤタイ゜、
それは　　その、　なんとか　　だった、

トゥスィ゜ヌユーンナユ。
年の夜[＝大晦日]にはね。

38C：トゥスィ゜ヌユーン
大晦日に

39A：トゥスィ゜ヌユーンガミャー、　ウガミサーイ。
大晦日には　　拝んだよ。

40B：タチッティヤー　ウガんウガん　タチッティヤー　ウガんウガん。
立っては　拝み拝み　立っては　拝み拝み。

41A：トゥスィ゜　トゥイ゜　トゥスイ゜　トゥイ゜ヌ　バーヌ
年　×××　××××　×××の　晩[＝大晦日]の

ナイナ、　ン
×××　うん

42C：ナナンナ、　ナナンナー　ウガミドゥ　ウータイバヤー
7回ずつ、　7回ずつ　拝んで　いたね

マーンティー。
本当に。

43B：シューコーヤ　マーンティー　ウヌ、　ビジッティヤー
焼香は　本当に　その、　座っては

タツィ゜タツィ゜　ビジッティヤー　タツィ゜タツィ゜ドゥ
立ち立ち　座っては　立ち立ち

マーンティ、　ビキドゥんヌ　キャーヤ　ウガナーリー、
本当に、　男たちは　集まって

ウーティー　ウガミー、　ウタイ゜サイガ。
「うー」と　拝んで　いたね。

44C：ウンヌ　バーガマンドゥ　ンヤ、　マーンティ
その　頃が　もう、　本当に

バカスィ゜　ムヌ　　バンタガ　ヤラビパダドゥんマ
おかしい　もの[ね]。私たちが　子どもの頃などは

ンヤ、マイ゜ガマティーマイ　ファーイタンバドゥ
もう、米と[いうの]も　　食べられたから

45B：バンター　ファーッタんビャーヤ　フォーディ　スィ゜タビャーヤー
私たちは　食べたかね？　　食べると　したかね？

ンジャーヤラマイ。
どこよりも。

46C：んーパンビン、んーパンビンマイ　アッジャ
芋てんぷら、　芋てんぷらも　　あるね

ンヤ、ウプニー　ガントーヌ
もう、大根[の]　きざんだ[もの]の

イイ゜キムヌティーマイ、ウイトゥ　ファイッティー、
炒め物とも、　　それと　食べて、

マイ゜トゥ、んーパンビントゥ　ファイッティ、
ごはんと、　芋てんぷらと　　食べて、

バター、フサリキィ゜ッフー　シューティマイ
腹は、　げっぷを　　しても

アガイー〔17〕キュー　ファーダカー
ああ　　今日　食べないと

マタ　アツァガミャー　ニャーンニバティー
また　明日までは　　ないからって

（B　アツァガミュー　ネーンティナー）　{笑}
（B　朝までは　　ないってね）　　{笑}

ンヤ、ギョーッティ　ウヌ　フサリキィ゜ッフー、
もう、ギョーッと　　その　げっぷを
30↑31
ハーッティ　イダシ　キシッティヤー、フォーフォードゥ
ハーッと　　出して　きては、　　食べ食べ

バンドゥんマー　スィ゜ータイバ
私などは　　したので

47B：アシ　ンナマー　フサリイキィ゜ッフ　ッスィ゜
そう　今は　　げっぷ[を]　　する

ピィ゜トゥティーマイ　ウランドー。
人って[いうの]も　　いないよ。

ンヤ、アティドゥ　バター　ポンポンポンティードゥ
もう、そうして　　腹は　　ポンポンポンと

スグ　ンヤ、オナカー　コワシー。
すぐ　もう、おなかを　こわして。

イッカネンニ　モー　シチガツィ゜ト、
１年に　　もう　七月と、

スィ゜トゥガツィ゜サーイ　スィ゜トゥガツィ゜ティドゥ　アイ゜
七月よ　七月って　言う

シチガツィ゜ティヤ、　スィ゜トゥガツィ゜
七月とは、　七月

ショーガツィ゜シカ　マイ゜バー　ファーん　ムヌー、
正月しか　ごはんを　食べない　者は、

ピィ゜ンスームヌヌ　キャードゥんマー　ウヌ、　ウンヌバー
貧乏者たちなどは　その、　その時を

マチドーシーヤ　シドゥ　ウイ゜サーイ
待ち遠しいを[＝待ち遠しく]　して　いるよ

マツィ゜カニガマー　シー　ンヤティー
待ちかねて　嫌と[いうほど]

48C：マツィ゜カニーヨ。
待ちかねてね。

49B：スィ゜トゥガツィ゜　ヤガティ　ヤイバ　ンヤ
七月[は]　やがて　だから　もう

マイ゜　フォーガマタティー。
ごはん[を]　食べると。

50C：ンナマンダカニ、　マタ　ワーマイ　イ゜ズマイ、
今のように、　また　豚も　魚も、

アリャーマイ　カイヤー　ファーインヤ。
あっても　　買っては　食べられないね。

51B：イッカネンナ　コームヌヌ　キャーヤ　イフンティドゥ、
1年には　　貧しい者たちは　　何回と、

ワーユマイ　ミーミー　イ゜ズマイ　ミーミー　ウイ゜。
豚をも　　見い見い　魚も　　見い見い　[して]いる。

52C：ワーガモー　フォーマイ　　イッカネンナ
豚を　　食べる[のは]　1年には

ニサンクゥイバカイ゜ドゥ　カイ　　ウキィ゜サ。
2、3回ばかり　　買って　おくね。

アラン。　ヤットゥガ　カットゥガ
違う？　やっとのことで。

53B：アンチッティ　ハイ、　アンチッティ　クヌ、
そうして　　ねえ、　そうして　　あの、

グンマイナビ〔18〕ヌ　キャーン　スグ　マイ゜ユ　スグ、
グンマイ鍋などに　　すぐ　ごはんを　すぐ、

スィ゜トゥガツィ゜トゥ　ソーガツィ゜ンナ
七月と　　正月には

カスィ゜カ　ニーッティ、　　ウツィ゜ザヌ　ヤーンカイ、
たくさん　煮て[＝炊いて]、　親戚の　　家に、

ツィ゜ギ　　イキッティヤー　（C　ツィ゜ギ　イキーユ）
ついで[＝よそって]　いっては　　（C　よそって　いってね）

コーカンナ　シー　キシ　オーギッティ
交換を　　して　きて　盛って

マータ　ツィ゜ギ　イキッティヤー　コーカン、
また　よそって　いっては　　交換、

ニジッカイバカイ゜ナードゥ　スィ゜ータイ゜ティヌ
20回ばかり[も]　　したという

クトゥドゥんマー、　マーンティ　ウカースィ゜ムヌ　　アラン？
ことなども、　　本当に　　たいへんなことでは　ない？

54C：アシバドゥヤー。
そうだね。

55A：ッヴァタガミャー、　ミドゥんキョーダイヌ　キャーマイ
あなたたちは、　　女兄弟たちも

アリューティー、　ウヌ、　カシーマイ　　スィ゜ー
あると、　　その、　加勢[＝手伝い]も　する

ノーマイ　シー、　バンタガ、　アンナドゥんマ　　ンヤ、
なにも　　して、　私たちの　おかあさんなどは　もう、

ビキッヴォーチャーカ　ナシッティ、　ミドゥんッヴァ
男の子だけ　　生んで、　　女の子[は]

タウキャー　ナシー、　ビキッヴァヌ、
一人　　生んで、　男の子が、

カシー　　スーダカー　ナランダラー？
手伝い[を]　しなければ　ならないでしょう？

56B：ンヤ
もう

57A：アイドゥ　ンヤ、　マタ　ビキムノー、　バ、　バカーイ゜ヤ
そして　　もう、　また　男、　　×　だけ[というの]は

ンヤ、　ボーチリカイバ、　ブーサー　　シー、
もう　わんぱくだから、　じゃんけん[を]　して

マキイ゜スガドゥ　カシーユ　スィ゜ーガマタユーティ
負けるのが　　手伝いを　するんだよって

シー　ンナ　ブーサー　　シー　ンヤ
して　もう　じゃんけん[を]　して　もう

58B：ビキドゥんバカーイ゜ヌ　マーンティ　キョーダイヌ　キャーヤ
男ばかりの　　本当に　　兄弟たちは

59A：スィ゜タイ゜　　トゥキィ゜ンドゥ　ンヤ　マキイ゜ソー
[じゃんけんを]した　時に　　もう　負けるのは

ンヤ、　アタ　フタン、　ミイ゜ンティー　シー
もう、　あと　2回　　3回と　　して

ガーヤ　シー　アトー　イツィ゜ツィ゜ン　ナシー、
口げんかを　して　あとは　5回に　なして[＝して]、

トゥーン　ナシ　ンヤ、　アトー　ンヤ　ウヌ
10回に　なして[＝して]　もう、　あとは　もう　その

スザ〔19〕　アザヌ　キャーン　シツィ゜キライー　{笑}
上[の]　おにいさんたちに　しつけられて　{笑}

ナキィ゜ガツィ゜ナー、　ンヤ　ウイガ、
泣きながら、　もう　その、

アンナガ　カシーマイ　ッスィ゜。
おかあさんの　手伝いも　する。

ノーマイ　スィ゜カツィ゜ナイ、　ッガイタンディ〔20〕。
なにも　しながら、　ああもう。

60B：カナガイガミャー　アシー、　ンー、　スィ゜トゥヌ　キャーヤ
この間は　そのように、　うん、　近所の人たちは

ビキドゥんヌ　キャーヤ、　ムヌーマイ　カヌ、
男たちは、　ものも　あの、

バンタガ　ウヤスィ゜トゥ〔21〕　X1、　カイドゥんマー、
私たちの　義理兄弟[の]　X1、　あの人などは、

バガ　ユミャー　シー　イキカラドゥー、
私が　嫁を　して[＝嫁に]　いってから、

ガッコーンカイ　ウキィ゜ナーンカイ　イキィ゜タイバドゥ、
学校に　　沖縄に　　行ったから、

ウイガ　ウトゥトーヤ　プンダイナ　ムノー　シューティ
その　弟は　　甘えん坊な　者を　していて[＝甘えん坊で]

クヌ　X2ャー、　ムヌ　　スーンヤマイ〔22〕
この　X2は、　もの[を]　しなくても

キシッティヤー、　クヌ　ユブジンガマー
来ては、　　この　ユブジンは

アンナガ　　ウヌスク　ムヌ
おねえさんが　うんと　　もの[を]

ツィ゜キィ゜カニ　ウリャーイ゜トゥ　ユードゥ
つきかねて　　おられると　　よく

ムヌヌ　ツィ゜キィ゜　カシーユ　スィ゜ータイバ、
ものを　つく　　手伝いを　したから、

31↑32

カヌ　バンタガ　ビキ　　ウヤスィ゜トー　ウフガン〔23〕ユ
あの　うちの　男[の]　義理兄弟は　　タカキビを

ツィ゜キ　フォー　ムギィ゜ウ　ツィ゜キ　フォー
ついて　食べる　麦を　　ついて　食べる

アバ、　コーズィ゜　ミィ゜　ミィ゜スー　ツィ゜キッティーヌ
あら、　麹、　　××　みそを　　つけようとの

コーズィ゜ムギィ゜ウ　ツィ゜キィ゜、　マミ　　ニーティ
麹麦を　　ついて、　　豆[を]　煮て

スィ゜ツィ゜カー　ピィ゜トー　カニッティー、
そしたら　　人を　　兼ねて[＝集めて]

マタ、　バイ゜。
また、　[麦を]割る。

61A：マンナカンナンガモー、　オ、　ウツザー　アツィ゜マリーマイドゥ、
真ん中あたりに、　　×　親戚は　　集まって、

タヌミ　キィ゜シマイドゥ　バラスィ゜タイ゜。
頼んで　きて　　[麦を]割らせた。

62B：アシー、　アンシヌ　　バーナンユ。
そう　　そのような　時にはね。

63A：ウヌ　スィ゜トゥガツィ゜ヌ、　ムツィ゜、　ヨーイ゜、
その　七月の、　　餅、　　祝い、

ソーガツィ゜ヨーイ゜ヌ　ンヤ　ムツィ゜ツィ゜キィ゜ドゥんマー
正月祝いの　　もう　餅つきなどには

ンヤ、　バンタガ　ヤーンナ、　ビキドゥんバカーイ゜　シッティ、
もう、　私たちの　家には、　男ばかり　　して

ウヌ、　カツィ゜、　ブーサー　　シー
その、　勝つ、　じゃんけん[を]　して

カツィ゜ソー　ユイ゜ビー、　ウヌ
勝つのは　[粉を]もらう役、　その

マキューソー　ツィ゜キィ゜、　バイ゜ビー　シー
負けるのは　つく、　[麦を]割る役[を]　して

スィータイ゜　トゥキィ゜ンドゥ、　ウマンヤ
[そう]した　時に、　そこには

64B：マミ〔24〕ャー
まめは

65C：マミャー　イディッティ　んダリーユ。
まめは　出て[＝できて]　破れてね。

66B：ビキドゥんヌ　キャーヤ　ユードゥ　ツィ゜キ　ウキィ゜サーイ
男たちは　よく　ついて　いたね

アシ、ミドゥん　＊＊＊＊＊
そう、女　＊＊＊＊＊

67A：クジャー　イディ　スグ　ンヤ
まめは　出て[＝できて]　すぐ　もう

ビィッター〔25〕ティー　パギ　イ゜キャーナ　ンヤ
ビロッと　はげるまで　もう

ダマガリー〔26〕ナー　ウタイ゜ダラ。
難儀をして　いたよ。

68B：ンキャーンナ　アティ　マタ　ハーイ
昔は　とても　また　ねえ

69C：ンキャーンナ　アティ　ンヤ、　ソーガツィ゜ティ　スィ゜ツィ゜カ、
昔は　とても　もう、　正月と　したら、

ナンカガミマイ　マイーニツィ゜、　ビューイ゜　ピィ゜トー
七日までも　毎日、　酔う　人は

ウタイ゜　＊＊＊＊＊。
いた　＊＊＊＊＊。

70A：ビューイ゜　ピィ゜トー　んチーユー　ン
酔う　人は　満ちて[＝いっぱい]よ。　うん

71B：カナラズィ゜　ウイ゜ドゥスィ゜ダラ、
必ず　いるでしょ、

ビューイ゜　ピィ゜ター　（C　ビューイ゜　ピィ゜トー）
酔う　人は　（C　酔う　人）

ピィ゜ンナリー、　んツィ゜ン　ニヴキャーナーマイ　サキャー
へばって、　道に　寝るまでも　酒を

ヌミ　ンナ、　ンナマ　ヌマダカー　ヌマインティヌガラードゥ
飲んで　もう、　今　飲まないと　飲めないというのか

アンチー、　ヌんスィ゜ーヌ　キャーヤ　ヌミューキィ゜サーイ。
そんなふうに、　飲む人たちは　飲んでいたよ。

72C：ウプニトゥ、 ウプニトゥー、 ピィ゜ダイクニトゥ シー、
大根と、 大根と、 人参と して、

サタズィ゜ーユ シー ウリャー、 ウサイヤ
砂糖汁を して それを、 おかずを[＝に]

シーマイドゥ ウヌスク、 ナンカガミマイ
しても とても、 七日までも

カユータイ゜サイガ。
通っていたじゃないか。

73A：アラン、 ウリャー ンヤ、 ウンガミ、 ウ、 ウヌ
違う、 それは もう、 それだけ、 × その

ソーガッツァ、 ナンカガミドゥ、 アスィ゜パイイ゜ティヌ
正月は、 七日まで 遊べるとの

ユクーティヌ、 ムヌヌ アイバサーイ
休みとの、 ものが ある[＝習慣がある]からね

ロードーシャー、 ンナマヌ ロードーシャティ アイ゜ソー
労働者は、 今の 労働者と いうのは

ウレ バンター ンヤ ウヌ ジダインナ
それは 私たちは もう その 時代には

ロードーシャティドゥ アイ゜タイ゜ガラ
労働者と 言ったやら

ノーティガラ　アイ゜タイ゜ガラ　スグ、　アイ゜タイ゜ガラ
なんとやら　言ったやら　すぐ、　言ったやら

ッサインスガ。
知らないが。

74C：ニンプ、　ニンプサーイ。
人夫、　人夫だよ。

75B：ンキャーンナ
昔は

76A：ンナ、　ンザ　ッファティー、　ンザ　ッファティー
もう、　どこの　子と、　どこの　子と

アイ゜ザイイ゜、　ジダイヌ　ジダ、　ムノー
言われる　時代の　××　者は

ニンギンヌ　キャーヤ、　ンヤ、　ウヌ
人間たちは、　もう、　その

イッシューカンヌ　アイダンドゥ、　サキマイ　ヌん、
１週間の　あいだに、　酒も　飲む、

ヌマイイ゜　ムヌマイ　ファーイイ゜ティー、　ンヤ、
飲まれる　ものも　食べられると、　もう、

32↑33

フサリキィ゜ッファ　ギョーギョーティ　ウティーマイ、
げっぷを　ギョーギョーと　[して]いても、

マーンティ　ファイドゥ　ウキバドゥヤー。
本当に　　食べて　　いたからね。

77B：アシー　ンナ　　ピィ゜トゥ　アツァー　ンヤ
そうよ　みんな　人[は]　　明日には　もう

ファーイン　ムヌー、　アンチ　　スィ゜ーキャ
食べられないのに　　そのように　しても

ファーダカー、　{笑}　ミーチャギ、
食べなければ　　{笑}　見苦しい、

マーンティ　ムノー　シーヤ、　マーイ゜マーイ゜　ウタイ゜
本当に　　ものを　しては、　回っては回って　いた

ウリッティ　ウンシ　　＊＊＊
いて　　そのように　＊＊＊

78A：アンチヌ　ジダイマイドゥ　アンシー、　ユヌナカマイドゥ、
そういう　時代も　　そうして　世の中も

カワリ　　キシューバドゥ
変わって　きているから

79B：バンタガミャー、　ンヤ　ピーッチャガマ　プドゥイツィ゜カー
私たちなどは、　もう　少し　　育つと

ピィ゜トゥヌ　ヤーン、　ツィ゜カイヤー　マーイ゜　ウリッティードゥ
人の　　家で　　使われては　　回って　いて、

ヌヌウイ゜ウー　ナラーツィ゜カー、　ンー　ヤーン　ウティ
布織を　　習ったら、　　うん　家に　　いて

ヌヌチャーカ　ウリ　　ウリティヤー　ユサラビガター
布だけ　　織って　いては　　夕方は

ウリ、　　イキー、　カー〔27〕ユ　ウリ　　キシッティ、
[井戸に]下りて　いって、　井戸を　　下りて　きて[＝いって]

ツィ゜コーダキ　ウリッティー　　マタ、
[水を]使うだけ　下りて[汲んできて]　また、

ヌヌンカイ　ヌーイ゜ヌーイ゜ドゥ、　ウタイユ。
布に　　縫い縫い、　　いたよ。

アンチー、　ウムッシェーウムッシヌ　アスィ゜ピィ゜ティマイ
そうして、　おもしろい　　遊びと[いって]も

アリャーミーダナドゥ、　ウタイ゜。
なくて　　いた。

80C：ソーガツィ゜ンガミャー　ミドゥんヌ　アスィ゜パイッチャ、
正月は　　女は　　遊べるか、

ジュールクニツィ゜〔28〕ンガミドゥ
十六日にも

81B：イイ゜ザトゥピィ゜トゥガミャー　ジュールクニツィ゜マイ
西里[の]人などは　　十六日も

ウヌスク　アスィ゜ピィ゜　サニツィ゜〔29〕ンマイ
うんと　遊ぶ　サニツにも

ウンスク　アスィ゜ピィ゜。
うんと　遊ぶ。

82C：ジュールクニツィ゜ンドゥ　マタ
十六日に　また

83B：アガイ゜ザトゥ〔30〕ピィトー　アンチヌ
東里[の]人は　そのような

アスィ゜ピィ゜ヤ　ネーンヨー。
遊びは　ないよ。

84C：パカカラ　シューコーシー　キシッティー　ンヤ、
墓から　焼香して　きて　もう、

ウリャー　マタ　ジューヤ　ムリー　イキー　ウヌスク、
それは　また　重箱を　盛って　いって　うんと

アスィ゜ピィ゜ー、　＊＊＊＊＊
遊ぶ　＊＊＊＊＊

85B：イイ゜ザトゥ　アンガタガミャー
西里[の]　おねえさんたちなどは

アスィ゜ピィ゜バカーイ゜ドゥ　アリューキィ゜サイガ。
遊びばかり[で]　あったんじゃないか。

バンタガガミドゥ　　アンチヌ　ムナー　ニャーン。
私たちがだけ[＝私たちだけが]　そういう　ものは　ない。

シリカヌ　キャーヌ　イナカン　ウイ°　ピィトゥヌ　キャーヤ
親戚なんかが　　田舎に　　いる　人たちは

ジュールクニツィ°ンナーヤ、　ムツィ°　サカナウドゥ
十六日にはね、　　餅　　魚を

スィ°コーリ　ンヤ　ウリャー　カミーキ、
準備して　　もう　それを　　[頭に]のせていって、

パリヤーナギンカイ　フィーッティ　カヌ、
畑の家あたりに　　くれて　　あの、

ピイ°ヌ　キャーヤ、　マタ　ノーヌ　　キャーヤ
ニンニクなど、　　また　なに[か]　いろいろ

マタ　オミヤゲヤ　シーナー　キシュータイバ。
また　おみやげを　しては　　きていたので。

86A：ナマんーヌ　キャーユ　ムチーユ。
生芋なんかを　　持ってね。

87B：ンー、　んーガモー　ムチ　　キスィ°。
うん、　芋を　　持って　くる。

ヌーガラ　フォー　ムノー　カタン　カタミッティユ。
なにやら　食べる　ものを　肩に　　担いでよ。

ヌマヌ　シグトゥ　シー　ウイ゜　　アランナ、
馬の　　仕事[を]　して　いるんじゃ　ないか、

ウスィ゜ヌ　スグトゥ　アランナ、　アガーイ。　＊＊＊
牛の　　仕事じゃ　ないね？　ああもう。　＊＊＊

88C：ショーガッツァ、　ショーガツィ゜　ムノー　　シーヤ、
正月は、　　正月[の]　　もの[＝仕事]を　しては、

ウヌ、　ビキドゥんヌガミャ
その、　男なんかは

ヒヤルガヒヤッサー〔31〕ヤ　シー
ヒヤルガヒヤッサを　　して[＝浮かれて]

アスィ゜ピー　ウイ゜、　ミドゥんガマ　クザリ、
遊んで　　いる、　女は　　疲れて、

クジュークジャリ
疲れに疲れて

89B：ショーガツィ゜ンヤ　ナンカ　＊＊＊ツィ゜カー
正月には　　七日　　＊＊＊たら

マタ、　ナナツィ゜　＊＊＊ティー　イ゜ズィ゜ヌ　ショー
また、　七つ　　＊＊＊って　　魚の　　汁[を]

ニー　ファータイ゜サ　{間}
煮て　食べたよ　　{間}

33↑34

ムカシトゥ　ンナマトゥマイ　ムツィ゜マイ　ッスィ゜
昔と　今とでも　餅も　する

サカナマイ、　クッヴャ、　んブスィ゜　ムヌマイ　ッスィ゜。
魚も、　昆布は　煮つける　ものも　する。

90C：アスガドゥ　ンキャーンナ　クヤ、　パリカラ　ウヌ、
だけれど　昔は　ほら、　畑から　その、

ンナマーヤ、　クダムヌヌドゥ　んチんチュー、
今は　果物が　満ち満ちている、

ヤマトゥカラヌ　ムヌヌ、
大和[＝本土]からの　ものが、

ウリ　カイ　キィ゜シ　カザイ゜。
それを　買って　きて　飾る。

ンキャーンナ　ンヤ　{咳}　イナカカラ　{咳}
昔は　もう　{咳}　田舎から　{咳}

91B：フニイ゜　オーオーヌ　フニイ゜。
ミカン　青々の[＝青々とした]　ミカン。

プニイ゜トゥ　バンチキローギーヤ、　ユーガマ　フニイ゜ヌドゥ
ミカンと　グァバ[の]木ね、　よく　ミカン[が]

アタイ゜サイガ　アンチヌ　ムヌガマヌ　＊＊＊
あったよ　そういう　ものが　＊＊＊

92C：ユーガマ　フニイ゜ドゥ、　ユダナギナ　ムティ　キィシ、
よく　　ミカン[を]　枝ごと　　持って　きて、

ウルー
それを

93B：オー〔32〕　アシー　　パーシー
はい　　そのように　葉も

94C：ウルー、　ウルー　カイ、　バンチキローマイ
それを、　それを　買って、　グァバも

ナマバンチキローユ　カイ
生グァバを　　買って

95B：ナマー、　んーチカー　ダダティ　　ウティリバドゥ
生は　　熟すると　　ダダーッと　落ちるから

ナマムヌヤ
生ものは

96C：アラ、　ブーギィ゜ーマイヤ、　カザイ゜タイ゜スガ
ねえ、　サトウキビも　　飾ったけど

マタ、　アダンヌバー　マタ　トゥイ　キィ゜シ　カザリッティ
また、　アダンを　　また　とって　きて　　飾って

97B：カナラーズィ゜　ンヤ、　スィ゜トゥガツィ゜　バタン
必ず　　もう、　七月　　近くに

ナイ゜ツィ゜カー　ンヤ、イラウンカイ　カイ　ヌ
なると　　もう、伊良部×××　××　の

ヤマナギンカイ　イキ　トゥイ　キィ゜シ　ウタイ゜サイガ。
山に　　行って　とって　きて　いたさ。

アダん、　ン
アダン[を]、うん

98C：トゥイ　キィ゜シ　ウヌ　アダんヌバ　カザリッティドゥ
とって　きて　その　アダンを　飾って

ウフリッティ　ウヌ　ビキドゥんヌ　キャーヌ　ウヌ
[神を]送って　その　男たちが　その

アダんバ、カタミューティ
アダンを　担いでいて

99B：アガイタンディ　ウンナ　ンヤ　アダん
ああもう　その頃は　もう　アダン

100C：ウンシー　ナギィ゜ミャー　シー　ウンスク　ンヤ
そうして　投げ合い[を]　して　とても　もう

101B：ニシェーヌ　キャーヌ　カイ　カマーンサイ　ンヤ
若者たちが　あれ[を]　向こうにね　もう

102C：ウタイ゜ダラ。
いたんだよ。

103B：ナガハマ〔33〕ヌ　ンナー、　アガイ゜ヌ、　セン
長浜の　もう　東の　あたり

カマウバー　キャーギヤー〔34〕、　ヌーティドゥ　アッジバドゥ、
向こうを　キャーギ家、　なんと[か]　言うんだけど、

ウプんツィ゜ユマタ〔35〕カラ　キャーギヤー
大道四又から　キャーギ家[の]

ウマタン　ツィ゜キィ゜キャーンヤ
そのあたりに　着くまでには

イイ゜ザトゥピィトゥ　ンキャドゥリャ〔36〕ピィ゜トゥ、
西里[の]人　荷川取[の]人、

ンヤ　アガイ゜ザトゥピィ゜トゥヌ　キャーヤ
もう　東里[の]人なんかが

アダん　マーラシティー、　ウヌ　アダんマ
アダン[を]　回して、　その　アダンは

ムヌー　シー〔37〕　ウイシー　アティミャー　シー
ものを　して　それで　当て合い[を]　して

104C：カタミードゥ　＊＊＊　ムリャーティー　ンヤ
担いで　＊＊＊　ムリャー｜掛け声｜って　もう

アティアティサイガ。
当て当てだよ[＝当てまくるんだよ]。

105B：カヌ　ヤスラパギィ゜〔38〕、　カインカイ　スグ
あの　ヤスラパギ｜植物名｜、あれに　すぐ

パーッティ　カインカイ　ツァンキッティードゥ
パーッと　あれに　突き通して

カヌ　んミューイ゜　アダんバー、トゥイッティ
あの　熟している　アダンを　とって

ムディナシッティ　ウヌスク　カンチ　カンチ
もぎとって　うんと　こんなふうに　こんなふうに

クルスィ゜ミアイ　シー、ウヌスク　ウタイバ
叩き合い[を]　して、うんと　[そのようにして]いたから

スィ゜トゥガツィ゜　アトゥンナー
七月[の]　あとには

マンガーマーン。
｜思い出して｜そうだそうだ。

106A：ンナマー、パイナップルヌ　アイバ、
今は、　パイナップルが　あるから、

アダんヌバー、カザランスガ
アダンを　飾らないけど

107B：カザランサイガ。
飾らないね。

108A：ムカシャー、　ンキャーンナ　ンヤ、
　　昔は、　　昔は　　もう、

　　アダんバドゥ　カザリュータイ°　ウリヤー。
　　アダンを　　飾っていた　　それは。

109B：アンチドゥ　ッシューサイ。　カナラーズィ°ユ　ンヤ
　　そのように　しているよ。　必ずよ　　もう

110A：ウリュー　カザッリティヌ、　ウクリィッティヌ　アトゥンナ、
　　それを　飾っての、　[神を]送っての　あとには、

　　ンア　ウイシー、　アダんガッセンサイ。
　　もう　それで、　アダン合戦だよ。

34↑

沖縄県平良市1978注記

〔1〕アイ゜ザーサイ

「イ゜」「ィ゜」は中舌母音［ï］を表す。

〔2〕イイ゜ザトゥ

西里。平良市（現・宮古島市）の字名。

〔3〕ンナ

間投詞。話の途中で入れる「ええっと」などに相当。「ンヤ」とも。

〔4〕んー

「ん」は，［m］を表す。［m］は，単独で拍を構成する。

〔5〕プカラサン　カーキー

直訳すると「誇らしさに（喜びに）乾いて」という程度の意。

〔6〕ショーガツィ゜

「正月」を「ソーガツィ゜」と言ったり，「ショーガツィ゜」と言ったりするが，［s］と［ʃ］は本来は区別されている。なお，本来の発音は「ソーガツィ゜」。

〔7〕パツィ゜カユーカ

二十四日。行事名。

〔8〕ウカマガん

かまどの神。台所の神。「ピィ゜ヌカん」（火の神）とも。

〔9〕ナナトゥブリコー

七ともり香。パツィ゜カユーカの日に，７本の線香を１本ずつ灯して，一晩中焚いた。

〔10〕アダん

タコノキ科の常緑低木。パイナップル状の実をつける。葉は，敷物やかごを編むのに用いる。

〔11〕ニントゥーマーイ゜

年頭まわり。正月に数人連れ立って，家々を回り年始のあいさつをすること。地域の「長老」宅が特に優先された。

〔12〕ガマ

指小辞。親愛の情や小さなものを表す。

〔13〕イジイジ

動詞を2回重ねた形。

〔14〕ドゥんマ

調子を整えるため，語末に添えられる接辞と考えられる。前の語をやや際立たせる機能もあるようである。

〔15〕スィ゜トゥガツィ゜

七月。ここでは，お盆のこと。

〔16〕チビッティヤー

「ビジッティヤー」（座っては）というところを言い間違えた。

〔17〕アガイー

驚きや痛さなどを表す感動詞。

〔18〕グンマイナビ

グンマイ鍋。1斗炊ける製糖用の大鍋。お祝いの際などに大勢の料理を煮る時にも使う。

〔19〕スザ

年上。弟・妹から見た上の男兄弟を指す。「アニスザ」とも。

〔20〕ッガイタンディ

アガイタンディ。驚きなどを表す感動詞。

〔21〕ウヤスィ゜トゥ

配偶者の兄弟のこと。配偶者およびその兄弟の性別に関係なく用いることができる。

〔22〕ムヌ　スーンヤマイ

文脈によると，「お願いしなくても」の意か。

〔23〕ウフガン

タカキビ。高粱。餅などにして食べる。

〔24〕マミ

手にできる「まめ」のこと。あとで「クジ」とも言っている。

〔25〕ビィッター

擬態語。まめができて皮がはがれて，中の赤い部分がむき出しになる様子を指す。

〔26〕ダマガリー

身体的に苦労すること。また，難儀をすること。

〔27〕カー

井戸。ここでは掘井戸のことで，水の湧いているところまで下りて水を汲む。その入り口から水のあるところまで全体を「井戸」と呼んでいる。

〔28〕ジュールクニツィ゜

十六日。行事名。旧暦の1月16日に，祖先の霊を慰めるため墓へ行って祖先の霊のための正月をする。

〔29〕サニツィ゜

行事名。旧暦の3月3日に，浜へ下りて潮干狩りをするなどして，みんなで楽しく過ごす。

〔30〕アガイ゜ザトゥ

東里。平良市（現・宮古島市）の字名。

〔31〕ヒヤルガヒヤッサー

囃子。踊りの囃子から浮かれた様を表している。

〔32〕オー

目上に対する同意のことば。目下や同位の者に対しては「ンー」等を用いる。

〔33〕ナガハマ

家の名前。屋号か。

〔34〕キャーギヤー

家の名前。屋号。

〔35〕ウプんツィ゜ユマタ

大道四又。交差点の名前。

〔36〕ンキャドゥリャ

荷川取（にかどり）。平良市（現・宮古島市）の字名。

〔37〕ムヌー　シー

文脈によると，「実がなっていて」の意か。

〔38〕ヤスラパギィ°

植物名。和名は不明。先を切り落とし，神前に供える箸とした。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて，文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは，「全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存する」目的で行われた，全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は，全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は，実施時期ごとに，第1次（昭和52(1977)～54(1979)年度）から第7次（昭和58(1983)～60(1985)年度）に分けられ，それぞれ3年計画で，収録を行った。

各都道府県教育委員会は，言語学，国語学，方言学の専門家から調査員として，主任調査員2名と調査員若干名を選出し，さらに，専門家や学識経験者を交えて，調査地点，具体的な調査方法，全国共通の場面設定会話項目などについて検討し，その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し，後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって，1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち，自然な方言会話の部分を3時間程度選んで，文字化を行い，共通語訳をつけて，記録として残す。

(3) 調査内容

①老年層の男女各1人による対話，または，男女を含む3人の会話（2時間）

②老年層の男性2人の対話，または，老年層の男性3人の会話（1時間）

③老年層の女性２人の対話，または，老年層の女性３人の会話（１時間）
④老年層と若年層との対話，または，両者を含む３人の会話（１時間）
⑤老年層の男性２人の，目上の者と目下の者の対話（２時間）
⑥場面設定の対話（１時間，各場面につき１～３分程度）
場面に応じて，老年層の男性２人の対話，または，老年層の男女各１人による対話
⑦当該地域に伝わる民話（１時間）
民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，
⑧老年層の女性２人の，目上の者と目下の者の会話（１時間），
または，
⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，２人の対話（１時間）
を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について５地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても，その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は，原則として，老年層の場合は，収録時において60歳以上とし，若年層の場合は，20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため，使用する録音機の性能，マイクの種類・配置，テープの長さ，収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には，採録地点，採録年月日，話題，時間，話者，採録機種などを記入する。

録音テープは，収録したオリジナルのテープ（正）を1本，正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は，原則として，カタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について，場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記，表記法についての説明などを行う。各地点ごとに，収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など，収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には，話者の氏名・性・生年・経歴，録音内容などを記入する。

文字化原稿は，手書きのオリジナル原稿（正）を1部，正の複製（副）を2部作成する。

調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果，地域的密度，収録量，方言的内容のいずれの面からも，他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後，これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は，各教育委員会から，「各地方言収集緊急調査」報告として，文化庁に提出され，永久保存されることとなった。

なお，調査実施からかなりの時間が経過しているため，当時の関係文書の入手は困難であったが，文化庁，各都道府県教育委員会の協力により，部分的には手に入れることができた。得られたものを，資料として，この章の末尾に掲げたので，ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道
01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
01b 十勝支庁中川郡豊頃町
01c 渡島支庁亀田郡椴法華村(→函館市)
01d 渡島支庁松前郡松前町
青森県
02a 下北郡川内町（→むつ市）
02b 北津軽郡市浦村（→五所川原市）
02c 上北郡野辺地町
02d 三戸郡五戸町
02e 弘前市
岩手県
03a 久慈市
03b 宮古市
03c 遠野市
03d 大船渡市
03e 一関市
宮城県
04a 本吉郡本吉町・歌津町(→南三陸町)
04b 栗原郡築館町（→栗原市）
04c 仙台市
04d 亘理郡亘理町
04e 刈田郡七ヶ宿町
秋田県
05a 鹿角市
05b 能代市
05c 仙北郡西木村（→仙北市）
05d 河辺郡雄和町（→秋田市）
05e 湯沢市
山形県
06a 新庄市
06b 寒河江市
06c 東田川郡櫛引町（→鶴岡市）
06d 東田川郡朝日村（→鶴岡市）
06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町
福島県
07a いわき市
07b 大沼郡会津高田町（→会津美里町）
07c 大沼郡昭和村
茨城県
08a 高萩市
08b 久慈郡里美村（→常陸太田市）
08c 水戸市
08d 鹿島郡大野村（→鹿嶋市）
08e 古河市
栃木県
09a 大田原市
09b 日光市
09c 宇都宮市
09d 芳賀郡益子町
09e 安蘇郡田沼町（→佐野市）
群馬県
10a 利根郡片品村
10b 吾妻郡六合村
10c 前橋市
10d 邑楽郡大泉町
10e 甘楽郡下仁田町

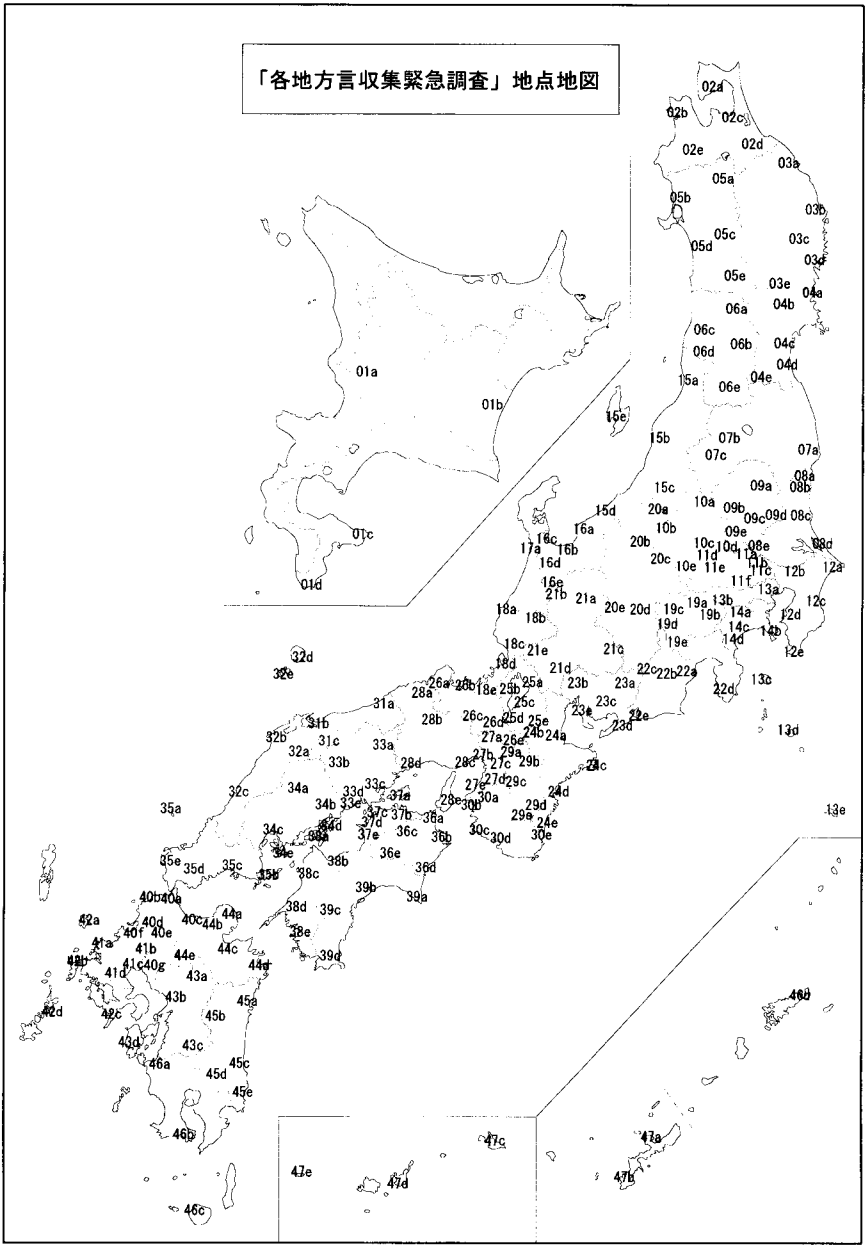
埼玉県
11a 加須市
11b 南埼玉郡宮代町
11c 春日部市
11d 児玉郡上里町
11e 秩父郡長瀞町
11f 入間郡大井町（→ふじみ野市）
千葉県
12a 海上郡飯岡町（→旭市）
12b 印旛郡印西町（→印西市）
12c 長生郡長生村
12d 木更津市
12e 館山市
東京都
13a 台東区
13b 西多摩郡檜原村
13c 大島町
13d 三宅村
13e 八丈町
神奈川県
14a 愛甲郡愛川町
14b 横須賀市
14c 秦野市
14d 小田原市
新潟県
15a 村上市
15b 西蒲原郡分水町（→燕市）
15c 十日町市
15d 糸魚川市
15e 佐渡郡佐和田町（→佐渡市）
富山県
16a 黒部市
16b 富山市
16c 氷見市
16d 砺波市
16e 東礪波郡上平村（→南砺市）
石川県
17a 羽咋郡押水町（→宝達志水町）
福井県
18a 坂井郡芦原町（→あわら市）
18b 勝山市
18c 南条郡南条町（→南越前町）
18d 敦賀市
18e 遠敷郡名田庄村(→大飯郡おおい町)
山梨県
19a 塩山市（→甲州市）
19b 大月市
19c 韮崎市
19d 南巨摩郡早川町［奈良田］
19e 南巨摩郡身延町
長野県
20a 下水内郡栄村
20b 長野市
20c 小諸市
20d 伊那市
20e 木曽郡開田村（→木曽町）

岐阜県
21a 高山市
21b 大野郡白川村
21c 中津川市
21d 岐阜市
21e 揖斐郡徳山村（→揖斐川町）
静岡県
22a 静岡市
22b 榛原郡本川根町（→川根本町）
22c 磐田郡水窪町（→浜松市）
22d 賀茂郡松崎町
22e 浜名郡新居町
愛知県
23a 北設楽郡設楽町
23b 西春日井郡師勝町（→北名古屋市）
23c 岡崎市
23d 豊橋市
23e 常滑市
三重県
24a 安芸郡美里村（→津市）
24b 阿山郡阿山町（→伊賀市）
24c 志摩郡阿児町（→志摩市）
24d 北牟婁郡海山町（→紀北町）
24e 南牟婁郡御浜町
滋賀県
25a 長浜市
25b 高島郡安曇川町（→高島市）
25c 神崎郡能登川町（→東近江市）
25d 大津市
25e 甲賀郡甲賀町（→甲賀市）
京都府
26a 中郡峰山町（→京丹後市）
26b 舞鶴市
26c 船井郡丹波町（→京丹波町）
26d 京都市
26e 相楽郡山城町
大阪府
27a 高槻市
27b 大阪市
27c 八尾市
27d 河内長野市
27e 泉佐野市
兵庫県
28a 豊岡市
28b 朝来郡生野町（→朝来市）
28c 神戸市
28d 相生市
28e 洲本市
奈良県
29a 大和郡山市
29b 宇陀郡榛原町（→宇陀市）
29c 五條市
29d 吉野郡下北山村
29e 吉野郡十津川村
和歌山県
30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
（→岩出市・紀の川市）
30b 和歌山市
30c 御坊市
30d 田辺市
30e 新宮市

鳥取県
31a 鳥取市
31b 米子市
31c 日野郡日野町
島根県
32a 仁多郡仁多町（→奥出雲町）
32b 出雲市
32c 浜田市
32d 隠岐郡西郷町（→隠岐の島町）
32e 隠岐郡西ノ島町
岡山県
33a 勝田郡勝央町
33b 新見市
33c 岡山市
33d 小田郡矢掛町
33e 笠岡市
広島県
34a 三次市
34b 府中市
34c 広島市
34d 因島市（→尾道市）
34e 安芸郡倉橋町（→呉市）
山口県
35a 萩市
35b 大島郡大島町（→周防大島町）
35c 徳山市（→周南市）
35d 美祢市
35e 豊浦郡豊北町（→下関市）
徳島県
36a 鳴門市
36b 阿南市
36c 美馬郡脇町（→美馬市）
36d 海部郡海南町（→海陽町）
36e 三好郡東祖谷山村（→三好市）
香川県
37a 小豆郡土庄町
37b 木田郡三木町
37c 丸亀市
37d 仲多度郡多度津町
37e 観音寺市
愛媛県
38a 越智郡大三島町（→今治市）
38b 西条市
38c 松山市
38d 大洲市
38e 宇和島市
高知県
39a 室戸市
39b 高知市
39c 高岡郡檮原町
39d 幡多郡三原村
福岡県
40a 北九州市
40b 遠賀郡芦屋町
40c 築上郡新吉富村（→上毛町）
40d 飯塚市
40e 嘉穂郡稲築町（→嘉麻市）
40f 福岡市
40g 八女市

佐賀県
41a 東松浦郡鎮西町（→唐津市）
41b 鳥栖市
41c 佐賀市
41d 武雄市
長崎県
42a 壱岐郡芦辺町（→壱岐市）
42b 平戸市
42c 長崎市
42d 南松浦郡奈良尾町（→新上五島町）
熊本県
43a 阿蘇郡阿蘇町（→阿蘇市）
43b 熊本市
43c 球磨郡錦町
43d 天草郡天草町（→天草市）
大分県
44a 東国東郡国東町（→国東市）
44b 宇佐市
44c 大分郡挾間町（→由布市）
44d 佐伯市
44e 日田郡前津江村（→日田市）
宮崎県
45a 延岡市
45b 東臼杵郡椎葉村
45c 宮崎市
45d 北諸県郡山田町（→都城市）
45e 日南市
鹿児島県
46a 出水市
46b 揖宿郡頴娃町
46c 熊毛郡上屋久町
46d 大島郡龍郷町
沖縄県
47a 国頭郡今帰仁村
47b 那覇市
47c 平良市（→宮古島市）
47d 石垣市
47e 八重山郡与那国町

（2006.09.30. 作成）



(2004. 06. 30. 作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1．年次計画

計画＼年度	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
（千円）予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2．調査県一覧

第1次（S.52～54）	第2次（S.53～55）	第3次（S.54～56）	第4次（S.55～57）	第5次（S.56～58）	第6次（S.57～59）	第7次（S.58～60）
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年5月1日
文化庁長官裁定
（昭和62年6月1日廃止）

1．趣旨

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し，必要な事項を定めるものとする。

2．補助事業者

補助事業者は，都道府県とする。

3．補助対象事業

補助対象となる事業は，当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

4．補助対象経費

補助対象となる経費は，次に掲げる経費とし，その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

5．補助金の額

補助金の額は，補助対象経費の2分の1以内の定額とし，750千円を最高限度額とする。ただし，沖縄県については，別途協議して定めるものとする。

（別紙）

名称	対象経費の区分		項	目	目の細分	説　明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	○○謝金	調査員，調査補助員等謝金
					○○文字化謝金	
					○○協力謝金	資料
				旅費	普通旅費	
					費用弁償	
					特別旅費	
				需用費	消耗品費	野帳等文具，録音用テープ
					印刷製本費	調査報告用紙
					会議費	企画委員会打合会
				役務費	通信運搬費	郵便，電信電話料等
				使用料及び賃借料	会場借上料	
					器具借上料	
				委託料	○○委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年7月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては，文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか，この実施要領によるものとする。

1．地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては，県下の方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また，離島など，特色の認められる方言は，可能な限り収録するよう努めなければならない。

2．録音内容・話者

ア　老年層話者による会話

収録内容――次の3種類の対話又は会話を収録する。

(1)　老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話

(2)　老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話

(3)　老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話

話者の年齢など――原則として，収録時において60歳以上とし，やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また，話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴――その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り，婿入りした人は採らない。ただし，女性については，他に適当な人が求められないときは，近隣地域から嫁入りした人でも，収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者――主たる話者のほかに，話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は，あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し，会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題――自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ　老年層と若年層との会話

収録内容――老年層の男性と若年層の男性との対話，又は，両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など――老年層については前項アに準ずる。若年層については，原則とし

て20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴――老若ともアに準ずる。

ウ　目上の者と目下の者の会話

収録内容――目上，目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として，たとえば，僧侶対その檀家に当たる人物，その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業，漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢――目上，目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴――原則として前項アに準ずる。ただし，目上に当たる者については，在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので，アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ　場面設定の会話

目的と方法――自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容――各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し，各場面の録音量は，1～3分程度とする。

話者――場面に応じて老年層の男性どうしの対話，老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ　民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3．録音機・録音技術

必ず，ステレオで録音することとし，テープは，オープン，カセットのいずれでもよい。この調査は，自然な方言会話を良い録音で収録し，それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は，録音技術に習熟した者が行い，会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお，良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

①　雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音，とびらの開閉音，机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など），紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

②　内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないので，必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③　マイクはなるべく話者の近くに配置し，どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があることが多いので，この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には，音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④　テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤　カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4．文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし，文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には，共通語訳を付けるとともに場面，文脈，特徴的音声，方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5．収録地点の概観，話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通，地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また，話者の経歴，録音内容などについては，「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1．調査（方言収録）の年次計画（(　) は実施要領・文字化の時間数）

○　第1年次

①　老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）

②　老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○　第2年次

①　目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）

②　老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○　第3年次

①　老年層と若年層との会話（イ・1時間）

②　場面設定の会話（エ・1時間）

③　民話（オ・1時間）

（注）　3年次の「③　民話」の収録不能のときは，2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2．調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

・正……収録した生のテープ　1部

・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　2部

(2)　文字化原稿

・正……手書き原稿　1部

・副……正のコピー　2部

3．調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO.正

○　○　県　—○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点

2　採録年月日

3　話題・時間　A面　(　　)分

B面　(　　)分

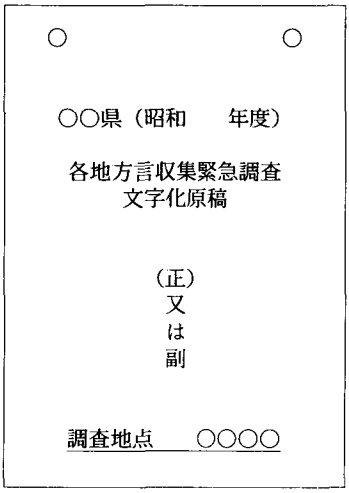
4　話者

5　採録機種

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，(1)録音内容記録票，(2)収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），(3)録音文字化原稿の順で表紙（B 4 板目紙）を付けて綴ってください。



(3) 文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙
（別紙のとおり）

調査実施上の留意事項について

1　調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	①　老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（ア-(1)） ②　老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（ア-(2)）	10	2 1
2年次	①　目上の者と目下の者の会話（男性2人)(ウ) ②　老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（ア-(3)）	10	2 1
3年次	①　老年層と若年層との会話（イ） ②　場面設定の会話（エ） ③　民話（オ） （民話が収録できないときは，（注）参照。）	10	1 1 1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため，収録が不可能な地点は，老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが，長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2　調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

正……収録した生のテープ　1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　2部

(2)　文字化原稿

正……手書き原稿　1部

副……正のコピー　2部

3　調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO.正

○　○　県　　—○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点

2　採録年月日

3　話題・時間　A面　　(　　)分

B面　　(　　)分

4　話者

5　採録機種

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2)　文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，(1)録音内容記録票，(2)収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），(3)録音文字化原稿の順で表紙（B 4 板目紙）を付けて綴ってください。

○　　○

○○県（昭和　　年度）

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

（正）
又
は
副

調査地点　○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙
（別紙のとおり）

（用紙の印刷発注については，国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。）

4 文字化原稿の記入について（国語研・言語変化研究部でまとめたもの）

(1) 原稿用紙には，「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり，「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を，「解説用紙」には収録地点の概観，収録方言の特色，表記法についての説明，文字化内容についての注記などを記入する。

(2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。（青インキは不可。）

割付用紙への記入

① 割付用紙の第1ページには，タイトル（録音内容を代表するようなもの），話し手の略号・氏名・性・生年を記入し，一段あけて，録音内容の文字化・標準語訳を記入する。（記入例参照）

② 割付用紙の左端の［　］には話し手の略号を記入する。

③ カウンターつきの録音機を使用した場合は，その番号を要所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。

④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分かち書きとし，各センテンスの末尾に句点「。」「，」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお，談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが，あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは，利用者の便宜，文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし，対象とする方言の性格によって，カナ表記では特殊な字母を多数必要とし，かえって煩雑になると判断される場合は，国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻（音素）表記は採らない。これは，音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や，自然会話にしばしば現われる無造作な発音，また，標準語的な発音の混入などを，解釈を加えずに，音声学的に記述しようとする意図による。なお，カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから，それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については，解説（表記法の項）で説明しておいていただきたい。

エ 長音，鼻音，あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合，原則として次の方式によってほしい。

（ア） 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

（イ） ガ行鼻音は，カ゜キ゜ク゜…のように表わす。

例 カカ゜ミ［kaŋami］（鏡）

（ウ） 鼻音化には「ˣ」（上つき小字のン）を用いる。

例　マˣド［ma˜do］（窓）

カˣゴ［ka˜go］（籠）　—高知方言など—

（エ） 合拗音の［kwa］［gwa］はクヮ，グヮのように表わす。

例　クヮジ［kwaʒi］（火事）　—九州方言など—

（オ） ［ʃe］［dʒe］はシェ，ジェのように表わす。

例　シェナカ［ʃenaka］（背中）　—九州方言など—

（カ） ［ti］［di］はティ，ディ，［tu］［du］はトゥ，ドゥのように表わす。

例　トゥキ［tuki］（月）　—高知方言など—

（キ） ［Φa］［Φi］［Φe］…はファ，フィ，フェのように表わす。

例　フェンビ［Φe˜bi］（蛇）　—奥羽方言など—

（ク） ［je］の音はイェで表わす。

例　イェダ［jeda］（枝）　—九州方言など—

（ケ） ［æ］［kæ］［sæ］…はアェ，カェ，サェのように表す。

例　アカェー［akæ:］（赤い）　—岡山方言など—

（コ） ［ɛ］［kɛ］［sɛ］…はエァ，ケァ，セァのように表わす。

例　アゲァ［agɛ］（赤い）　—奥羽方言など—

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか，あるいは，一般的な字母を使用しておき，そのつど注記欄で説明する。

例　キモノ(注)→注［kçïmono］

オ　アクセント，文末イントネーションの記述の有無は，その表記法を含め，担当者にまかせる。

カ　発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には〰線を付けておく。

例　カステクレァー

キ　幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを〰線付きで記述し，他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例　カステクレァー(注)→注「カステケロエ」または

「カステケロヤ」とも聞こえる。

ク　聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし，最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する（意識する）発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない，すなわち，話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが，このような場合には，文字化担当者に「聞こえる音声」を〰線付きで記述し，話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例　ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ　最終的に聴き取り不能の箇所には，〰線のみを記しておく。

⑤　言いよどみ，言いかさなり，言いなおし，笑い声など。

ア　言いよどみは，その末尾に…線を付ける。

例　オフロ　サキカ。　タベルノ　サキ…。

イ　発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には，次のように（　）を利用し，発言

が重複する部分に＿＿線を付ける。

例　A　ヒルママデ　マズ　スコ゜トモ　オエッカラッテ

（B　ンダケンド　オレァー）　アト　スク゜イ　モッテクッカラ

ウ　重複部分が長い場合や，一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には，改行して，重複部分に＿＿線を付ける。

例　A　アー　バサマ　オチャ　ダシェ　マズ。　チョイット

ナカ゜ス　キター。

B　イヤ　イソカ゜スィンダテ　キョーノー。

エ　言いかけて，それを言いなおした場合には，言いかけた部分に××××××を付ける。

例　アノー　ワズカナ　ゴ　ゴジュー

ゴジューエングラェージャッタカナー。

オ　笑い声などは文字化本文中に（　）に入れて記す。

例　ウレシーナー　（笑）

⑥　標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし，それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には，注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが，標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え，訳しかたが問題となるような箇所については，なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦　注記について

ア　「割付用紙」には注記番号のみを（　）に入れて記し，注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ　注記は，音声的特徴，基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など），方言形の意味・用法・語源，民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など），文脈のねじれ，標準語訳についての補足，話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに，方言形の意味・用法については，できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A　収録地点とその方言について

1　地点名

2　収録地点の概観(位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など)

3　収録した方言の特色

①　方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

②　音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）

③　文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4　その他（地点選定の理由，協力者の氏名，協力内容など）

B　表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲，特殊な表記についての説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C　収録内容の概説，注記など

1　タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）

2　録音年月日

3　録音場所

4　話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。　（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）

5　録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が，この資料の一部を用いて，独自に報告書を刊行している。ただし，市販されているわけではないので，一般には入手しにくい。また，その形態は印刷物であり，電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については，未公開であった。

その後，「各地方言収集緊急調査」報告資料は，文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では，受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために，膨大な報告資料を整備して，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には，一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において，報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は，情報資料研究部第二研究室，担当者は，井上文子であった。所外研究委員として，真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)～17(2005)年度は，「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んだ。担当部門・領域は，情報資料部門第二領域，担当者は，井上文子（情報資料部門第一領域）であった。所外研究委員として，佐藤亮一氏（元東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所），江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成18(2006)年度からは，「日本語に関する蓄積資料の整備」というプロジェクトの一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門は，情報資料部門資料整備グループ，担当者は，井上文子（情報資料

部門資料整備グループ）である。所外研究委員として，佐藤亮一氏（元東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所），江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行っている。

その一方で，平成9(1997)～13(2001)年度には，作成データベース名「全国方言談話資料データベース」，作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として，また，平成14(2002)～18(2006)年度には，作成データベース名「全国方言談話データベース」，作成委員会名「全国方言談話データベース作成委員会」として，科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け，音声資料，文字化資料を電子化する作業を進めた。作成委員長は，佐藤亮一氏（元東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所）であり，「各地方言収集緊急調査」当時，国立国語研究所言語変化研究部第一研究室室長として，調査の計画段階から指導・助言にあたり，調査および報告資料の全体像を把握していた。作成委員としては，江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），井上文子（国立国語研究所情報資料部門資料整備グループ）が担当した。平成13(2001)年度から，「全国方言談話データベース」の公開を開始している。

なお，このデータベースの作成事業で受けた，科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円
平成16年度	168037	7,000,000円
平成17年度	178036	6,500,000円
平成18年度	188023	6,600,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については，日本全国の47都道府県でそれぞれ５地点程度，計200地点あまりにおける，約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと，その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので，現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的よく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが，膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので，段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では，まず，第一段階として，各都道府県につき１地点，計47地点の老年層男女の自然会話を選び，その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには，次のような作業が必要であった。

①録音テープには，正が１本，副が２本ある。正は収録したオリジナルのテープ，副は正より文字化部分のみを編集したもので，いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し，複製を作成する。

②文字化原稿には，正が１部，副が２部ある。正は，文化庁指定のＢ４判の用紙を使用した手書き，副は正のコピーである。正の文字化，共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では，できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。

③文字化原稿の収録地点，話者，談話内容，状況記録などの確認をし，その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。

④今回刊行するものでは，老年層男女の自然談話のうち，各都道府県につき１地点30～50分をめやすとして，データベース化部分に選定する。

⑤データベース化する部分の，文字化テキストと，それに対応するデジタル化した録音音声を抽出する。

⑥音声データをもとに，文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては原資料の文字化原稿に従って行うが，見やすさを優先させたり，全体の

統一を図ったりするため，必要に応じて変更を加える。この作業は，その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。

⑦記号の種類と使い方，句読点，分かち書きなどについて，凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は，見やすさや全体の統一のため，必要に応じて変更を加えているので，「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。

⑧文字化データに沿う形で，注記を整える。原則としては原資料に従って行うが，場合に応じて最低限の変更を加える。

⑨収録地点の概観，方言の特色などの解説については，原則としては原資料に従って行うが，全体の統一を図るため，表記・章立てなどについて，最低限の変更を加える。

⑩調査の概要，収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報，話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。

⑪校正を行った文字データをもとに，文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに，それをpdfファイルにする。

⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて，文字化のtextファイル，共通語訳のtextファイルを作成する。

⑬音声データは，サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bitでデジタル化して，音声ファイル（wave形式）を作成する。そして，それを，文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って，ページ単位に切り，文字化・共通語訳のpdfファイルにリンクさせる。

⑭CD-ROMは、データベースソフトを利用して，文字化・共通語訳の文字列による検索，話者による検索などができるようにする。

⑮CDには，トラックに区切った談話全体の音声を収録する。

⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については，必要に応じて，現地に赴き，収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら，入手に努める。

⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには，可能な限り，文書でデータ公開の通知と確認を行う。

⑱作成過程において，ある程度のデータが蓄積された段階で，CD-ROM，ま

たは，音声はカセットテープ・MD，文字はFDを媒体とした試作版を作成し，モニターに依頼して意見・要望を求め，データベースに反映させる。
⑲検索情報の整備，検索マニュアル，利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は，冊子，CD-ROM，CDから成り，方言談話の音声（waveファイル），文字化（カタカナ表記，textファイル），共通語訳（漢字かなまじり表記，textファイル），文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの（冊子，pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった，音声，文字化，共通語訳の電子化データを備えているので，研究や教育のために加工して，自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては，国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として，熊谷康雄（情報資料部門），委員として，熊谷智子（研究開発部門言語生活グループ），三井はるみ（研究開発部門言語問題グループ），井上優（日本語教育基盤情報センター用例用法グループ），井上文子（情報資料部門資料整備グループ）が担当した。

刊行計画は下記のとおりである。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』　全20巻

各巻：冊子　1冊　A5判　約250ページ，CD-ROM 1枚，CD 1枚

巻数	巻名	ISBN
第1巻	北海道・青森	978-4-336-04361-0
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6
第14巻	鳥取・島根・岡山	978-4-336-04374-0
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9
第18巻	福岡・大分・宮崎	978-4-336-04378-8
第19巻	佐賀・長崎・熊本	978-4-336-04379-5
第20巻	鹿児島・沖縄	978-4-336-04380-1

国立国語研究所資料集 13-20

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第20巻 鹿児島・沖縄

2008年4月24日　発行

編集：独立行政法人国立国語研究所
〒190-8561
東京都立川市緑町10-2
TEL：042-540-4300（代表）
FAX：042-540-4339
URL：http://www.kokken.go.jp

発行：国書刊行会
〒174-0056
東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421（代表）
FAX：03-5970-7427（営業）
URL：http://www.kokusho.co.jp

印刷：エーヴィスシステムズ
製本：河上製本

（平19-15）　ISBN978-4-336-04380-1